在宅介護実態調査報告書

令和５年３月

南　魚　沼　市

● 目　次 ●

1　調査概要 1
1. 調査目的 1
2. 調査方法 1
3. 回収結果 1
4. 報告書の見方 1

2　調査結果 2

調査対象者本人について 2
■ 性別 2
■ 年齢 2
■ 世帯類型 3
■ 要支援度（二次判定結果） 3
■ 障害高齢者の日常生活自立度 4
■ 認知症高齢者の日常生活自立度 5
■ 家族等による介護の状況 6

（1）在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討 8
1. 施設等検討の状況 8
2. 主な介護者が不安に感じる介護 10
3. サービス利用の組み合わせ 13
4. サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係 17
5. サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係 19
6. サービス利用の回数と施設等検討の状況の関係 22
7. サービス利用の回数と主な介護者が不安に感じる介護の関係 25

（2）仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討 32
1. 主な介護者の就労状況 33
2. 主な介護者が行っている介護と就労継続見込み 36
3. 介護保険サービスの利用状況・不安に感じる介護と就労継続見込みの関係 39
4. サービス利用の組み合わせと就労継続見込みの関係 42
5. 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況 44
6. 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援 47

（3）保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討 51
1. 保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス 51
2. 世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス 53
3. 世帯類型×要介護度×保険外の支援・サービスの利用状況 55
4. 世帯類型×要介護度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス 59

（4）将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討 63
1. 要介護度と世帯類型 63
2. 要介護度別・世帯類型別の家族等による介護の頻度 64
3. 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別サービス利用の組み合わせ 66
4. 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別施設等検討の状況 69

（5）医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討 72
1. 要介護度別・世帯類型別主な介護者が行っている介護 72
2. 訪問診療の利用割合 75
3. 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ 76
4. 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無 77
（6）サービス未利用の理由など 78
1. サービス未利用の理由 78
2. 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス 81
3. 本人の年齢別・主な介護者の年齢 85
4. 要介護度別の抱えている傷病 86
5. 介護者の離職の状況 88

1　調査概要

1.　調査目的

本調査は、令和 5 年度に策定する第 9 期介護保険事業計画において、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を検討し、これからの介護保険サービス等、施策の充実を図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2.　調査方法

■ 調査対象者：令和 4 年 10 月 20 日時点において、市内在住で要支援・要介護認定を受けている方のうち、主に在宅で生活されている方 1,000 人
■ 調 査 期 間：令和 4 年 11 月 15 日～令和 4 年 12 月 15 日
■ 調 査 方 法：郵送による配布・回収

3.　回収結果

■ 調査対象者数：1,000 人
■ 回収数（回収率）：677 件（67.7%）　■ 有効回答数：667 件
■ 認定データ調査数：667 件

※ アンケート調査結果と認定・給付データを突合し、集計を行っているため、n 値に変動があります。

4.　報告書の見方

① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
② 回答の比率（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。このため、回答率の合計が 100.0%にならない場合があります。
③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が 100.0%を超えることがあります。
④ 集計結果については、基本属性等が不明・無回答なものがあるため、集計により n 値（回答者数）が一致しない場合があります。
⑤ クロス集計結果については、無回答を除いて集計しているため、単純集計の数値とは一致しないことがあります。
⑥ 設問により、令和元年に実施した前回調査結果と比較したグラフで性別、世帯類型等の一部集計結果のグラフを表記しています。

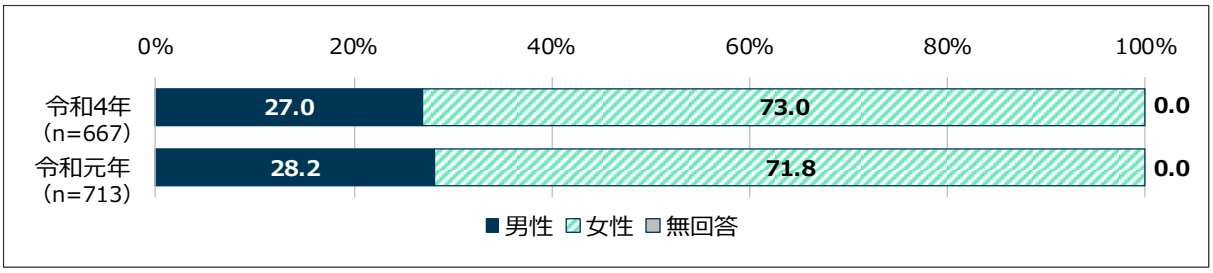
※ クロスグラフの該当者数「n」が少数の場合は、その傾向に注意が必要です。

2　調査結果

調査対象者本人について

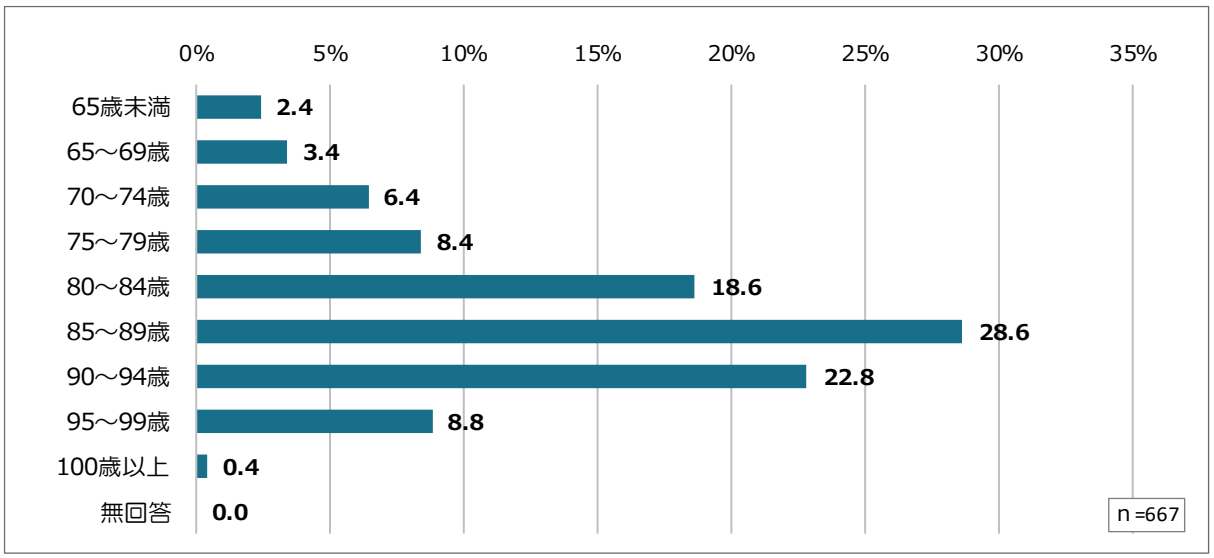
■ 性別

「女性」の割合が高く 73.0%となっています。



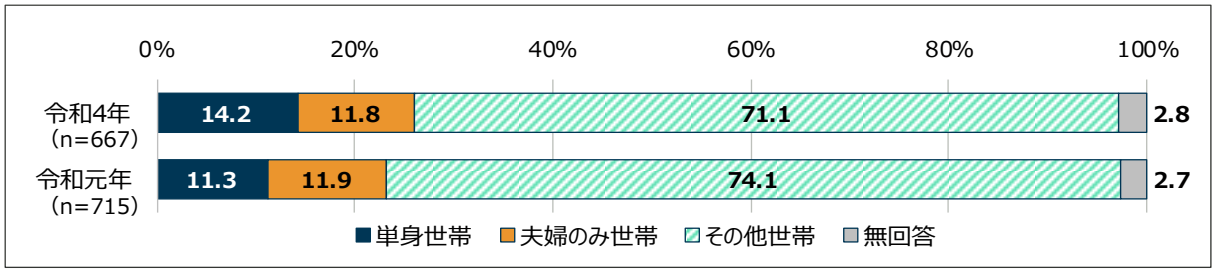
■ 年齢

「85～89 歳」が 28.6%と最も高くなっています。年齢を 2 区分にすると「65 歳未満～74 歳」が 12.2%、「75 歳以上」が 87.6%となっています。



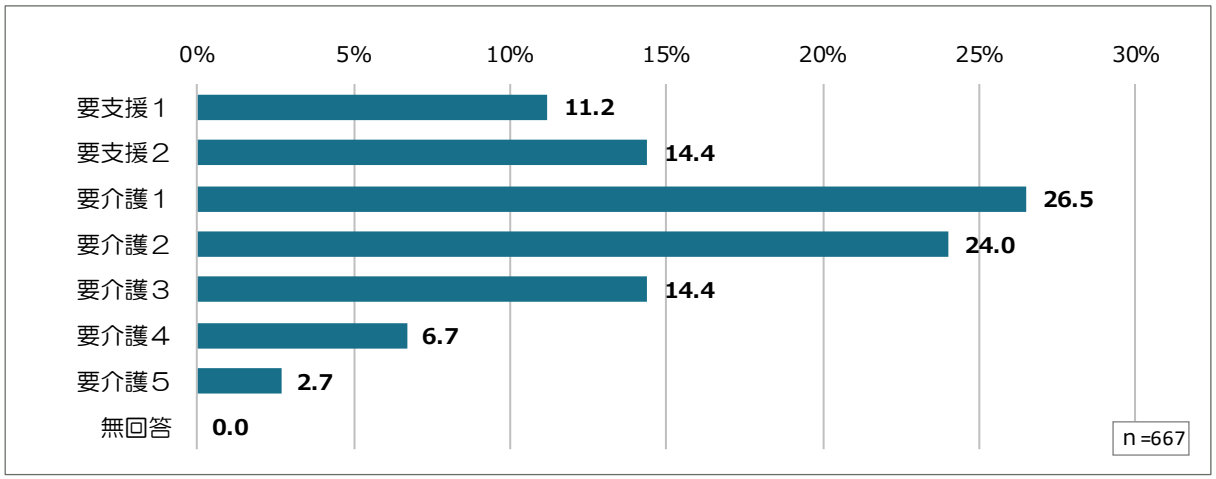
■ **世帯類型**

「単身世帯」が前回調査より 2.9 ポイント増加して 14.2%、「夫婦のみ世帯」が前回調査より 0.1 ポイント減少して 11.8%となっています。最も割合の高い「その他世帯」は、前回調査より 3.0 ポイント減少して 71.1%となっています。



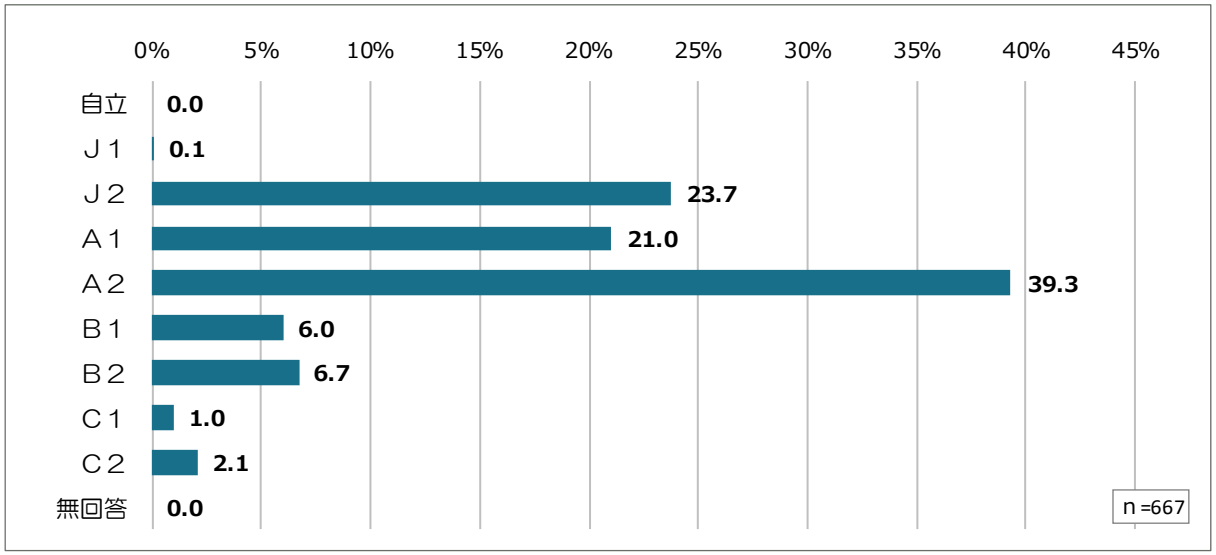
■ **要介護度（二次判定結果）**

「要介護 1」が 26.5%と最も高く、次いで「要介護 2」が 24.0%、「要支援 2」「要介護 3」が 14.4%となっています。



■ **障害高齢者の日常生活自立度**

準寝たきりにあたる「Ａ２」が 39.3%と最も高く、次いで「Ｊ２」が 23.7%となっています。



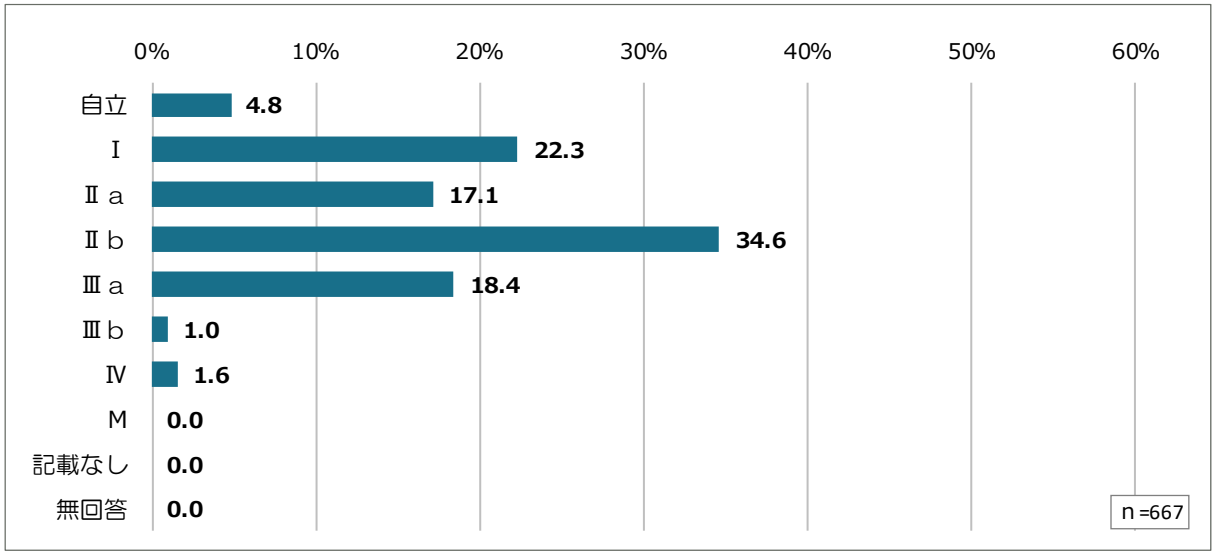
障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定の基準

ランク		判定基準
生活自立	ランクＪ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1．交通機関等を利用して外出する 2．隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランクＡ	屋内での生活はおおむね自立しているが、介助なしには外出しない 1．介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2．外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランクＢ	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1．車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2．介助により車いすに移乗する
	ランクＣ	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1．自力で寝返りをうつ 2．自力では寝返りもうてない

※ 判定にあたっては、補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない。

■ **認知症高齢者の日常生活自立度**

認知症自立度「Ⅱｂ」が 34.6%と最も高く、次いで「Ⅰ」が 22.3%となっています。



認知症高齢者の日常生活自立度判断基準

ランク	判断基準
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している
Ⅱ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる ａ．家庭外で上記Ⅱの状態がみられる ｂ．家庭内でも上記Ⅱの状態がみられる
Ⅲ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする ａ．日中を中心として上記Ⅲの状態がみられる ｂ．夜間を中心として上記Ⅲの状態がみられる
Ⅳ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする

■ 家族等による介護の状況

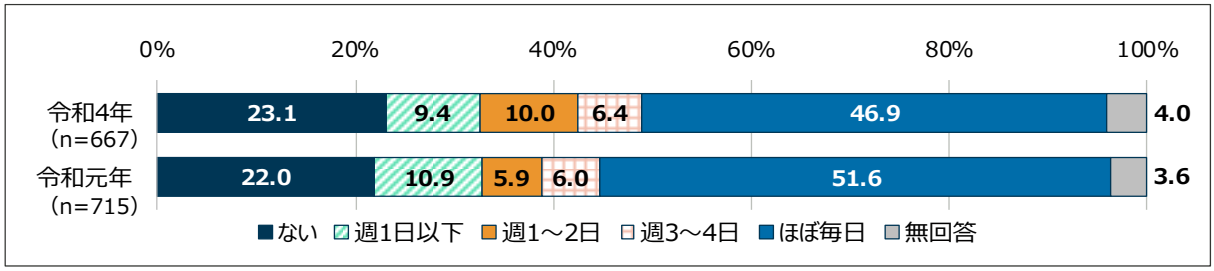
家族等による介護の頻度は「ほぼ毎日」が 46.9%と最も高くなっていますが、前回調査より 4.7 ポイント減少しています。

主な介護者と本人との関係をみると、「子」が 43.9%と最も高く、次いで「子の配偶者」が 22.4%となっています。

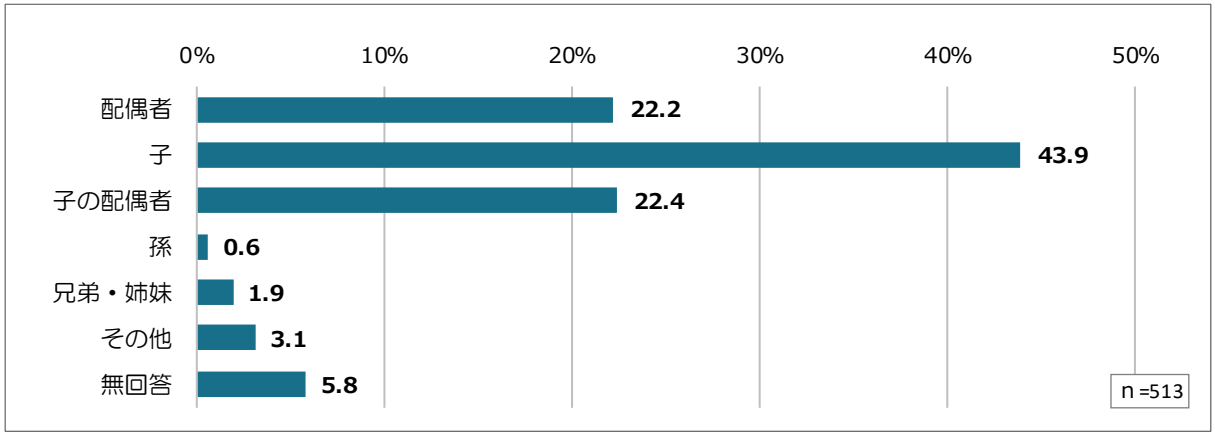
主な介護者の性別は、「女性」が 65.1%となっています。

主な介護者の年齢は「60～69 歳」が 35.3%と最も高くなっています。

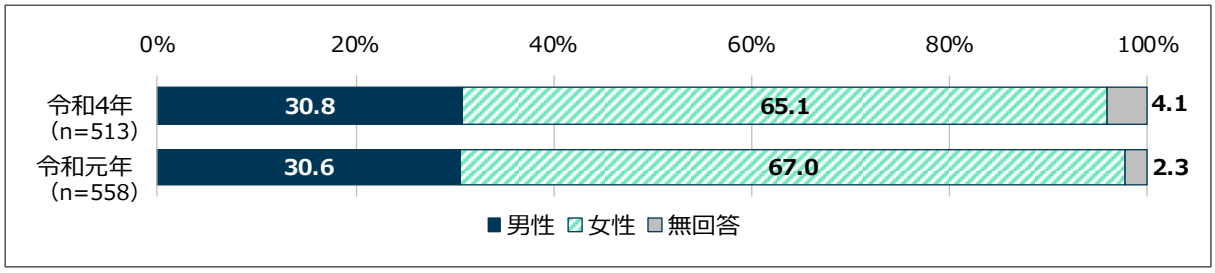
家族等による介護の頻度



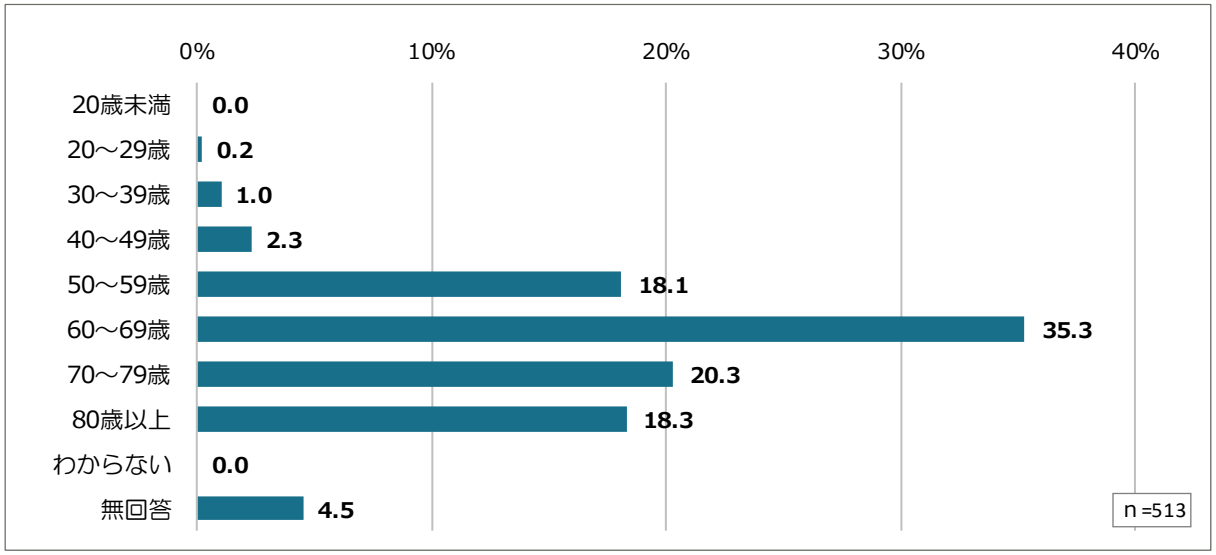
主な介護者と本人との関係



主な介護者の性別



主な介護者の年齢


0%
10%
20%
30%
40%
20歳未満 0.0
20～29歳 0.2
30～39歳 1.0
40～49歳 2.3
50～59歳 18.1
60～69歳 35.3
70～79歳 20.3
80歳以上 18.3
わからない 0.0
無回答 4.5
n =513

（1）在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の２つの視点からの集計を行っています。

○ それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。

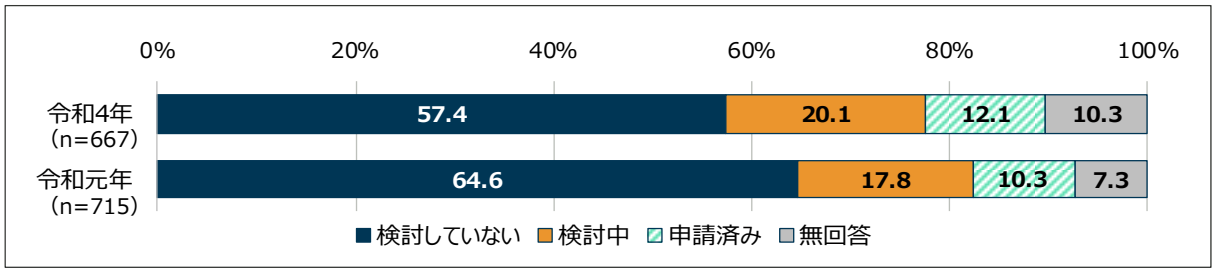
○ なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の２つからなります。

○ また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護３以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1. 施設等検討の状況

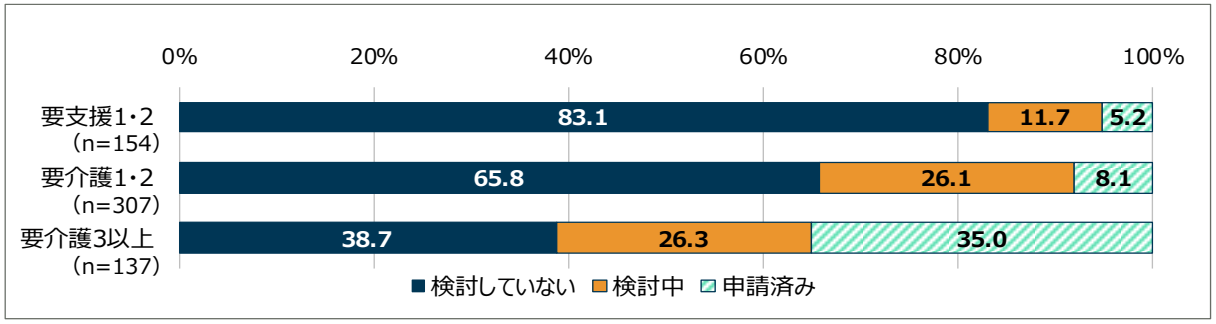
「検討していない」が 57.4%と最も高くなっていますが、前回調査より 7.2 ポイント減少しています。

施設等検討の状況



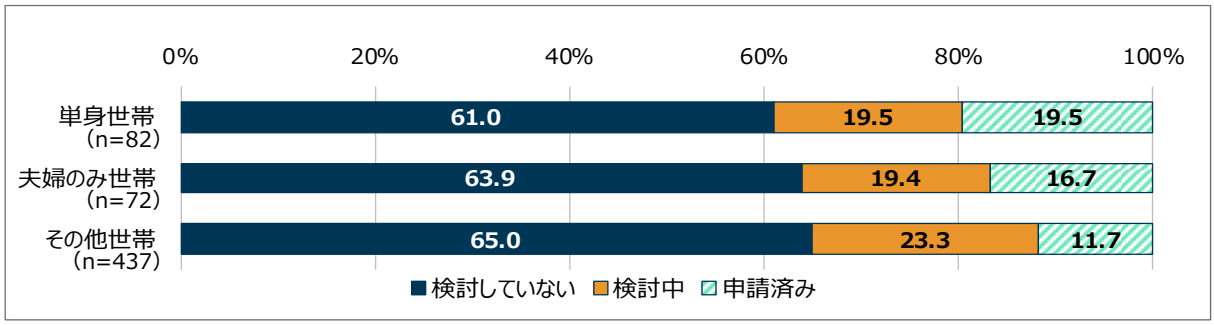
施設等の検討状況を要介護度（二次判定結果）別にみると、要支援１・２で「検討していない」割合が最も高く 83.1%となっています。「検討中」「申請済み」の割合が最も高いのは要介護３以上で、26.3%、35.0%となっています。

要介護度別 施設等検討の状況



施設等の検討状況を世帯類型別にみると、すべての世帯で「検討していない」割合が最も高くなっています。その他世帯で「検討中」の割合がやや高くなっています。

世帯類型別 施設等検討の状況



2. 主な介護者が不安に感じる介護

○ 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています。

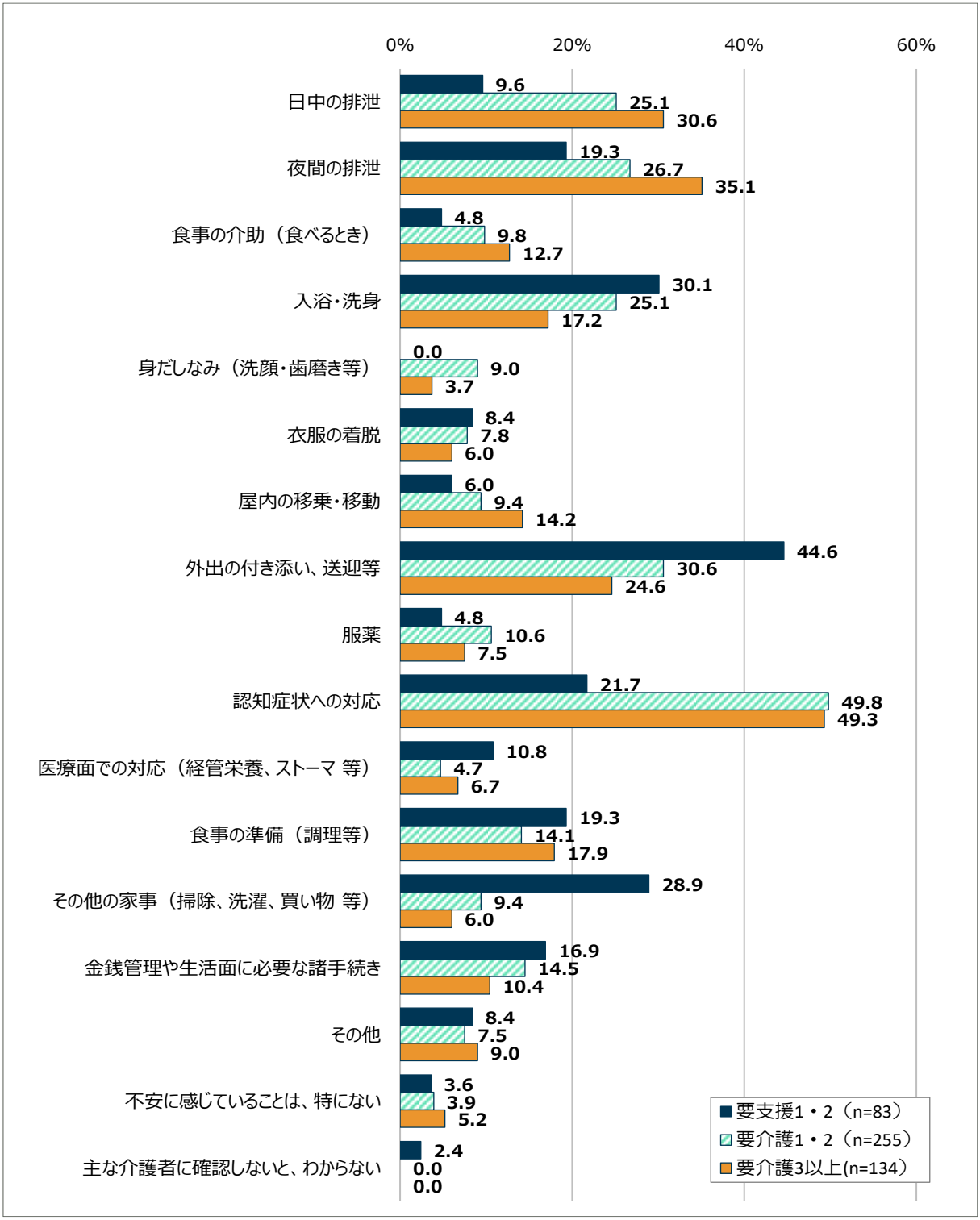
○ ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。

○ ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。

○ また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えると考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

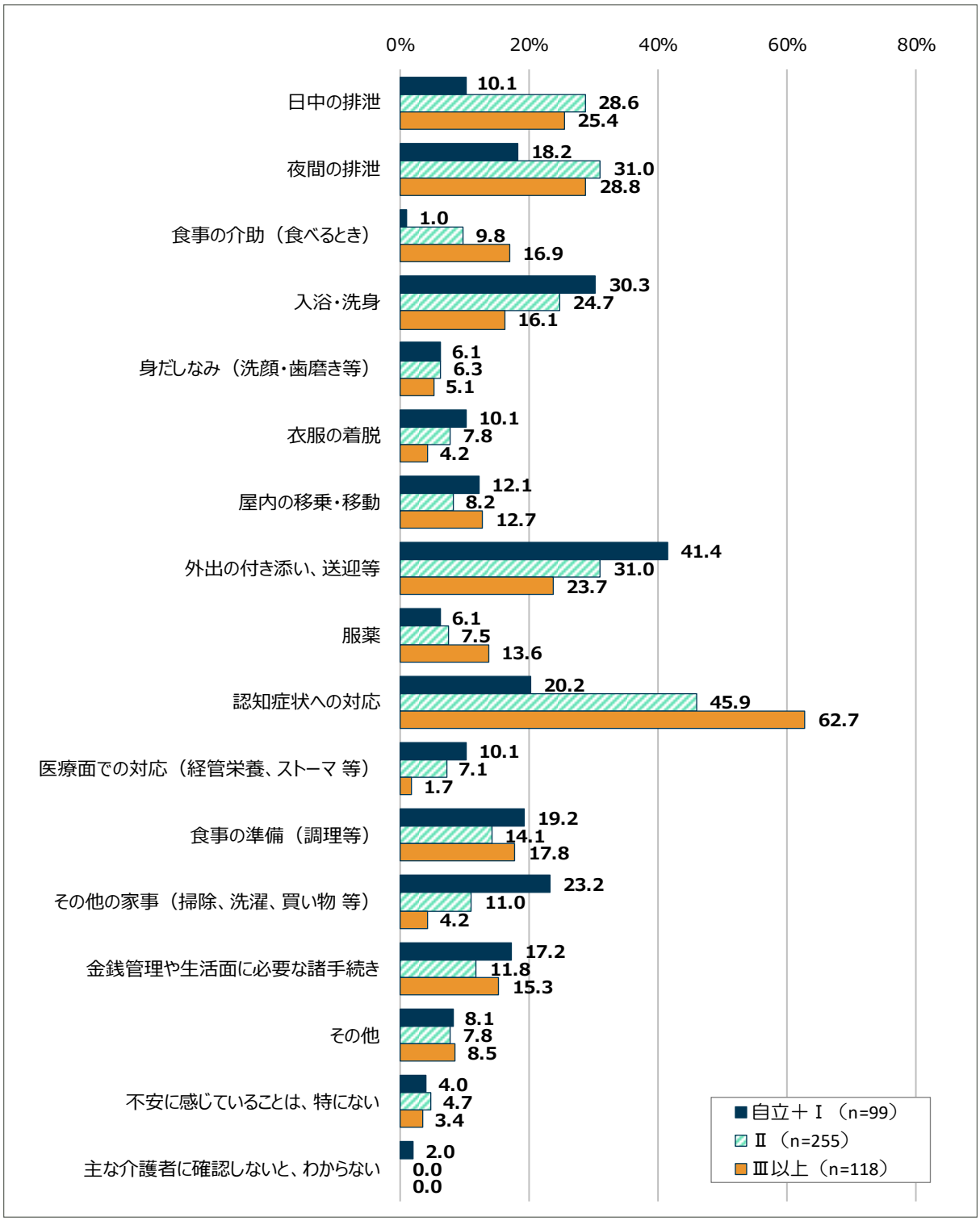
介護者が不安に感じる介護について要介護度別にみると、要支援 1・2 では「外出の付き添い、送迎等」が最も高く 44.6%となっていますが、要介護 1・2 と要介護 3 以上では「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。「夜間の排泄」も要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護 3 以上では 35.1%となっています。

要介護度別 介護者が不安に感じる介護



介護者が不安に感じる介護について認知症自立度別にみると、自立+Ⅰでは「外出の付き添い、送迎等」が41.4%と最も高く、次いで「入浴・洗身」が30.3%となっていますが、認知症自立度Ⅱと認知症自立度Ⅲ以上では重度化に伴い「認知症状への対応」割合が最も高くなっています。

認知症自立度別 介護者が不安に感じる介護



3. サービス利用の組み合わせ

○ ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています。

○ 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

○ さらに、たとえば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の３つに分類して集計しました。介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

サービス利用の分析に用いた用語の定義

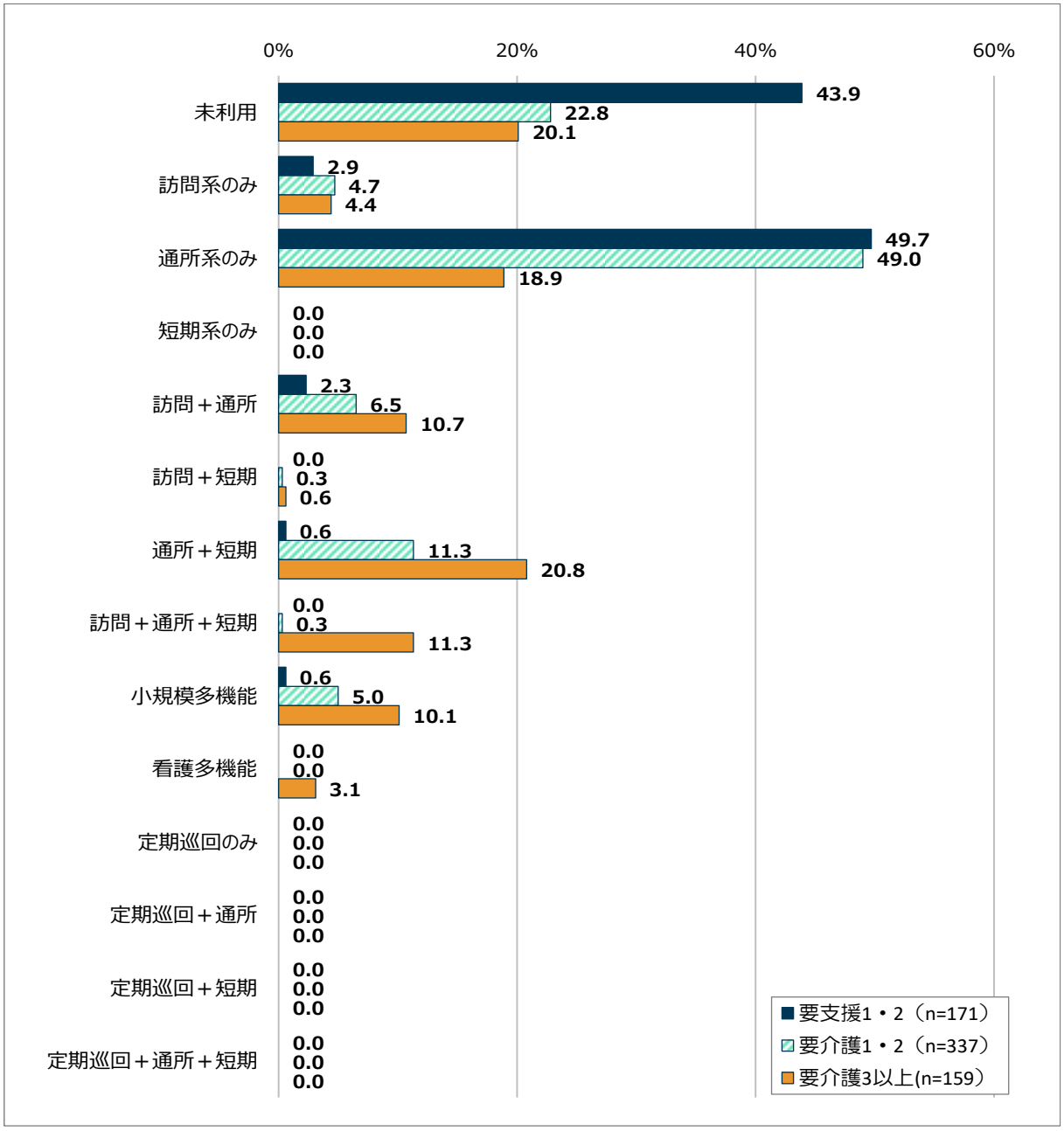
用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

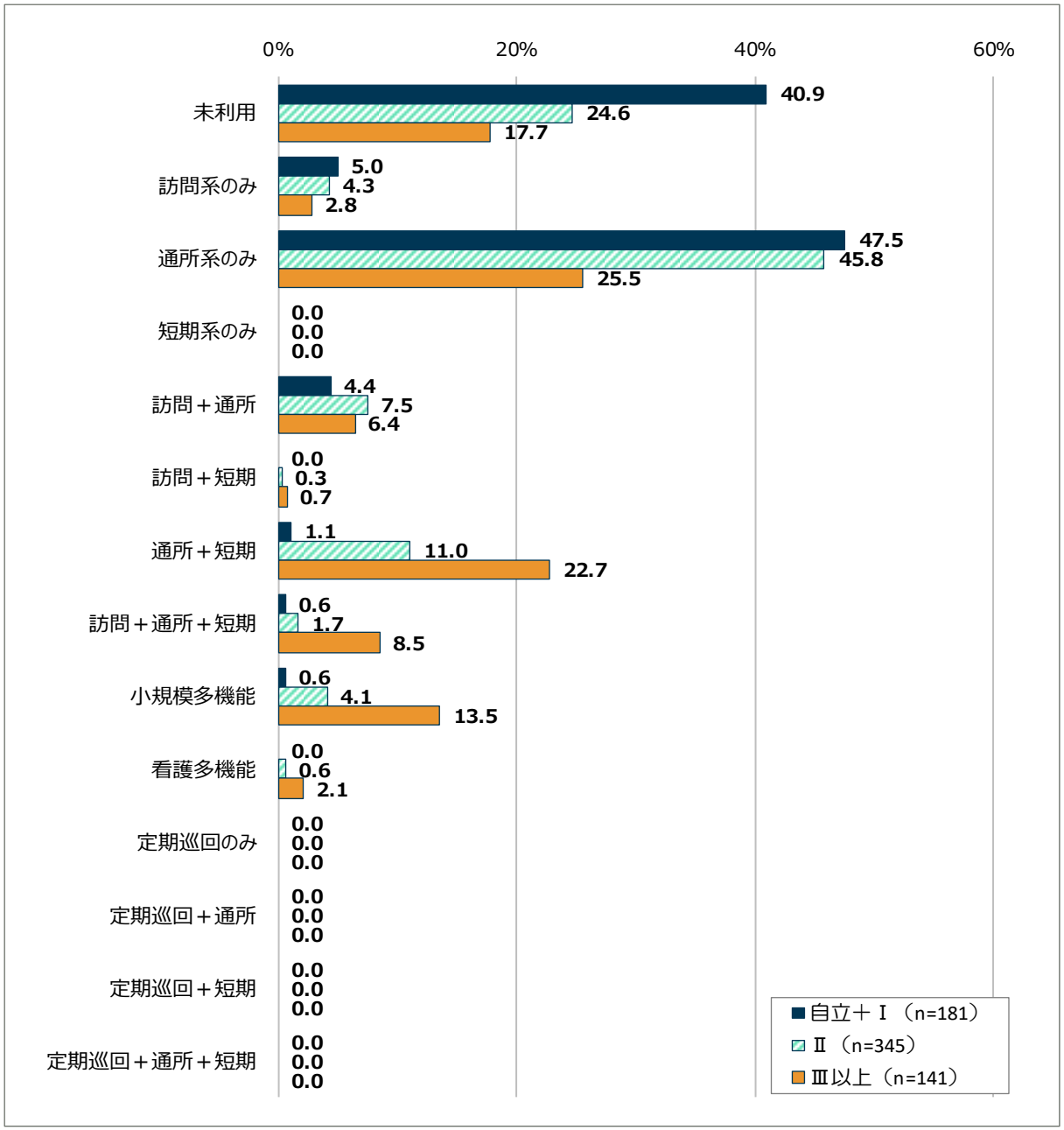
サービス利用の組み合わせについて要介護度別にみると、要支援 1・2 と要介護 1・2 では「通所系のみ」の割合が最も高いのに対し、要介護 3 以上では「通所+短所」の割合が最も高くなっています。「訪問+通所」も要介護度の重度化に伴い割合が高くなる傾向がみられ、要介護 3 以上では 10.7%となっています。また、「未利用」の割合は要介護度の重度化に伴い低くなる傾向がみられます。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ



サービス利用の組み合わせについて認知症自立度別にみると、認知症自立度にかかわらず「通所系のみ」の割合が最も高くなっています。また、「未利用」の割合は認知症自立度の重度化に伴い低くなる傾向がみられます。

認知症自立度別 サービス利用の組み合わせ

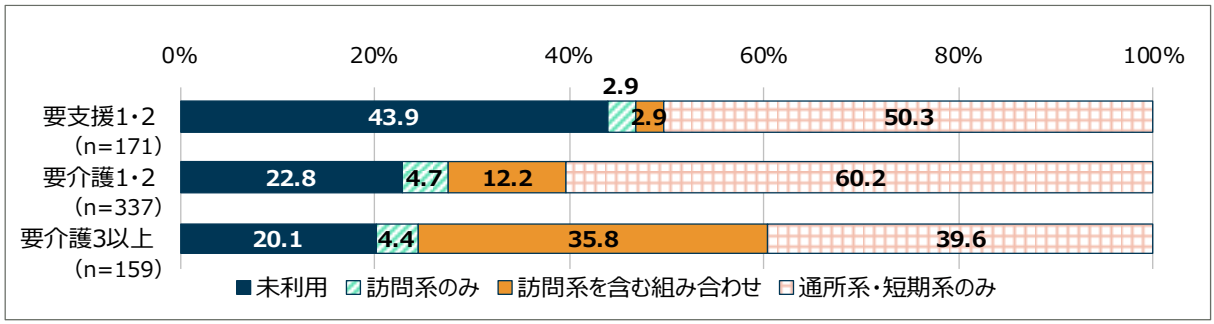


サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその２つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の３種類（未利用除く）に分類し、要介護度別、認知症自立度別に比較しました。

- ○ 組み合わせのパターンが細分化された集計分析と比較して、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- ○ 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- ○ また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

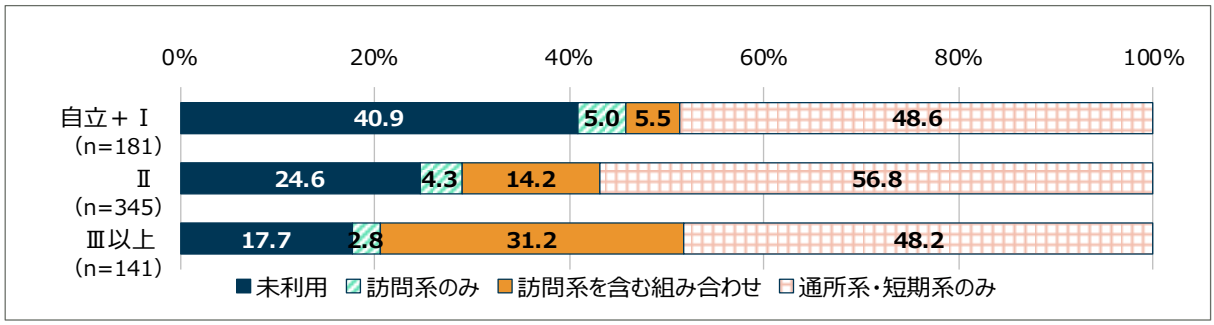
サービス利用の組み合わせについて要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「未利用」の割合が低くなっています。要支援１・２と比べて要介護１・２では「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています。要介護１・２と比べて要介護３以上では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ



サービス利用の組み合わせについて認知症自立度別にみると、認知症自立度の重度化に伴い「未利用」の割合が低くなっています。自立＋Ⅰと比べて認知症自立度Ⅱでは「訪問系のみ」の割合が低く、「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています。認知症自立度Ⅱと比べて認知症自立度Ⅲ以上では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

認知症自立度別 サービス利用の組み合わせ



4. サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係

○ ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護３以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

○ 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○ ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

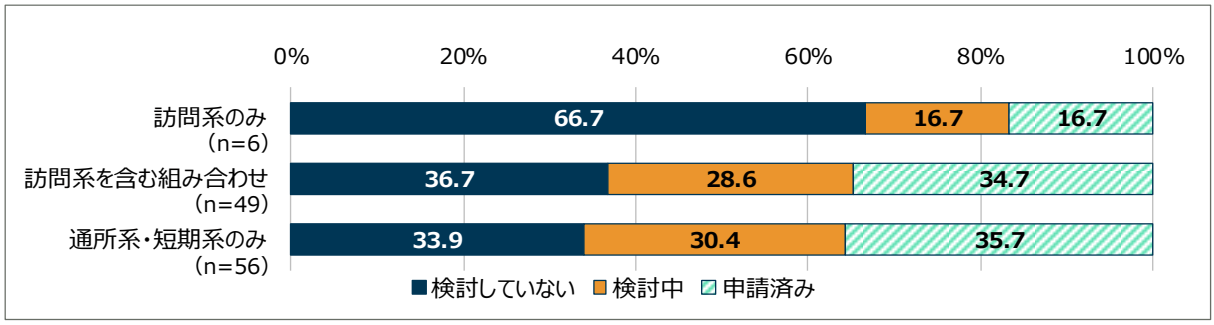
○ 「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析することにより、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。

○ また、表側と表頭を逆にして集計することにより、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。たとえば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。

○ したがって、たとえば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

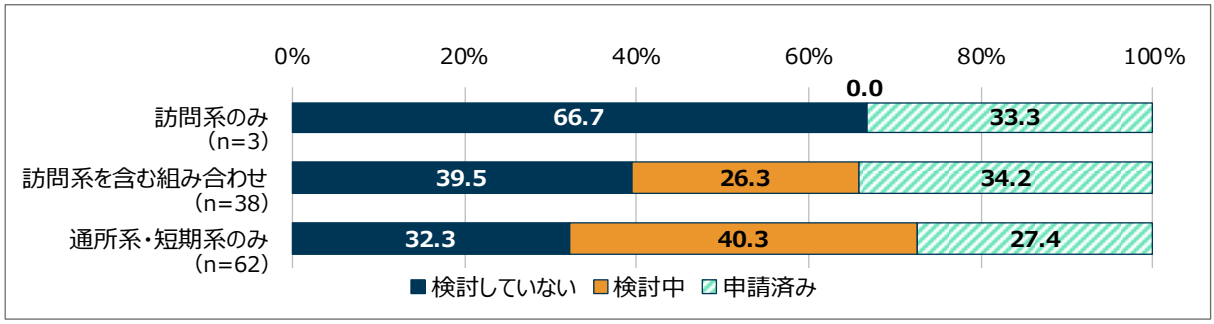
要介護 3 以上の方の施設等検討の状況について、サービス利用の組み合わせ別にみると、訪問系を含む組み合わせで 36.7%、通所系・短期系のみで 33.9%となっています。

サービス利用の組み合わせ別 施設等検討の状況（要介護３以上）



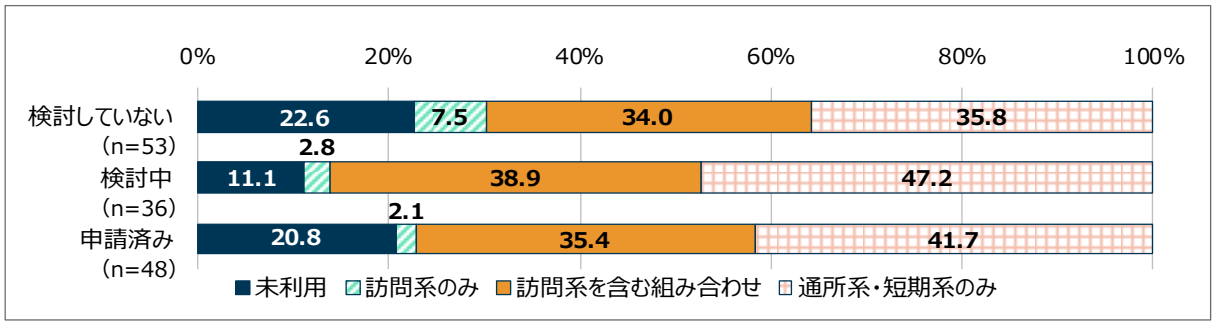
認知症自立度Ⅲ以上の方の施設等検討の状況について、サービス利用の組み合わせ別にみると、通所系・短期系のみで「検討中」の割合が高く 40.3%となっています。

サービス利用の組み合わせ別 施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）



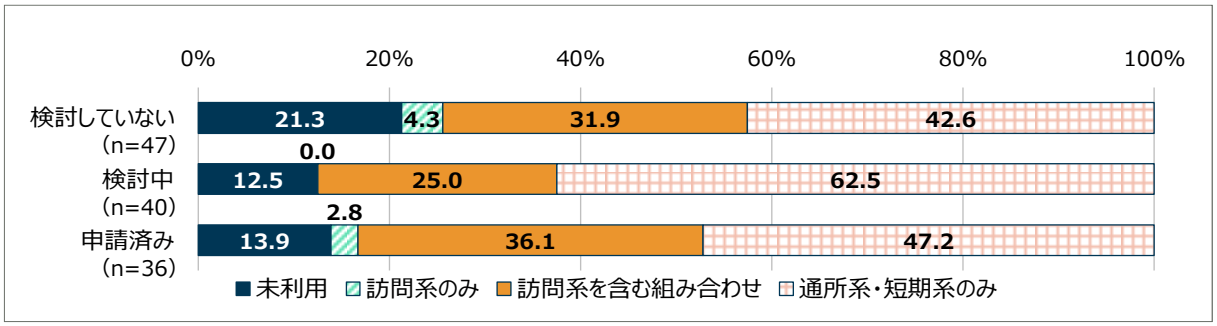
要介護３以上の方のサービス利用の組み合わせについて、施設等検討の状況別にみると、施設等検討の状況にかかわらず「通所系・短期系のみ」の割合が最も高くなっています。施設等への入所・入居を検討していないは「訪問系を含む組み合わせ」の割合が 34.0%となっています。また、検討中で「未利用」の割合が低く 11.1%となっています。

施設等検討の状況別 サービス利用の組み合わせ（要介護３以上）



認知症自立度Ⅲ以上の方のサービス利用の組み合わせについて、施設等検討の状況別にみると、施設等検討の状況にかかわらず「通所系・短期系のみ」の割合が最も高くなっています。次いで「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

施設等検討の状況別 サービス利用の組み合わせ（認知症自立度Ⅲ以上）



5. サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係

○ ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護３以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

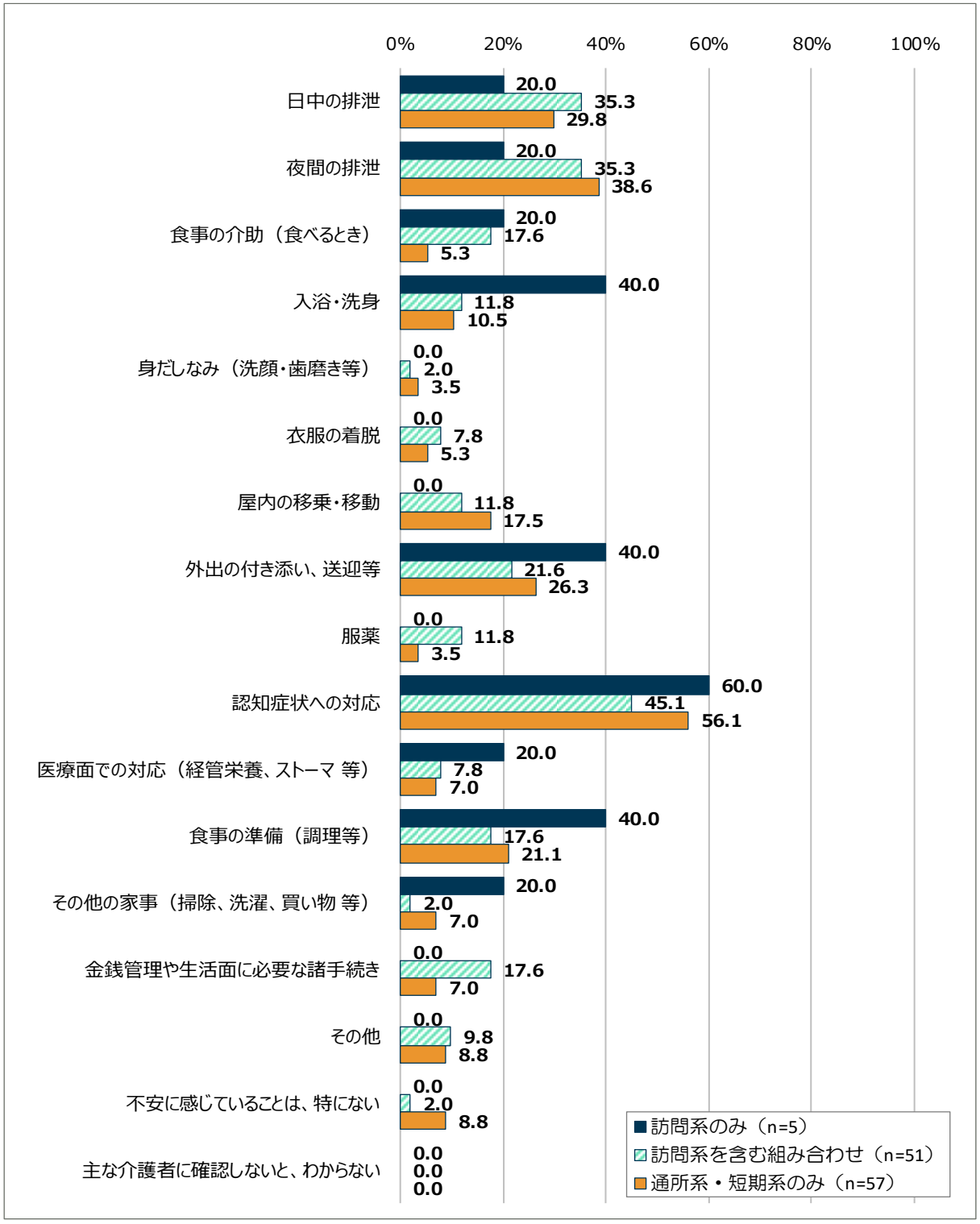
○ 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護　等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○ ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

○ したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

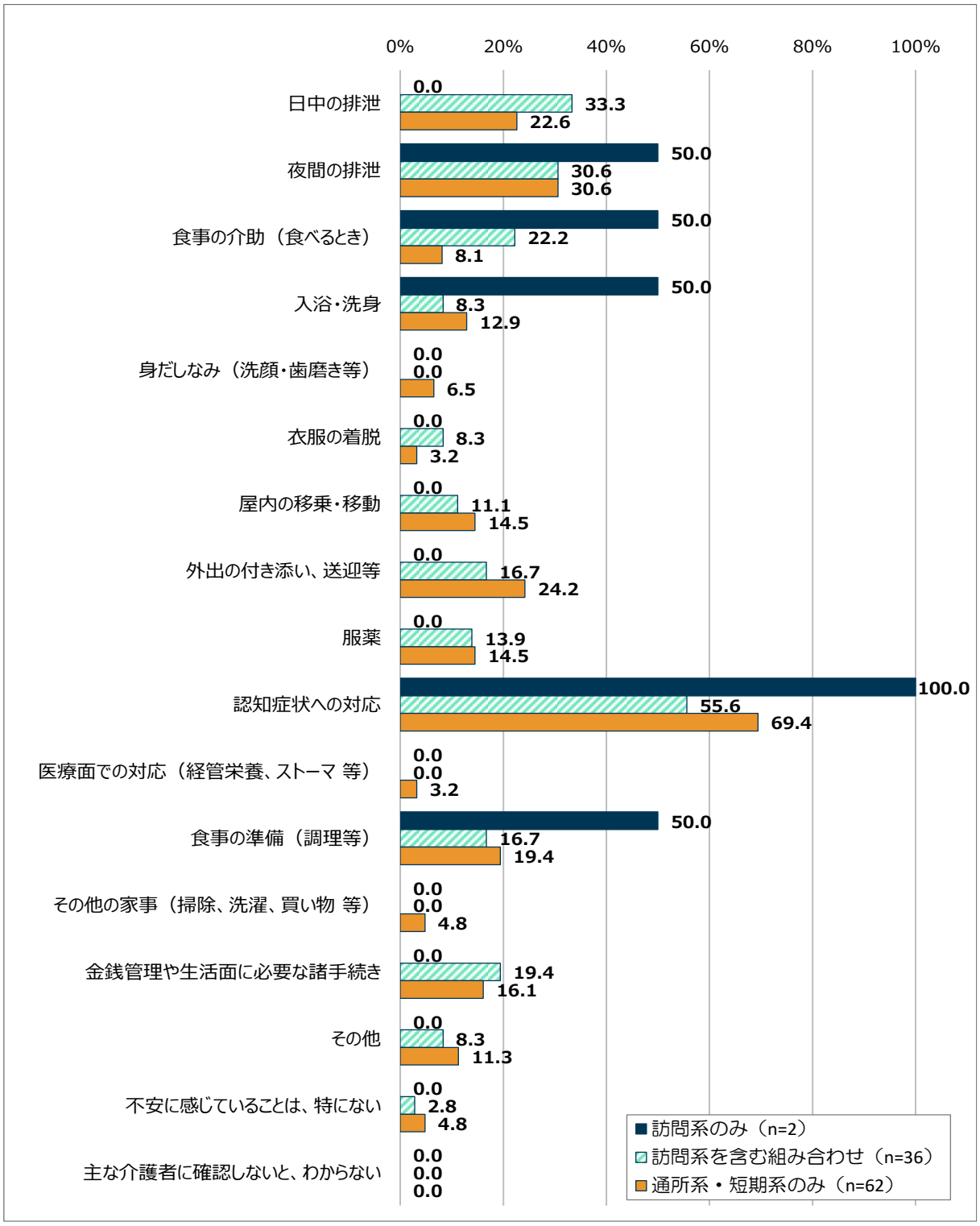
要介護 3 以上の方の介護者が不安に感じる介護について、サービス利用の組み合わせ別にみると、すべてのサービス利用の組み合わせで「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。次いで、訪問系のみは「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」の割合が高く、訪問系を含む組み合わせは「日中の排泄」「夜間の排泄」の割合が高く、通所系・短期系のみは「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

サービス利用の組み合わせ別 介護者が不安を感じる介護（要介護 3 以上）



認知症自立度Ⅲ以上の方の介護者が不安に感じる介護について、サービス利用の組み合わせ別にみると、すべてのサービス利用の組み合わせで「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。次いで訪問系を含む組み合わせは「日中の排泄」の割合が高く、通所系・短期系のみは「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

サービス利用の組み合わせ別 介護者が不安を感じる介護（認知症自立度Ⅲ以上）

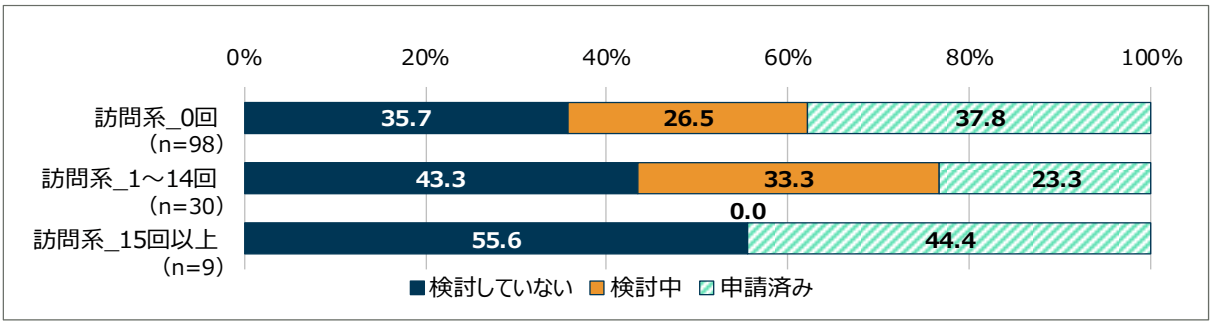


6. サービス利用の回数と施設等検討の状況の関係

- ○ ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護３以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- ○ 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。
- ○ ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- ○ 訪問系、通所系、短期系に分けて集計分析を行っています。
- ○ 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

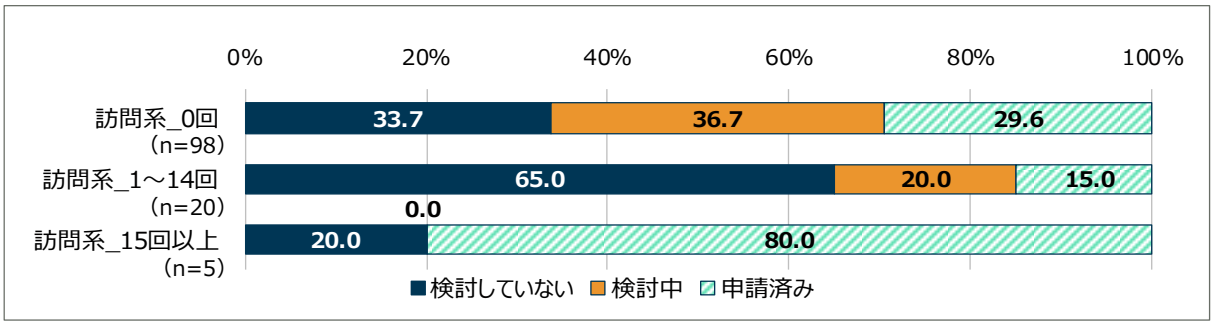
要介護３以上の方の施設等検討の状況について、訪問系サービスの利用回数別にみると、訪問系_15 回以上利用で「検討していない」の割合が最も高く 55.6%となっている一方「検討中」の割合が 0.0%となっています。

サービス利用回数別 施設等検討の状況：訪問系（要介護３以上）



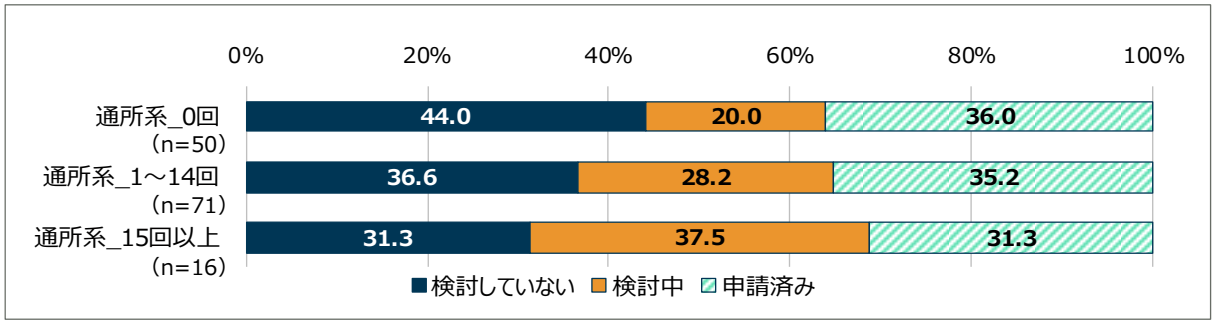
認知症自立度Ⅲ以上の方の施設等検討の状況について、訪問系サービスの利用回数別にみると、訪問系_1～14 回で「検討していない」の割合が高くなっています。

サービス利用回数別 施設等検討の状況：訪問系（認知症Ⅲ以上）



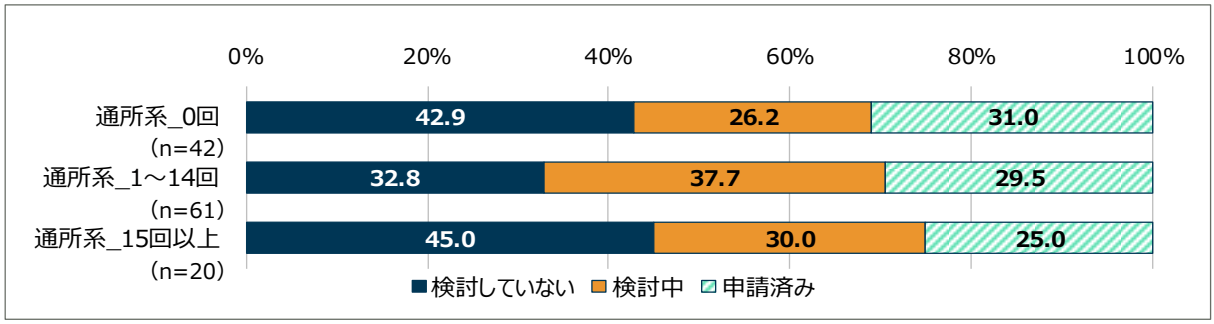
要介護 3 以上の方の施設等検討の状況について、通所系サービスの利用回数別にみると、サービスの利用回数が多くなるほど「検討していない」割合が低くなる傾向がみられます。

サービス利用回数別 施設等検討の状況：通所系（要介護 3 以上）



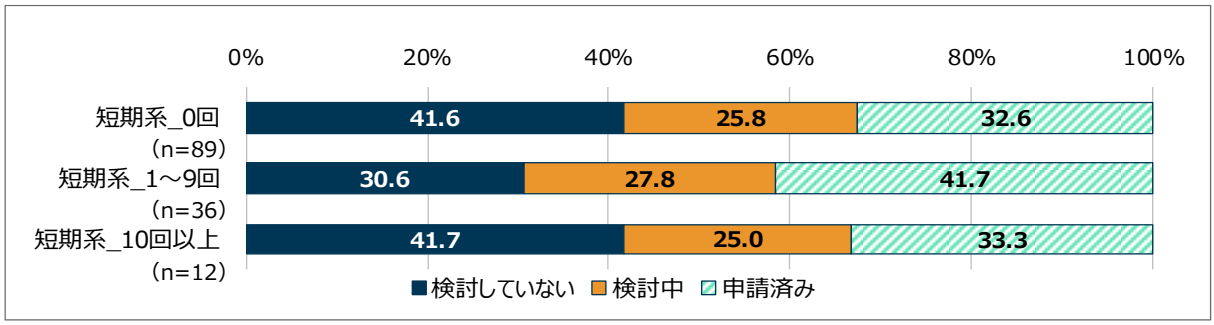
認知症自立度Ⅲ以上の方の施設等検討の状況について、通所系サービスの利用回数別にみると、通所系_1～14 回で「検討していない」の割合が低く 32.8%となっています。

サービス利用回数別 施設等検討の状況：通所系（認知症自立度Ⅲ以上）



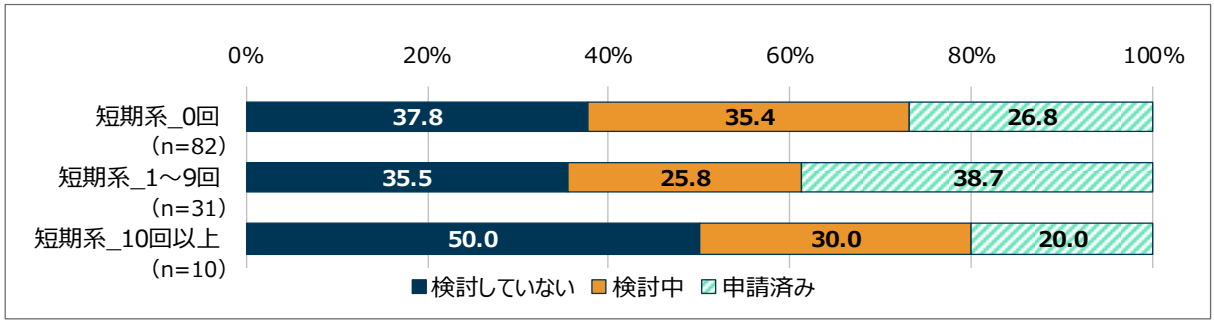
要介護 3 以上の方の施設等検討の状況について、短期系サービスの利用回数別にみると、短期系_1～9 回で「申請済み」の割合が高く 41.7%となっています。

サービス利用回数別 施設等検討の状況：短期系（要介護 3 以上）



認知症自立度Ⅲ以上の方の施設等検討の状況について、短期系サービスの利用回数別にみると、短期系_1～9 回で「申請済み」の割合が高く 38.7%となっています。

サービス利用回数別 施設等検討の状況：短期系（認知症自立度Ⅲ以上）



7. サービス利用の回数と主な介護者が不安に感じる介護の関係

○ ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。

○ 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

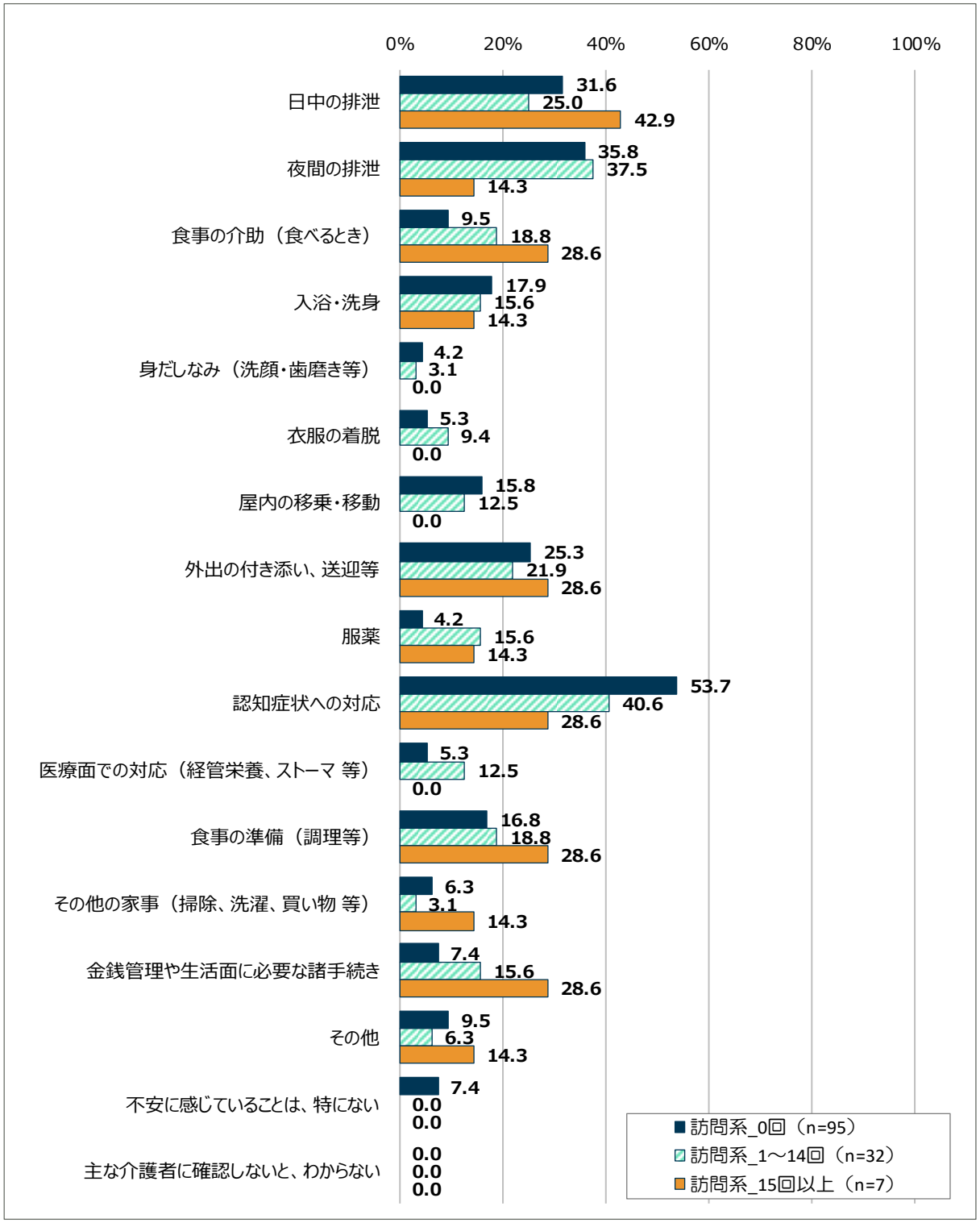
○ ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

○ 訪問系、通所系、短期系に分けて集計分析を行っています。それぞれ、要介護３以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

○ 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

要介護 3 以上の方の介護者が不安に感じる介護について、訪問系サービスの利用回数別にみると、訪問系_0 回～14 回で「認知症状への対応」の割合が高く、次いで「夜間の排泄」が高くなっています。訪問系_15 回以上で「日中の排泄」が高くなっています。

サービス利用回数別 介護者が不安を感じる介護：訪問系（要介護 3 以上）

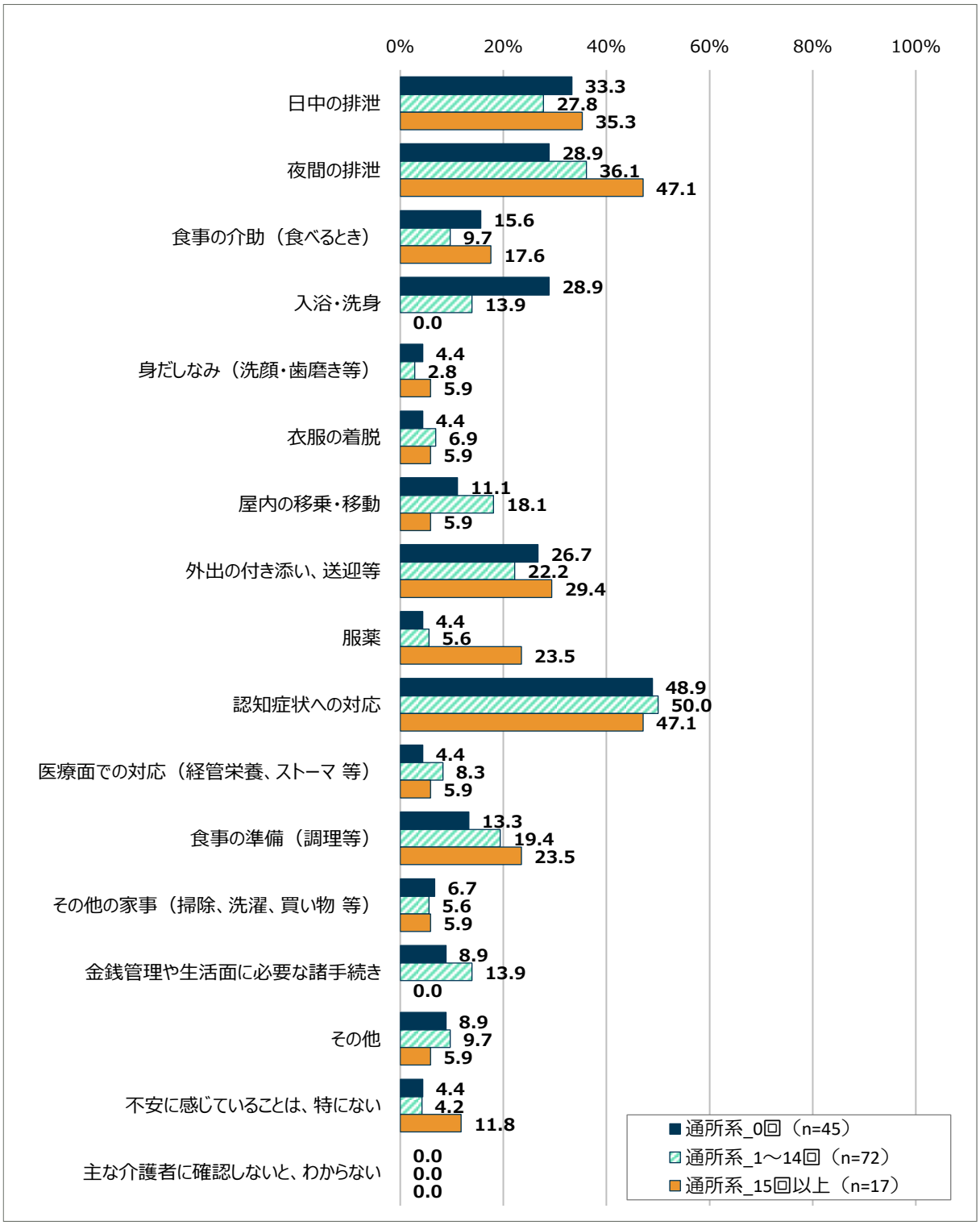


認知症自立度Ⅲ以上の方の介護者が不安に感じる介護について、訪問系サービスの利用回数別にみると、訪問系_0 回～14 回で「認知症状への対応」の割合が高く、次いで「夜間の排泄」が高くなっています。訪問系_15 回以上で「日中の排泄」「食事の介助（食べるとき）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」などの割合が高くなっています。

サービス利用回数別 介護者が不安を感じる介護：訪問系（認知症自立度Ⅲ以上）

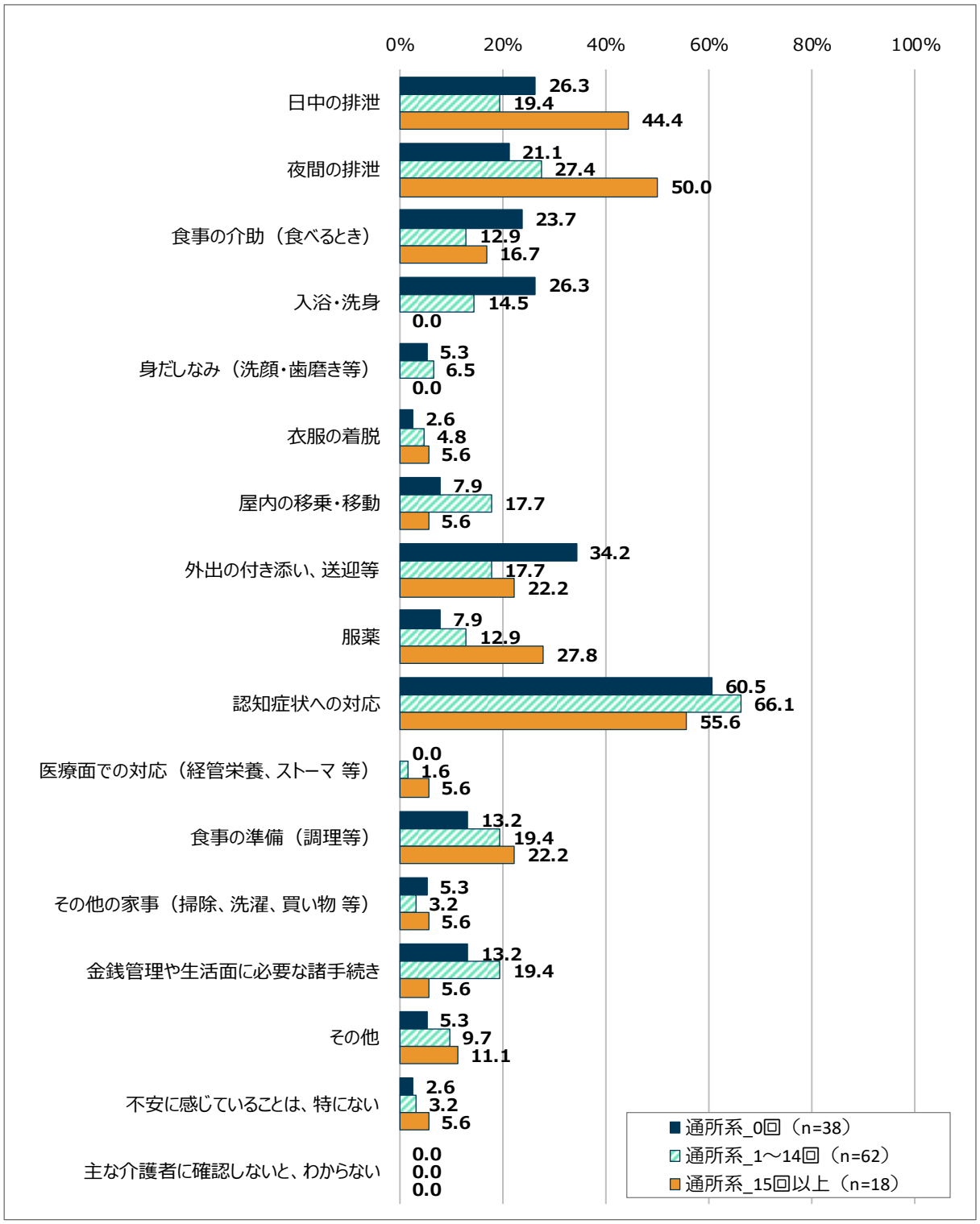
要介護 3 以上の方の介護者が不安に感じる介護について、通所系サービスの利用回数別にみると、すべての利用回数別で「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。次いで通所系_0 回で「日中の排泄」の割合が高く、通所系_1～15 回以上で「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

サービス利用回数別 介護者が不安を感じる介護：通所系（要介護 3 以上）



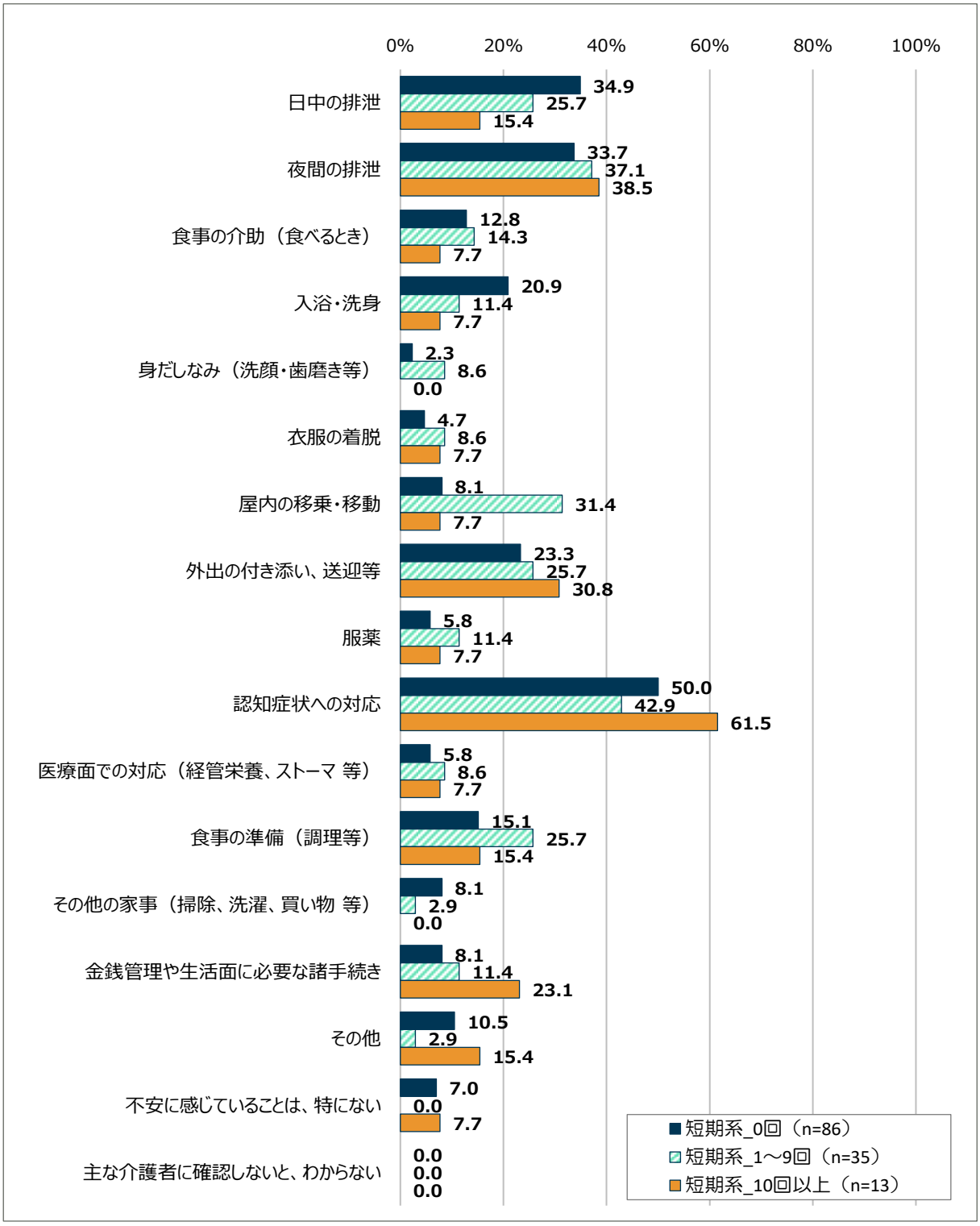
認知症自立度Ⅲ以上の方の介護者が不安に感じる介護について、通所系サービスの利用回数別にみると、すべての利用回数別で「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。次いで通所系_0 回で「外出の付き添い、送迎等」の割合が高く、通所系_1 回～14 回と通所系_15 回以上で「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

サービス利用回数別 介護者が不安を感じる介護：通所系（認知症自立度Ⅲ以上）



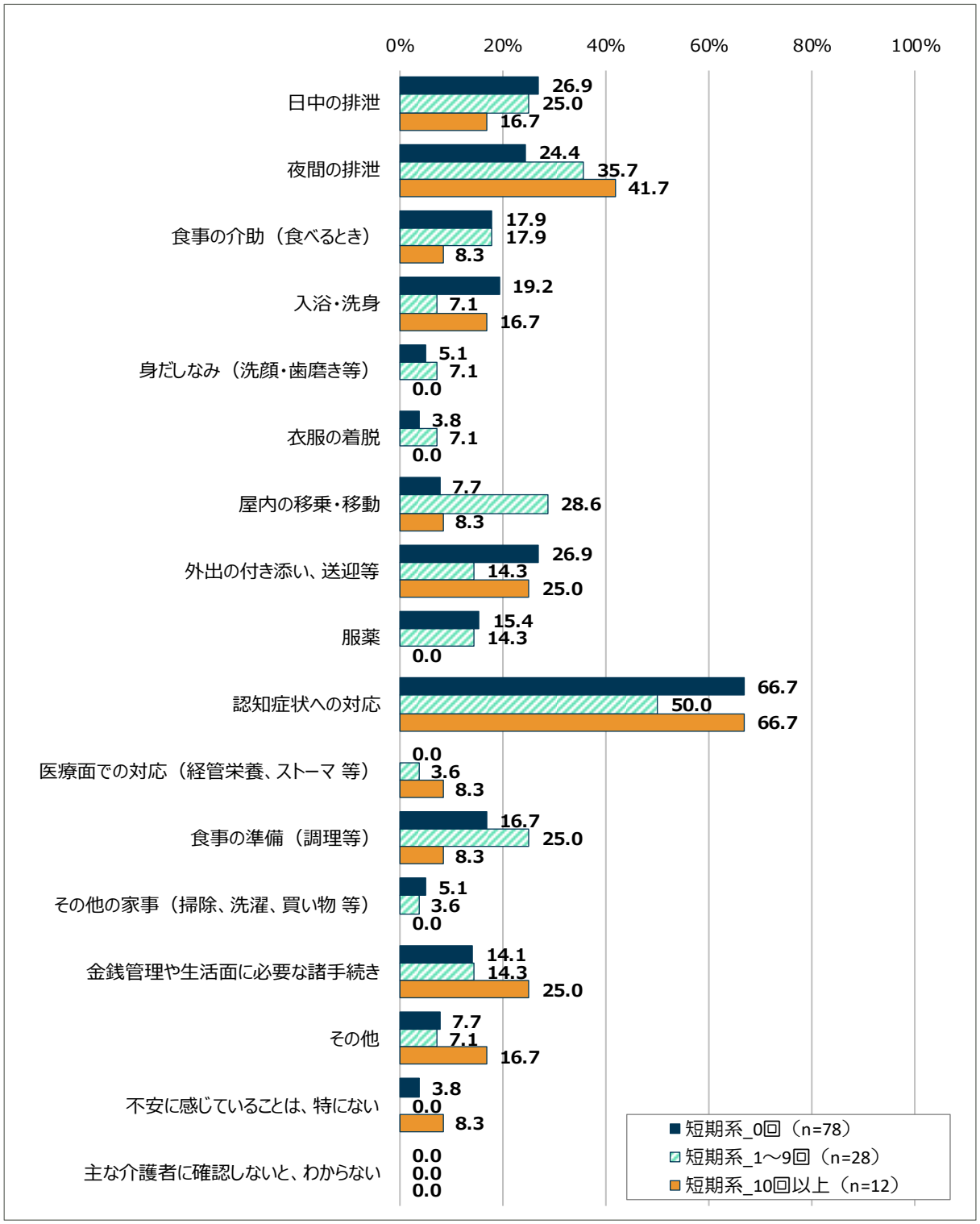
要介護 3 以上の方の介護者が不安に感じる介護について、短期系サービスの利用回数別にみると、すべての利用回数別で「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。次いで短期系_0 回で「日中の排泄」の割合が高く、短期系_1 回～9 回と短期系_10 回以上で「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

サービス利用回数別 介護者が不安を感じる介護：短期系（要介護 3 以上）



認知症自立度Ⅲ以上の方の介護者が不安に感じる介護について、短期系サービスの利用回数別にみると、すべての利用回数別で「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。次いで短期系_0 回で「日中の排泄」「外出の付き添い、送迎等」の割合が高く、短期系_1 回～9 回と短期系_10 回以上で「夜間の排泄」の割合が高くなっています。

サービス利用回数別 介護者が不安を感じる介護：短期系（認知症自立度Ⅲ以上）



（2）仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

○ ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の２つの視点からの集計を行っています。

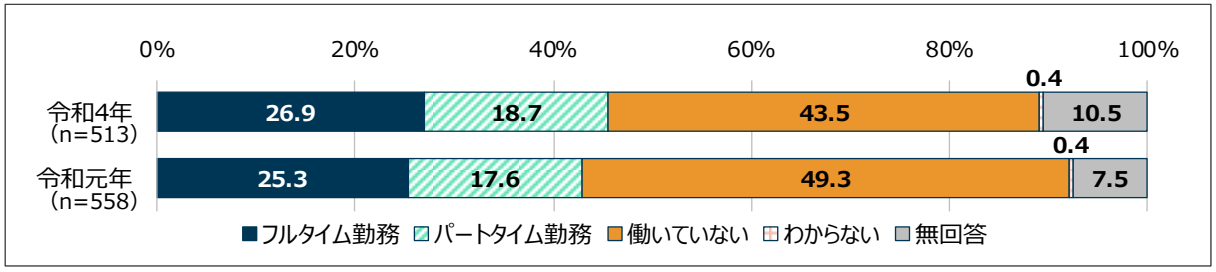
○ 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。

○ さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。

○ 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

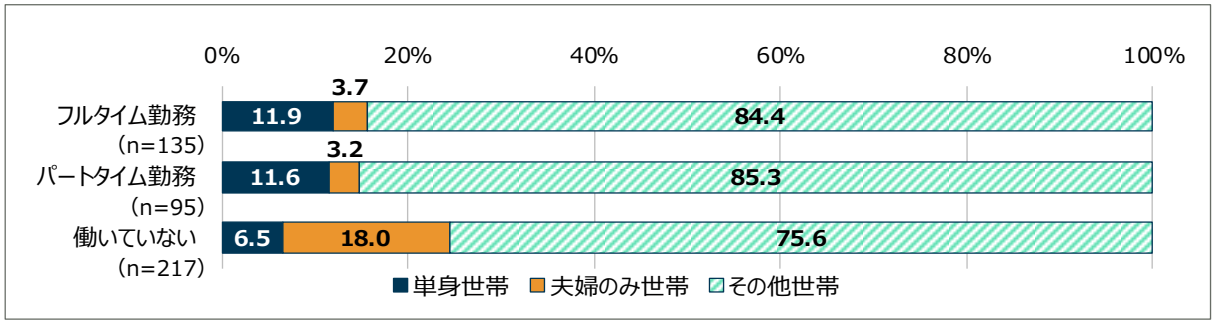
1.　主な介護者の就労状況

「フルタイム勤務」が 26.9%、「パートタイム勤務」が 18.7%で、合わせると 45.6%となっています。



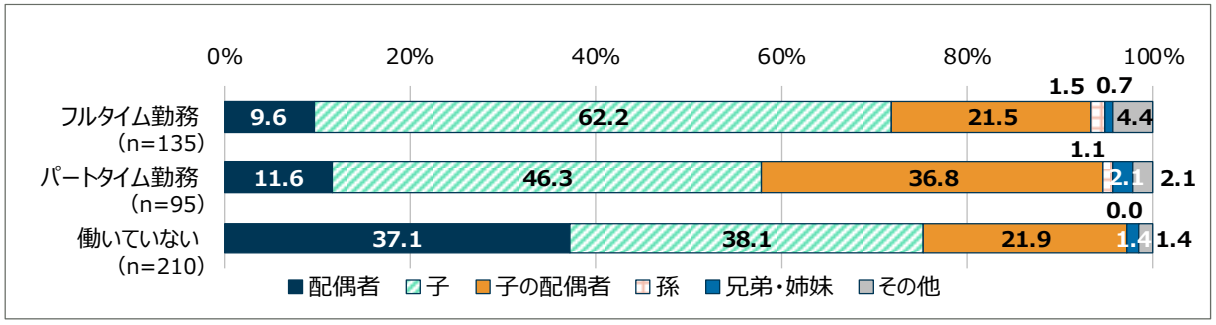
主な介護者の就労状況別に世帯類型をみると、就労状況にかかわらず「その他世帯」の割合が最も高くなっています。

就労状況別 世帯類型



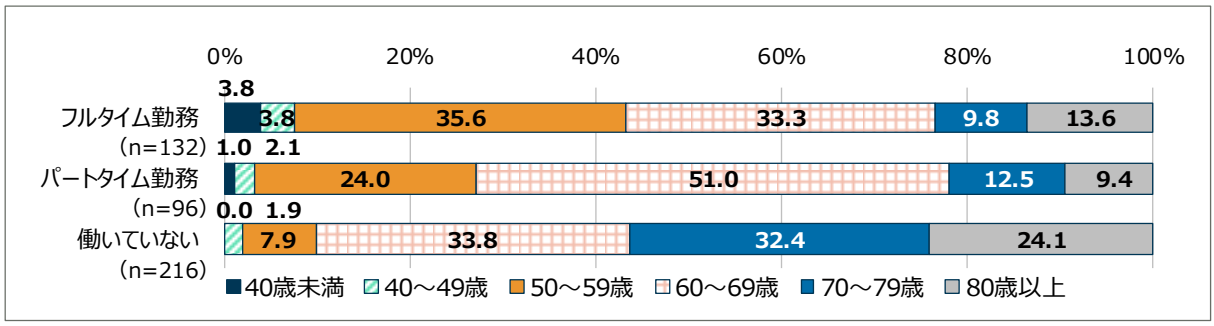
主な介護者の就労状況別に本人との関係をみると、すべての就労状況で本人の「子」の割合が最も高くなっています。次いでフルタイム勤務とパートタイム勤務で本人の「子の配偶者」の割合が最も高くなっており、介護者が働いていないでは本人の「配偶者」の割合が高くなっています。

就労状況別 主な介護者の本人との関係



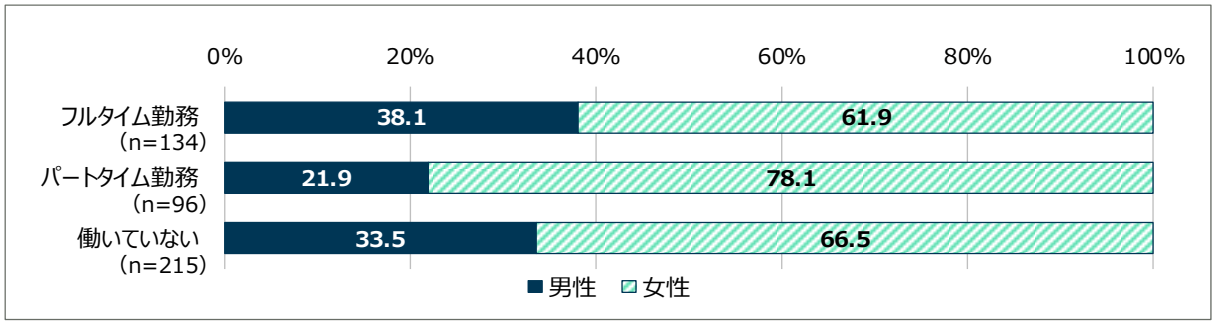
就労状況別に主な介護者の年齢をみると、フルタイム勤務では「50～59 歳」の割合が最も高く、パートタイム勤務と介護者が働いていないでは「60～69 歳」の割合が最も高くなっています。

就労状況別 主な介護者の年齢



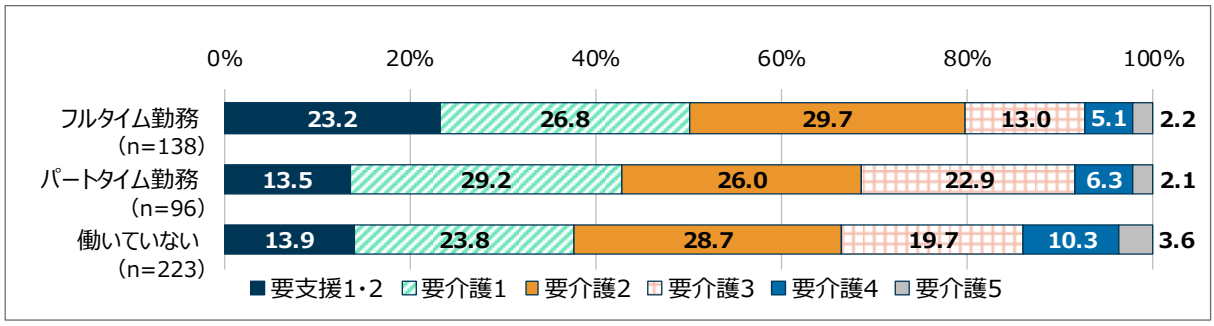
就労状況別に主な介護者の性別をみると、就労状況にかかわらず「女性」の割合が高くなっていますが、特に、パートタイム勤務は「女性」の割合が高く 78.1%となっています。「男性」の割合が最も高いのはフルタイム勤務で、38.1%となっています。

就労状況別 主な介護者の性別



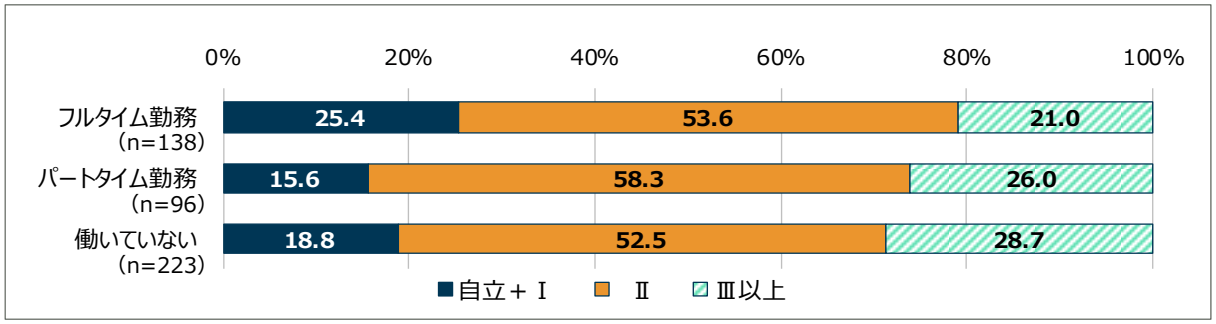
主な介護者の就労状況別に本人の要介護度をみると、フルタイム勤務は「要介護 2」の割合が最も高くなっています。パートタイム勤務は「要介護 1」の割合が最も高く 29.2%、介護者が働いていないでは「要介護 2」の割合が最も高く 28.7%となっています。

主な介護者の就労状況別 本人の要介護度



主な介護者の就労状況別に本人の認知症自立度をみると、就労状況にかかわらず「認知症自立度Ⅱ」の割合が 50%以上となっています。

主な介護者の就労状況別 本人の認知症自立度



2. 主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

○ ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています。

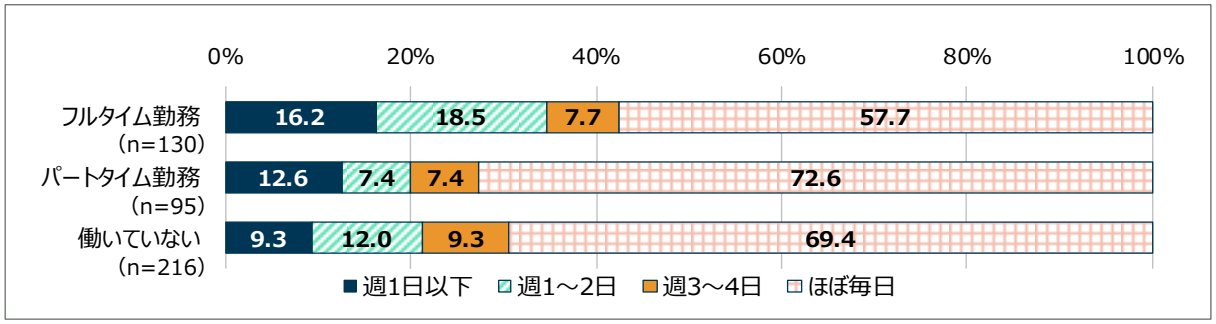
○ 「主な介護者が行っている介護」について、たとえば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。

○ 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。

○ なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の２つの指標に着目しています。

家族等による介護の頻度について主な介護者の就労状況別にみると、就労状況にかかわらず「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっていますが、特に、パートタイム勤務で「ほぼ毎日」の割合が高く 72.6%となっています。

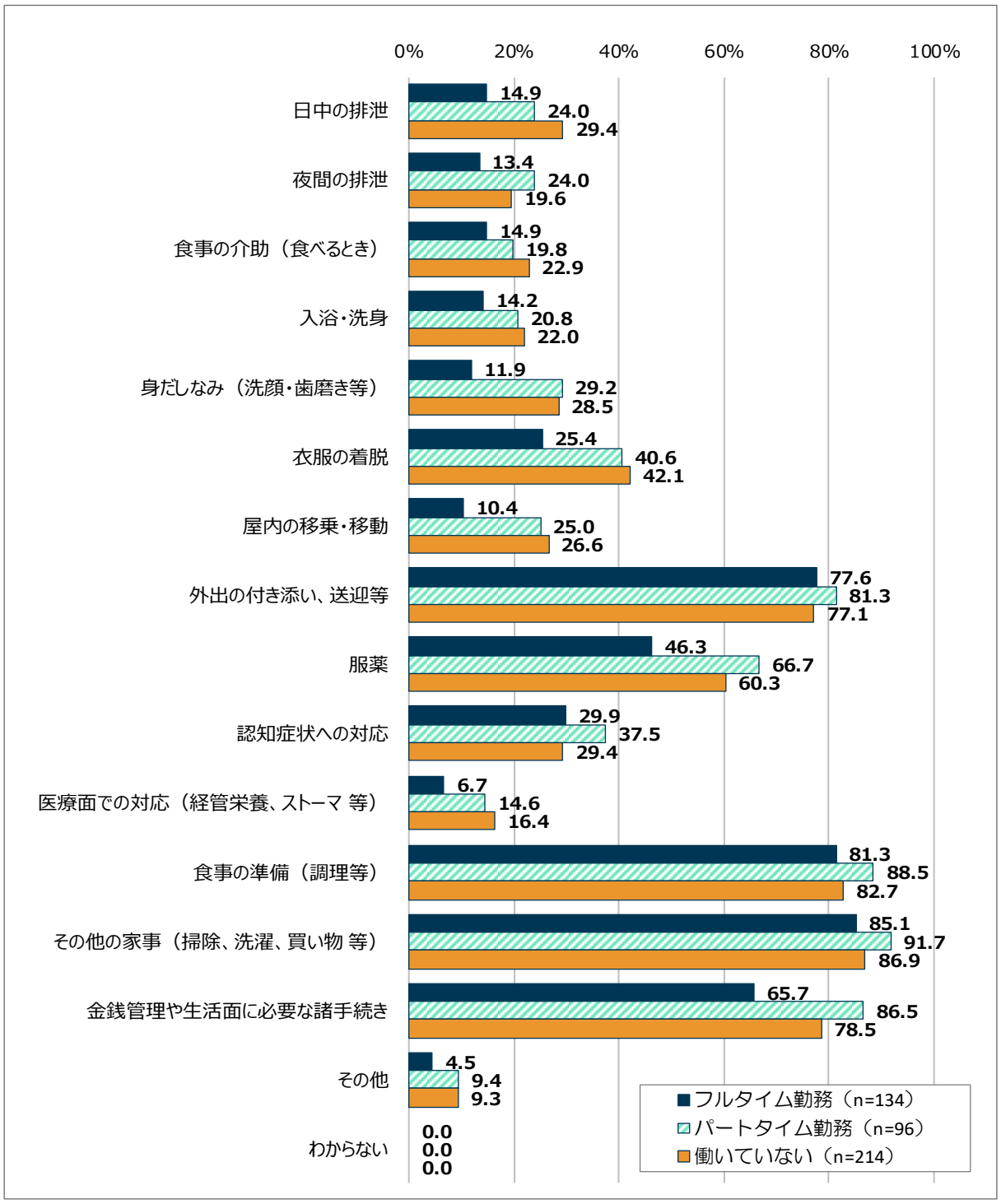
就労状況別 家族等による介護の頻度



※ 家族介護を行っている方のみの設問のため「ない」は 0.0%となっています。

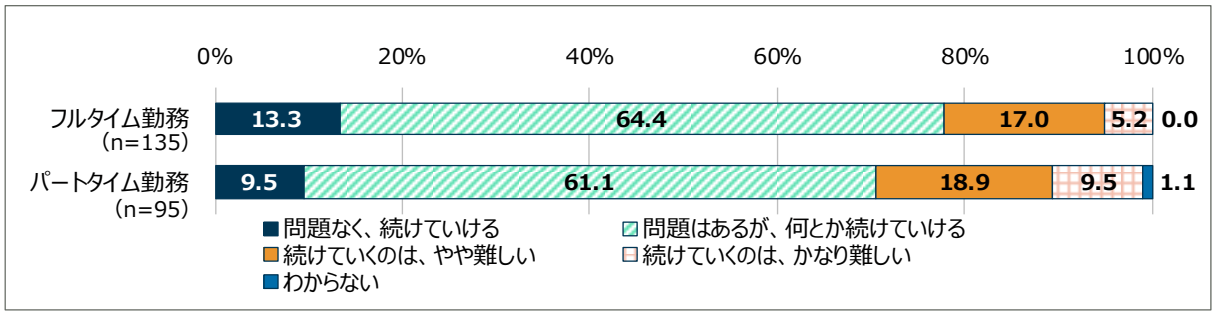
すべての就労状況別において、割合が最も高くなっている介護は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」となっており、次いで「食事の準備（調理等）」となっています。フルタイム勤務と介護者が働いていないでは「外出の付き添い、送迎等」の割合、パートタイム勤務で「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合も高くなっています。

就労状況別 主な介護者が行っている介護



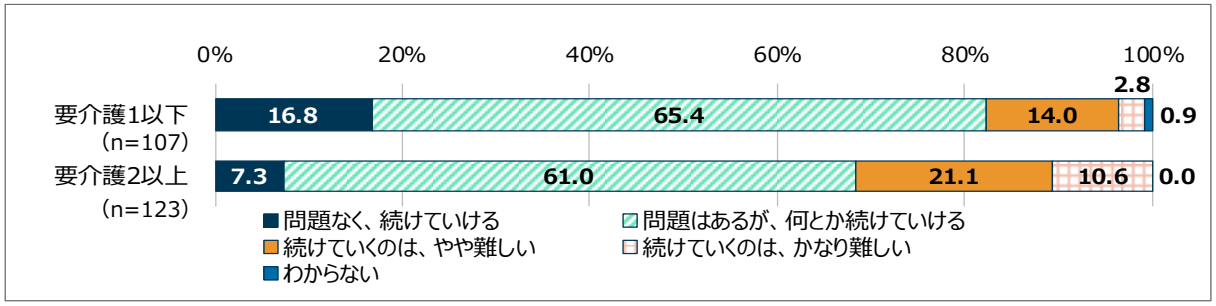
フルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者の就労継続見込みをみると、勤務形態にかかわらず「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。次いで「続けていくのは、やや難しい」の割合が高く、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた就労継続が困難と考えている割合は、フルタイム勤務で 22.2%、パートタイム勤務で 28.4%となっています。

就労状況別 就労継続見込み



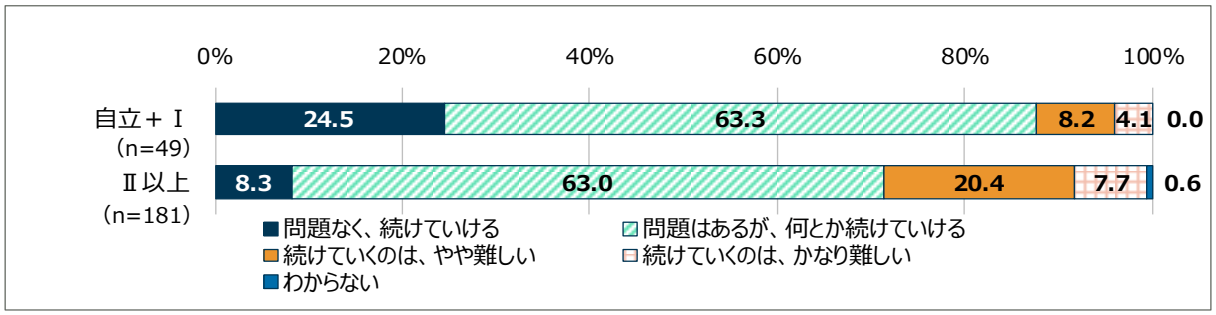
フルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者の就労継続見込みを、本人の要介護度別にみると、勤務形態にかかわらず「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。次いで、要介護 1 以下では「問題なく、続けていける」、要介護 2 以上では「続けていくのは、やや難しい」の割合が高くなっています。「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた就労継続が困難と考えている割合は、要介護 1 以下で 16.8%なのに対し、要介護 2 以上で 31.7%となっています。

要介護度別 就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



認知症自立度別にみても、ほぼ同様の傾向がみられ、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた就労継続が困難と考えている割合は、自立+Ⅰが 12.3%なのに対し、認知症自立度Ⅱ以上で 28.1%となっています。

認知症自立度別 就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3. 介護保険サービスの利用状況・主な介護者が不安に感じる介護と就労継続見込みの関係

○ ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別および就労継続見込み別に集計分析をしています。

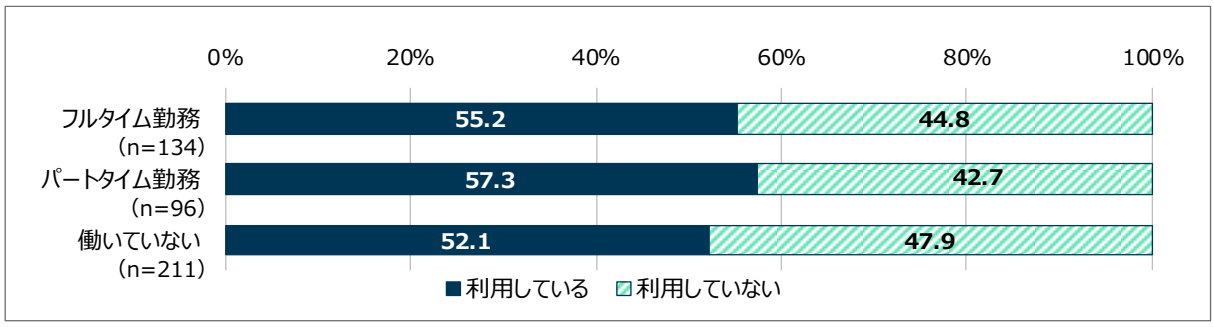
○ 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。

○ たとえば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないことになります。

○ 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

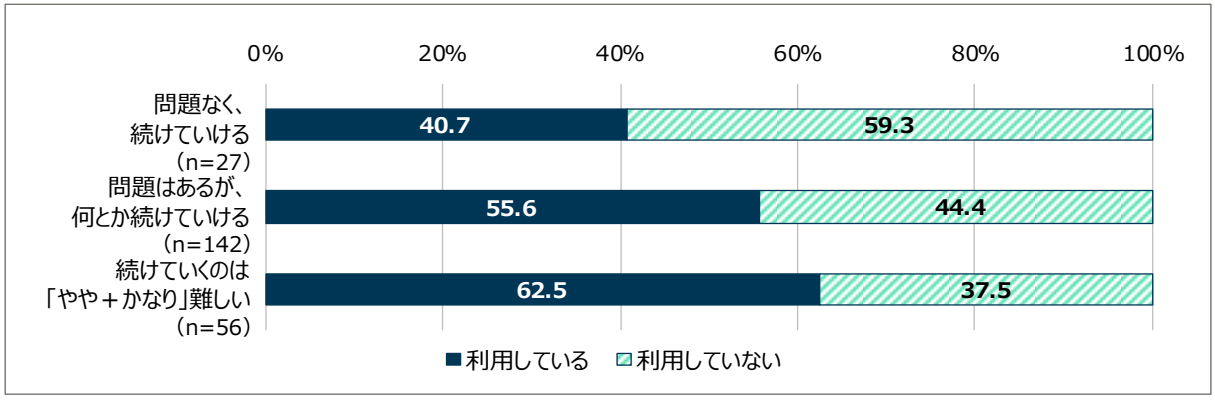
主な介護者の就労状況別に介護保険サービス利用の有無をみると、就労状況にかかわらず「利用している」の割合が高くなっていますが、パートタイム勤務の割合が最も高く 57.3%となっています。

就労状況別 介護保険サービス利用の有無



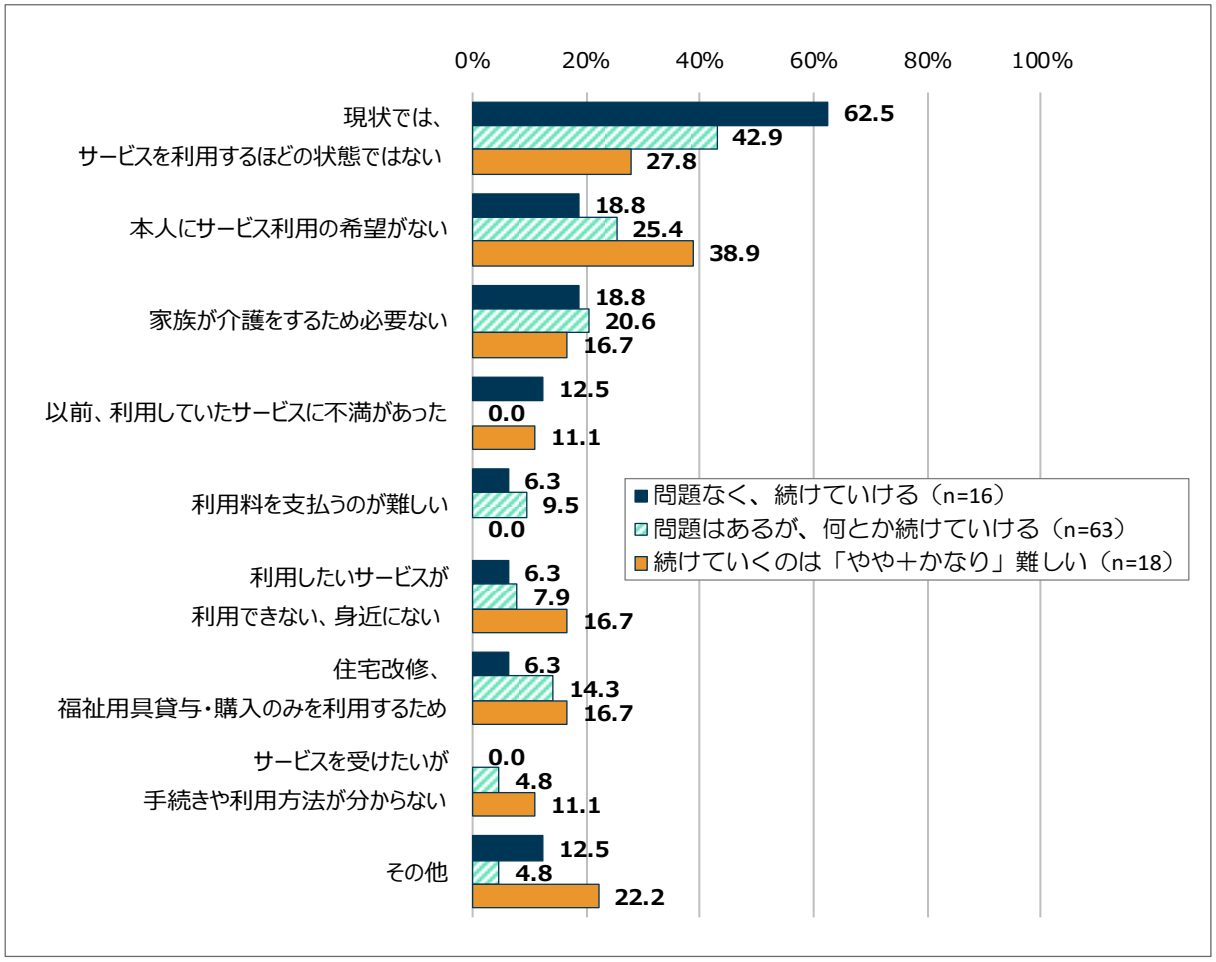
フルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者の就労継続見込み別に、介護保険サービス利用の有無をみると、問題なく、続けていけるでは「利用していない」割合が高く 59.3%となっています。一方で、問題はあるが、何とか続けていけるでは「利用している」割合が高くなり、続けていくのは「やや+かなり」難しいでは「利用している」割合が 62.5%となっています。

就労継続見込み別 介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



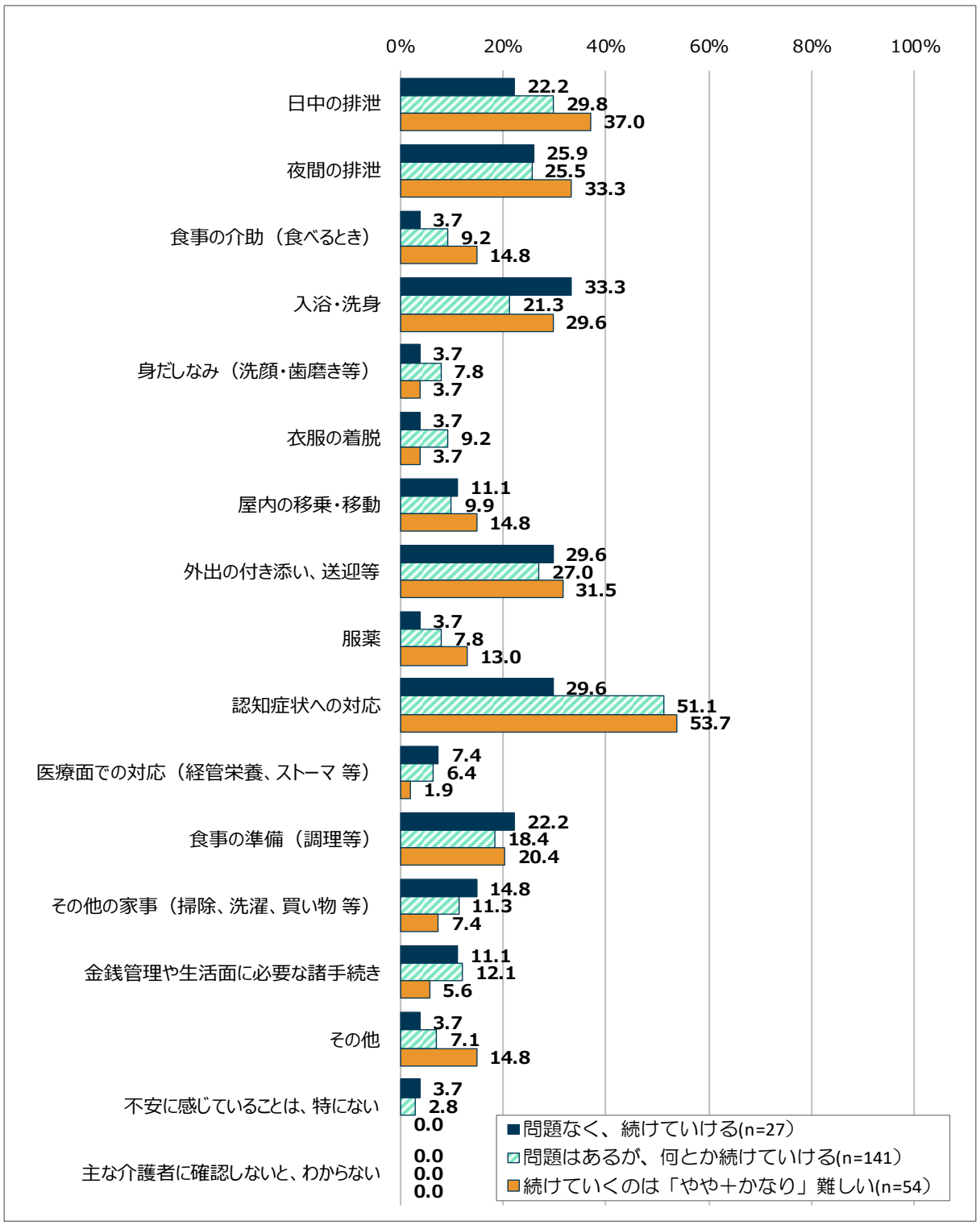
フルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者が介護保険サービスを利用しない理由について、就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていけると、問題はあるが、何とか続けていけるでは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高くなっています。続けていくのは「やや+かなり」難しいでは「本人にサービス利用の希望がない」の割合が最も高くなっています。

就労継続見込み別 サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



フルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者が不安に感じる介護について、就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていけるでは「入浴・洗身」の割合が最も高くなっています。問題はあるが、何とか続けていけると、続けていくのは「やや+かなり」難しいでは「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。

就労継続見込み別 介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



4. サービス利用の組み合わせと就労継続見込みの関係

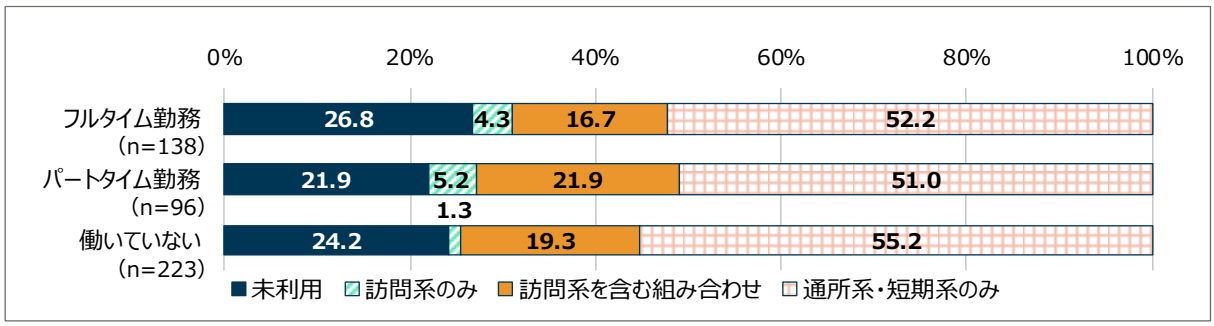
○ ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別および就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護２以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています。

○ ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。

○ また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

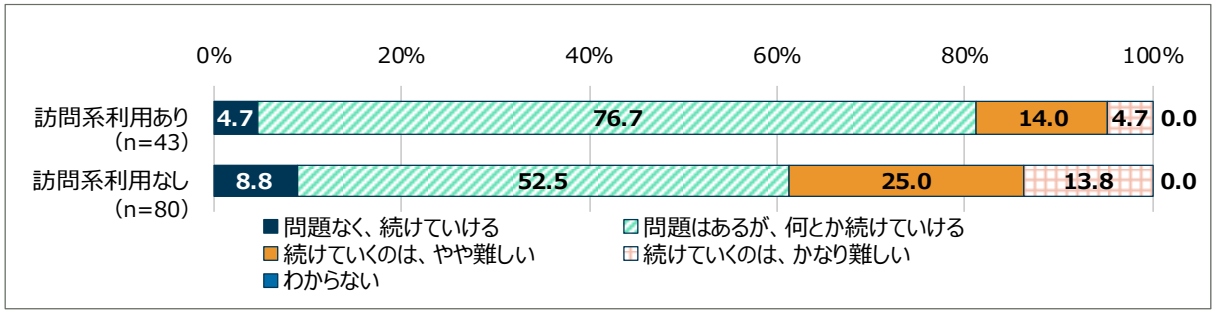
就労状況にかかわらず「通所系・短期系のみ」の割合が最も高くなっていますが、介護者が働いていないでは 55.2%と高くなっています。パートタイム勤務では「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」を合わせた割合が高くなっています。フルタイム勤務では「未利用」の割合が高くなっています。

就労状況別 サービス利用の組み合わせ



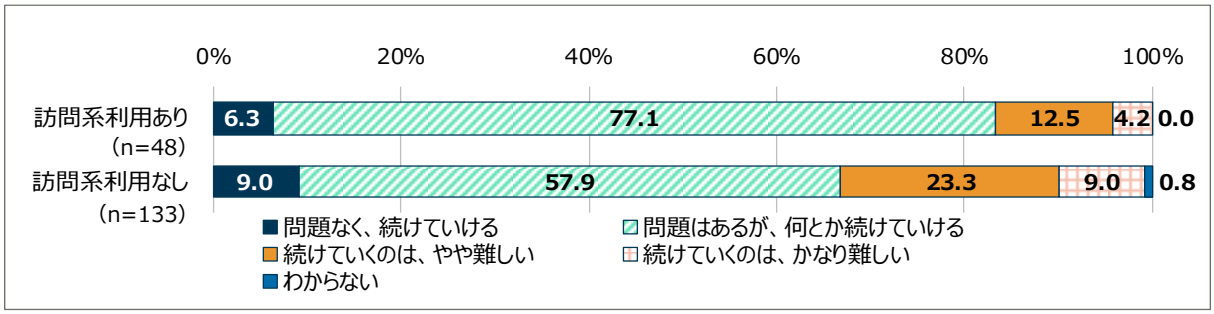
要介護 2 以上の介護をしているフルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者の就労継続見込みについて、訪問系サービスの利用の有無別にみると、利用の有無にかかわらず「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。一方で、訪問系利用なしでは「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合が高く 38.8%となっています。

サービス利用の組み合わせ別 就労継続見込み（要介護 2 以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



認知症自立度Ⅱ以上の介護をしているフルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者の就労継続見込みについて、訪問系サービスの利用の有無別にみると、利用の有無にかかわらず「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は、訪問系利用ありでは 16.7%、訪問系利用なしでは 32.3%となっています。

サービス利用の組み合わせ別 就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



5. 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

○ ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」「訪問診療の利用の有無」「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別および就労継続見込み別に集計分析をしています。

○ 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。

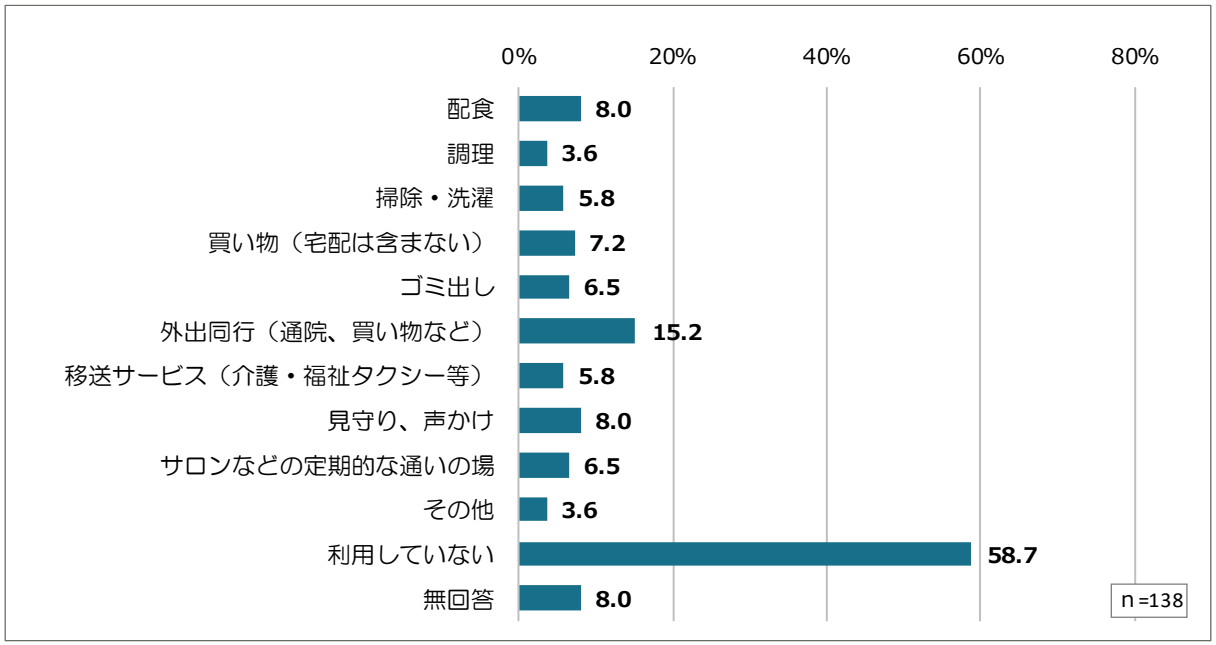
○ また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。

○ 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。

○ さらに、要介護２以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

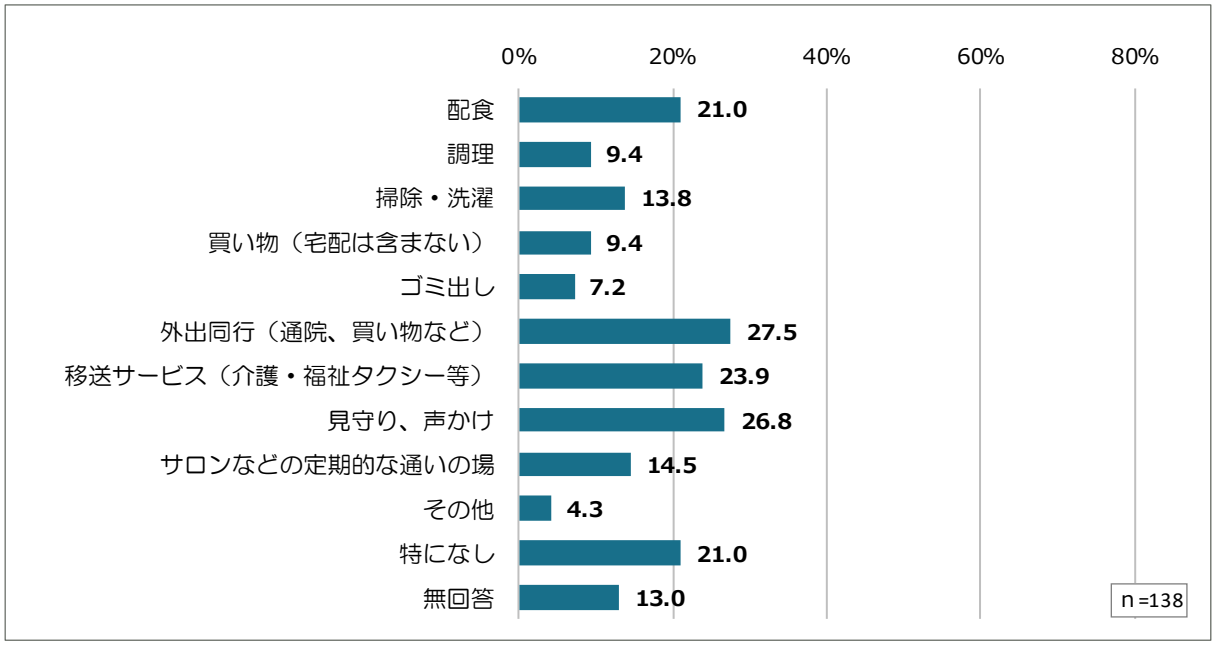
「外出同行（通院、買い物など）」が 15.2%、「配食」「見守り、声かけ」が 8.0%などとなっていますが、「利用していない」が 58.7%と最も高くなっています。

利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



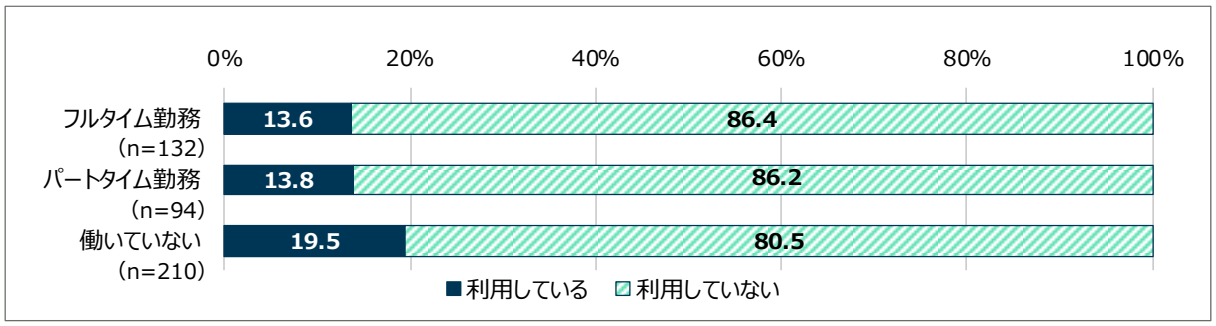
「外出同行（通院、買い物など）」が 27.5%と最も高くなっています。次いで「見守り、声かけ」が 26.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 23.9%となっていますが、実際に利用している割合（上記グラフ）は、「移送サービス」で 5.8%となっています。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



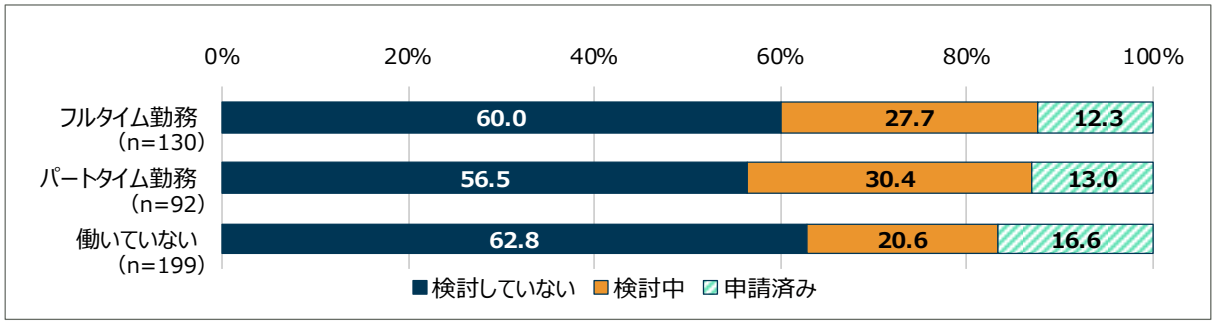
訪問診療の利用の有無について、就労状況別にみると、就労状況にかかわらず「利用していない」の割合が高くなっています。「利用している」割合が最も高いのは、介護者が働いていないでは 19.5%となっています。

就労状況別 訪問診療の利用の有無



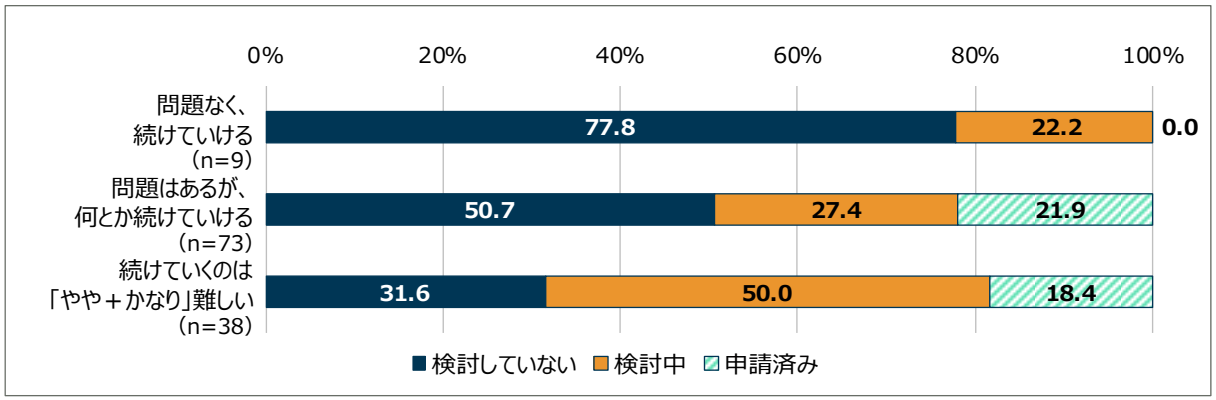
施設等検討の状況について、就労状況別にみると、就労状況にかかわらず「検討していない」の割合が最も高くなっている一方で、パートタイム勤務では「検討中」の割合が高く、30.4%となっています。

就労状況別 施設等検討の状況



要介護 2 以上の介護をしているフルタイム勤務とパートタイム勤務の介護者の就労継続見込み別に施設等検討の状況をみると、続けていくのは「やや+かなり」難しいでは「検討中」「申請済み」の割合が高くなっています。

就労継続見込み別 施設等検討の状況（要介護 2 以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



6. 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

○ ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別および就労継続見込み別に集計分析をしています。

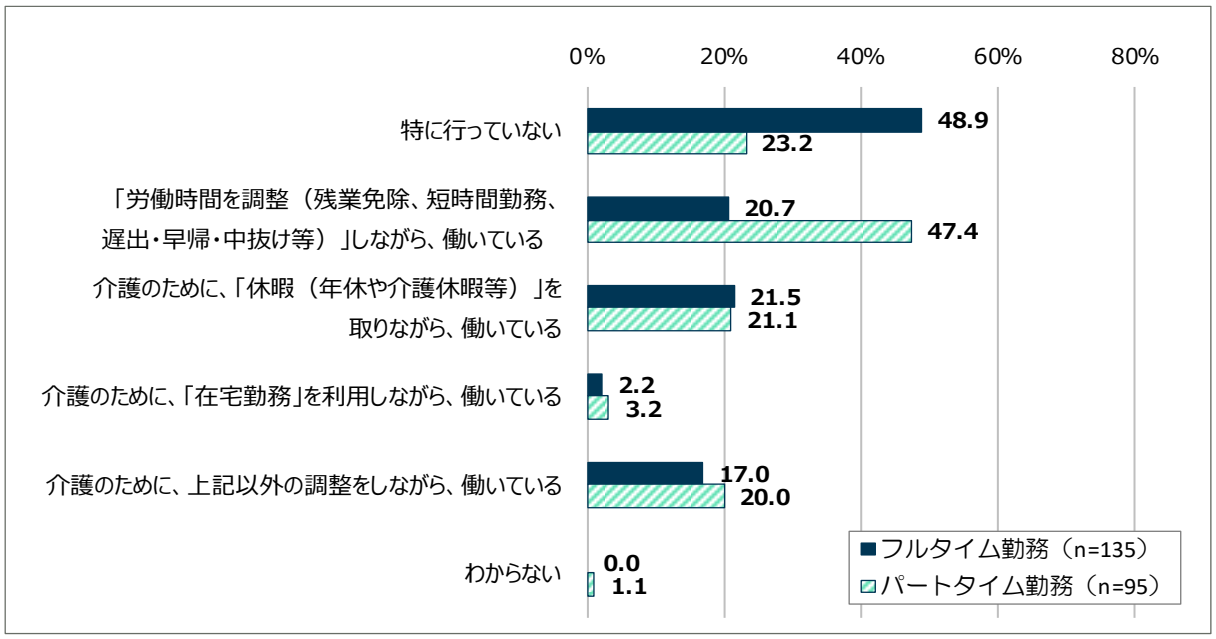
○ 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。

○ ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。

○ このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

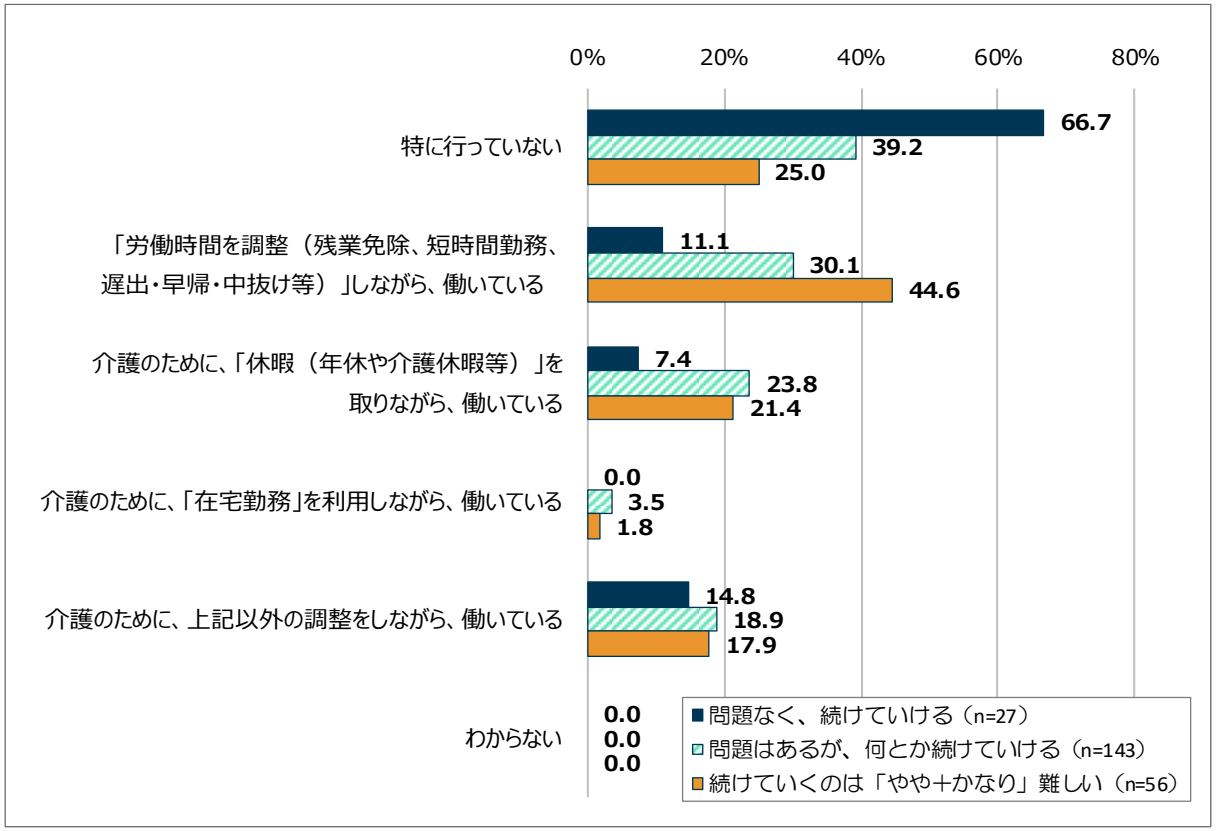
介護のための働き方の調整について就労状況別にみると、フルタイム勤務では「特に行っていない」の割合が最も高く、次いで「介護のために、休暇（年休や介護休暇等）を取りながら、働いている」の割合が高くなっています。パートタイム勤務では「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら働いている」の割合が最も高くなっています。

就労状況別 介護のための働き方の調整



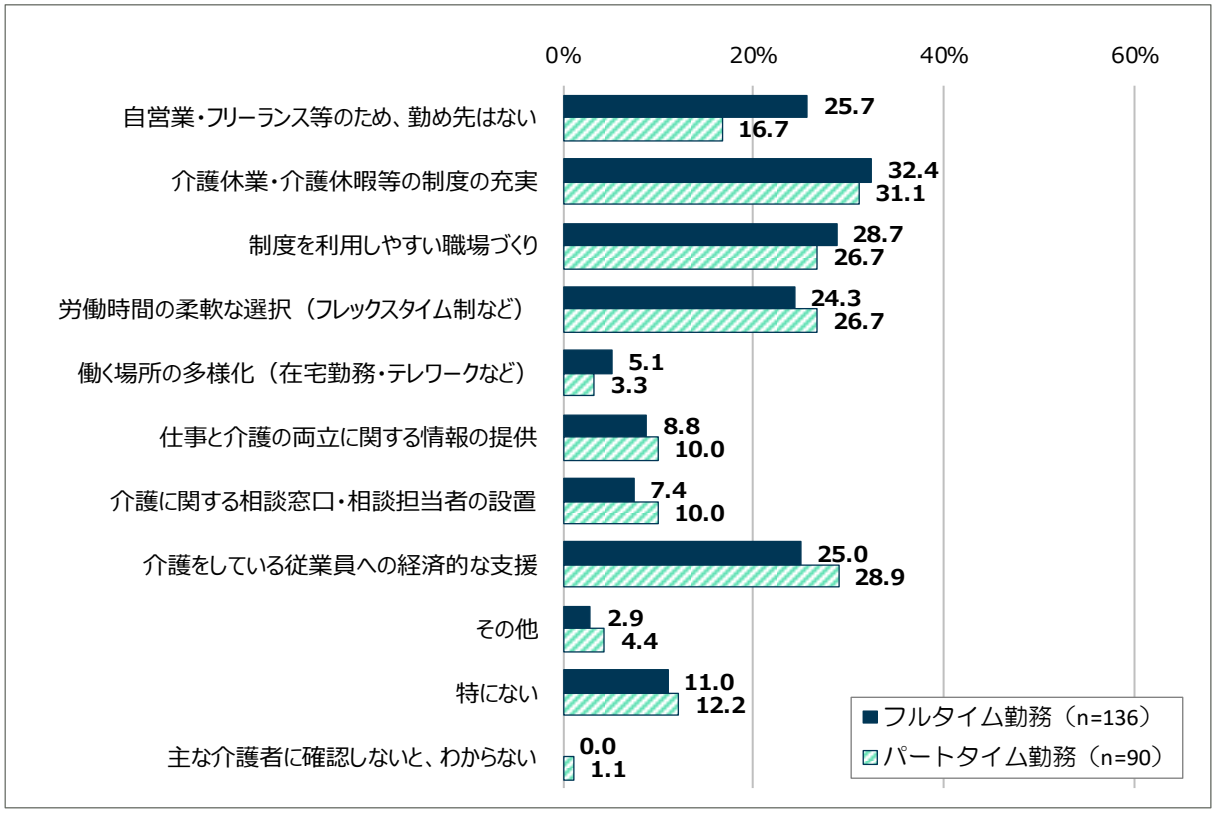
介護のための働き方の調整について、就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていけると問題はあるが、何とか続けていけるでは「特に行っていない」割合が最も高くなっています。続けていくのは「やや+かなり」難しいでは「労働時間を調整しながら、働いている」割合が44.6%と最も高くなっています。

就労継続見込み別 介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



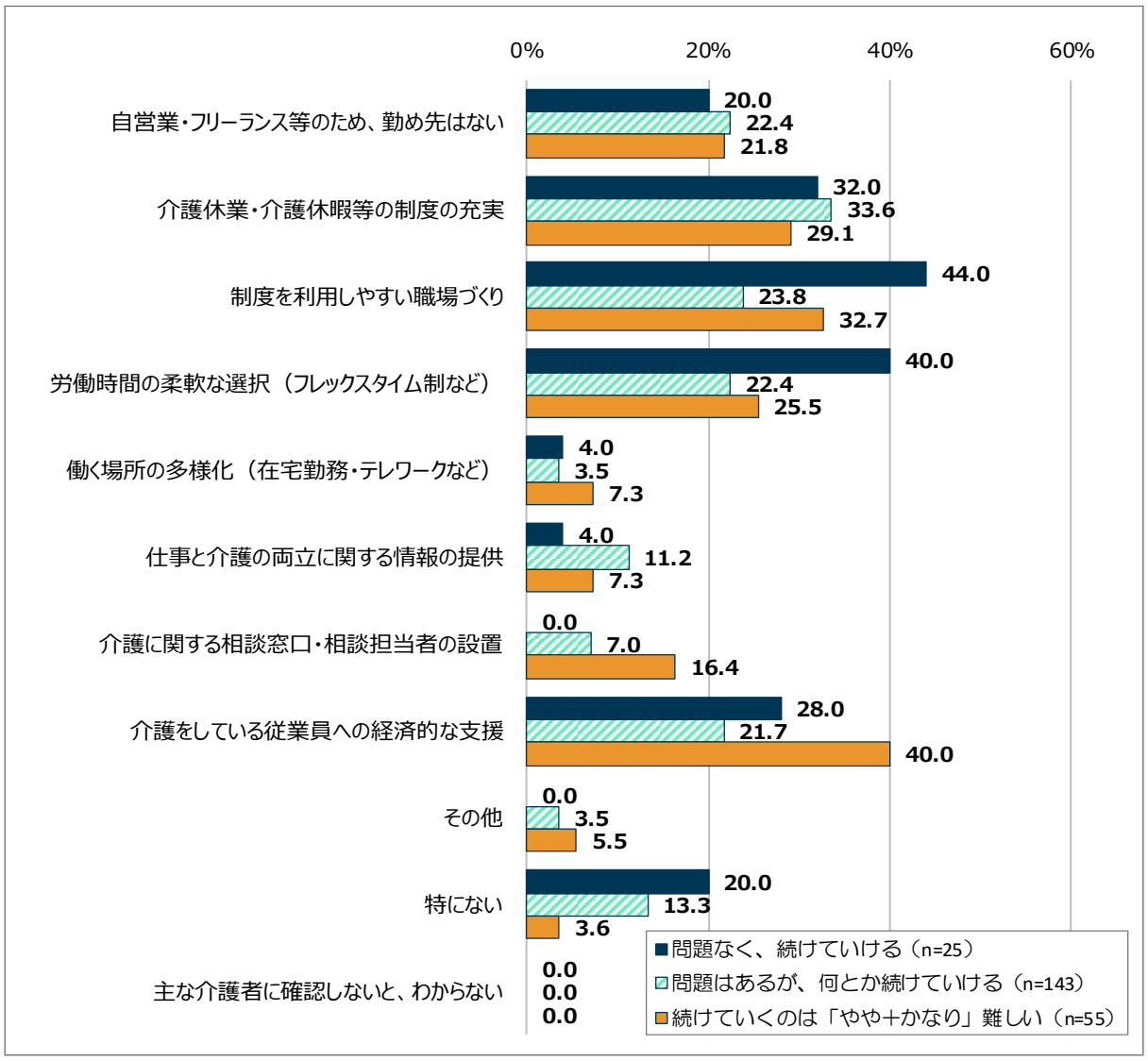
仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援について就労状況別にみると、就労状況にかかわらず「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も高くなっています。次いで、フルタイム勤務では「制度を利用しやすい職場づくり」、パートタイム勤務では「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が高くなっています。

就労状況別 効果的な勤め先からの支援



仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援について就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていけるでは「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が高くなっています。問題はあるが、何とか続けていけるでは「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が高くなっています。続けていくのは「やや+かなり」難しいでは「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が高くなっています。

就労継続見込み別 効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



（3）保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

○ ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。

○ 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。

○ なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

1. 保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

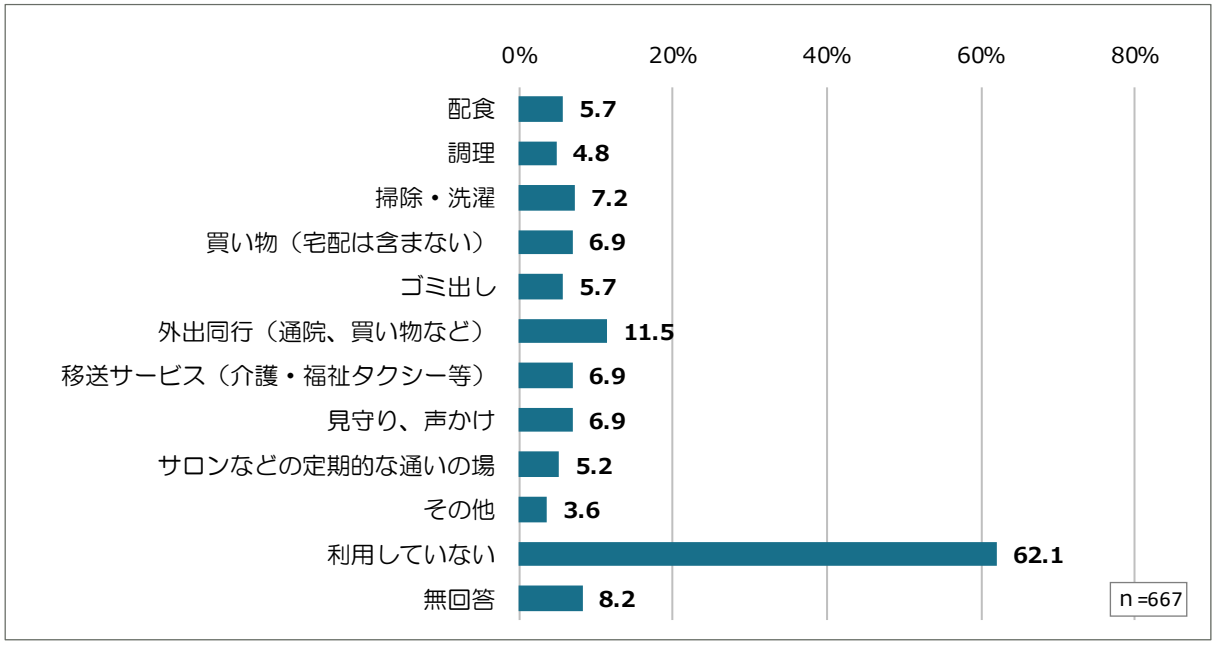
○ 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています。

○ たとえば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取り組みに係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。

○ さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

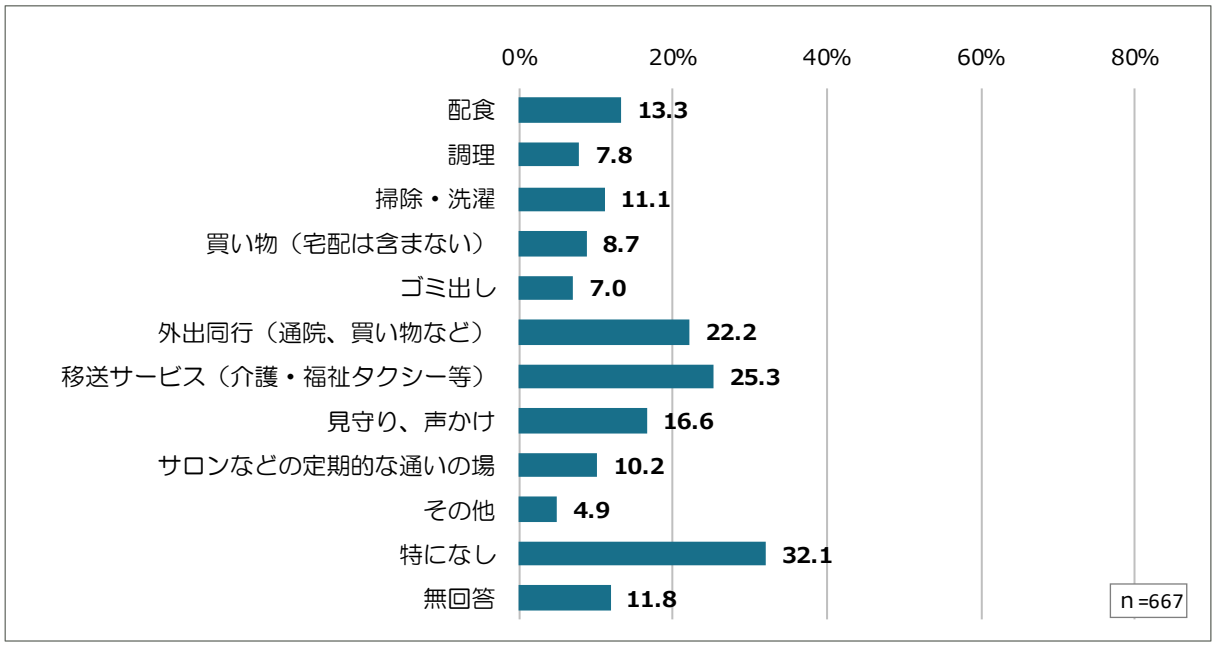
利用している保険外の支援・サービスは「外出同行（通院、買い物など）」が 11.5%と最も高く、次いで「掃除・洗濯」が 7.2%となっています。一方、「利用していない」が 62.1%となっています。

保険外の支援・サービスの利用状況



在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 25.3%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 22.2%となっています。一方、「特になし」が 32.1%となっています。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



2.　世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

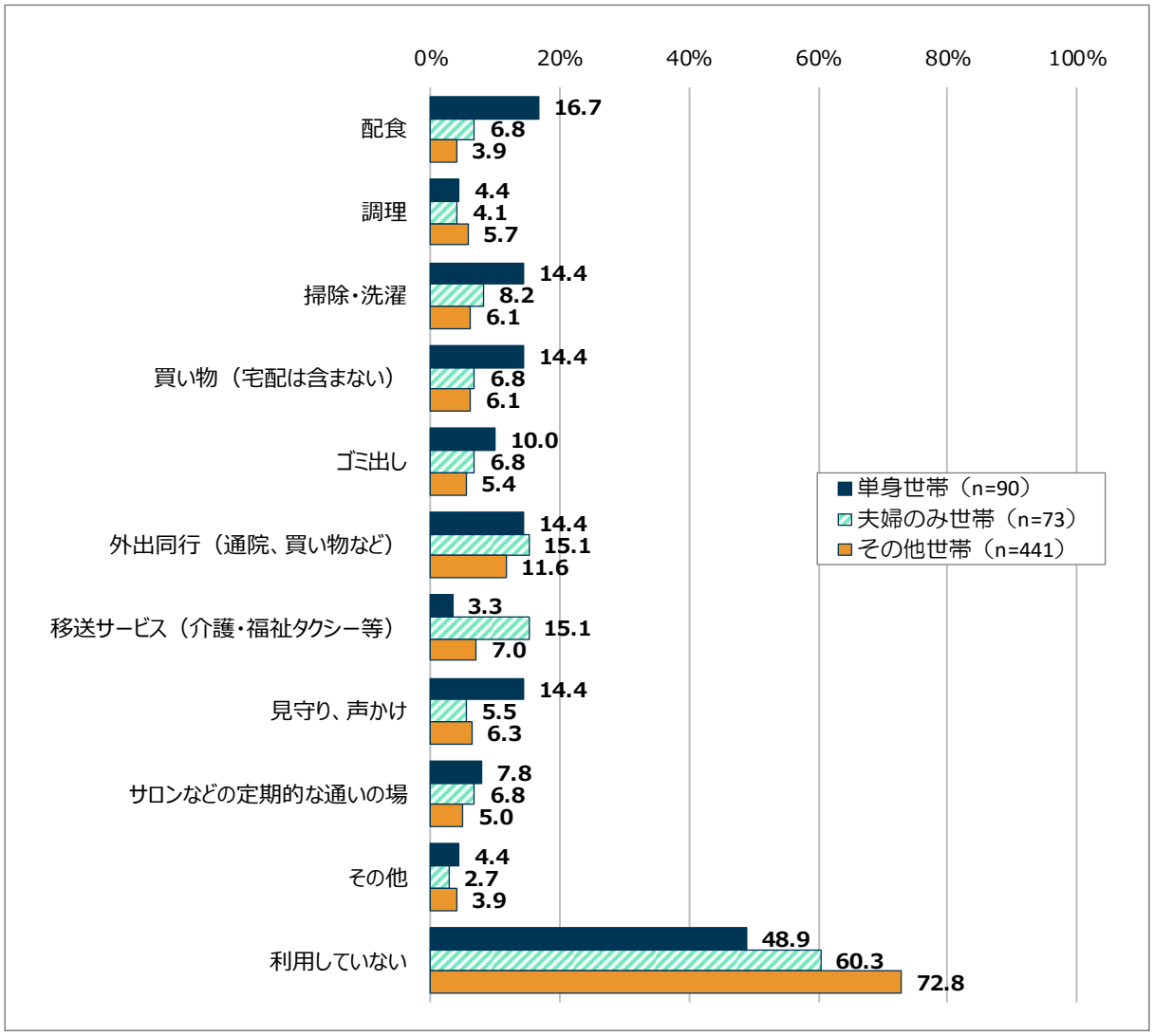
○ 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています。

○ 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。

○ また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

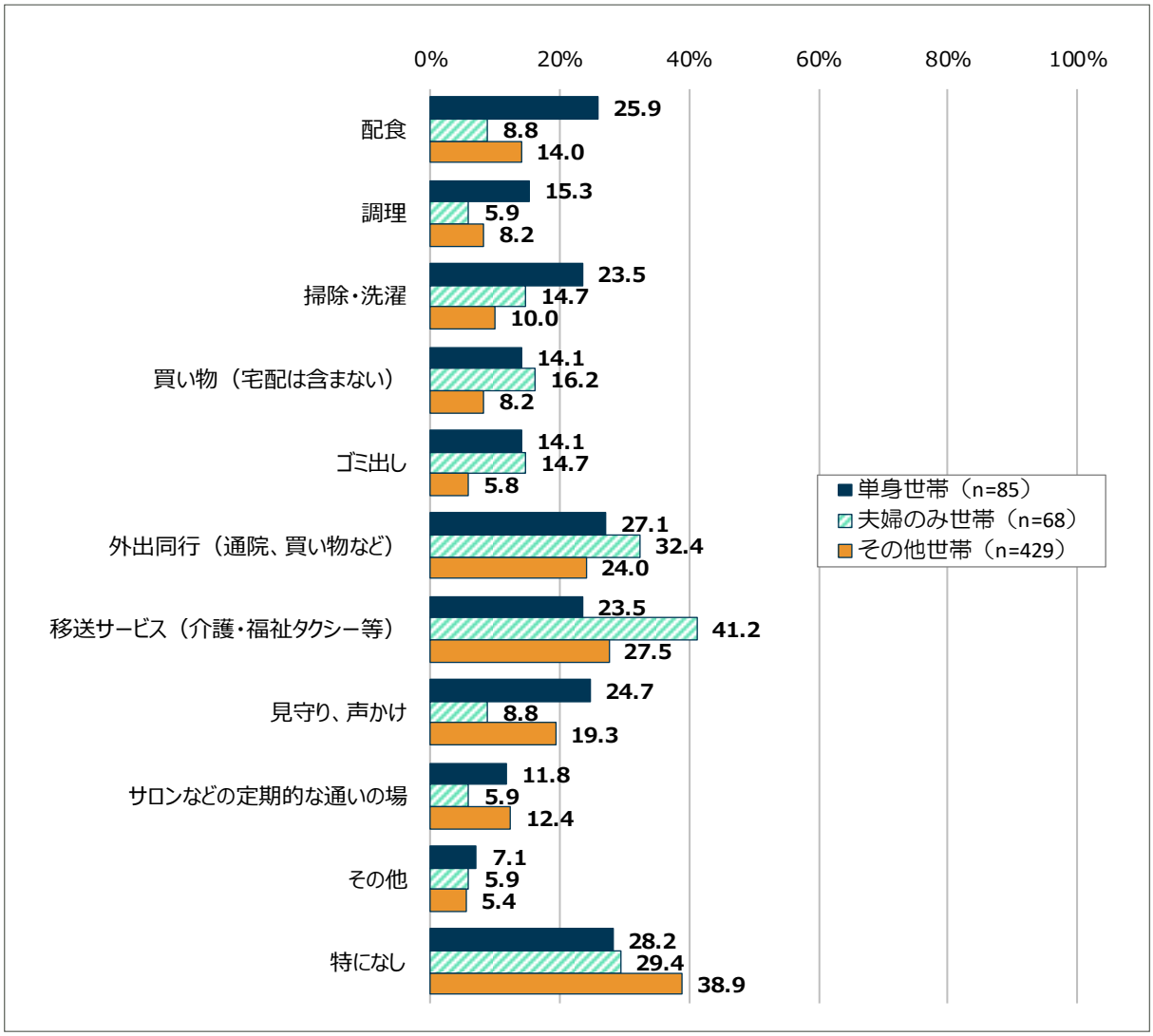
保険外の支援・サービスの利用状況について世帯類型別にみると、世帯類型にかかわらず「利用していない」割合が最も高くなっていますが、特にその他世帯で割合が高く、72.8%となっています。単身世帯で利用している割合が最も高いのは「配食」で 16.7%となっています。夫婦のみ世帯で利用している割合が最も高いのは「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等」で 15.1%となっています。

世帯類型別 保険外の支援・サービスの利用状況



在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて世帯類型別にみると、単身世帯とその他世帯で「特になし」の割合が最も高くなっていますが、夫婦のみ世帯では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く 41.2%、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 32.4%となっています。在宅生活の継続に必要と感じるサービスとして、単身世帯で割合が最も高いのは「外出同行（通院、買い物など）」で 27.1%、次いで「配食」が 25.9%、その他世帯では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 27.5%、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 24.0%となっています。

世帯類型別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



3.　世帯類型×要介護度×保険外の支援・サービスの利用状況

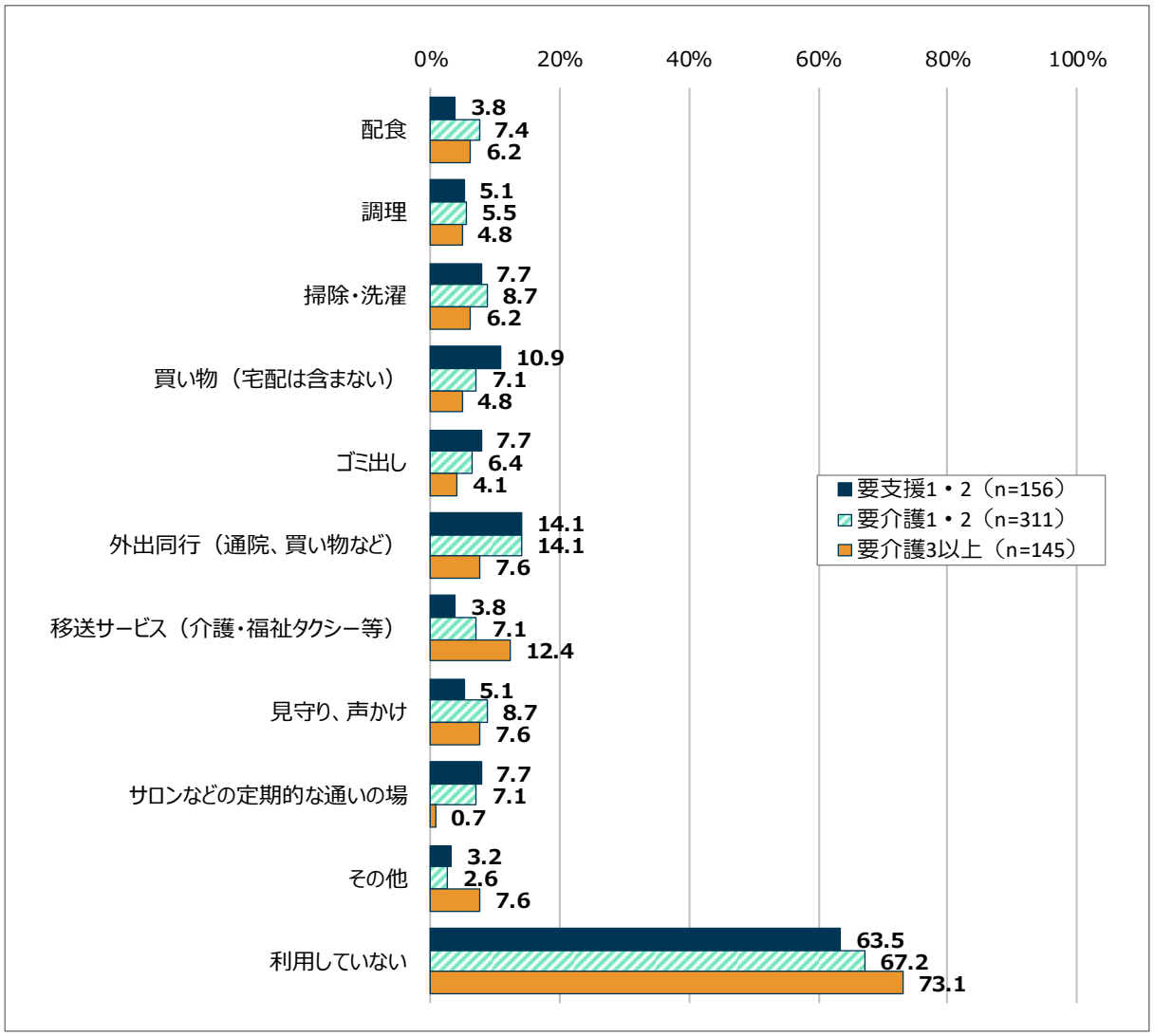
○ 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています。

○ 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。

○ 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

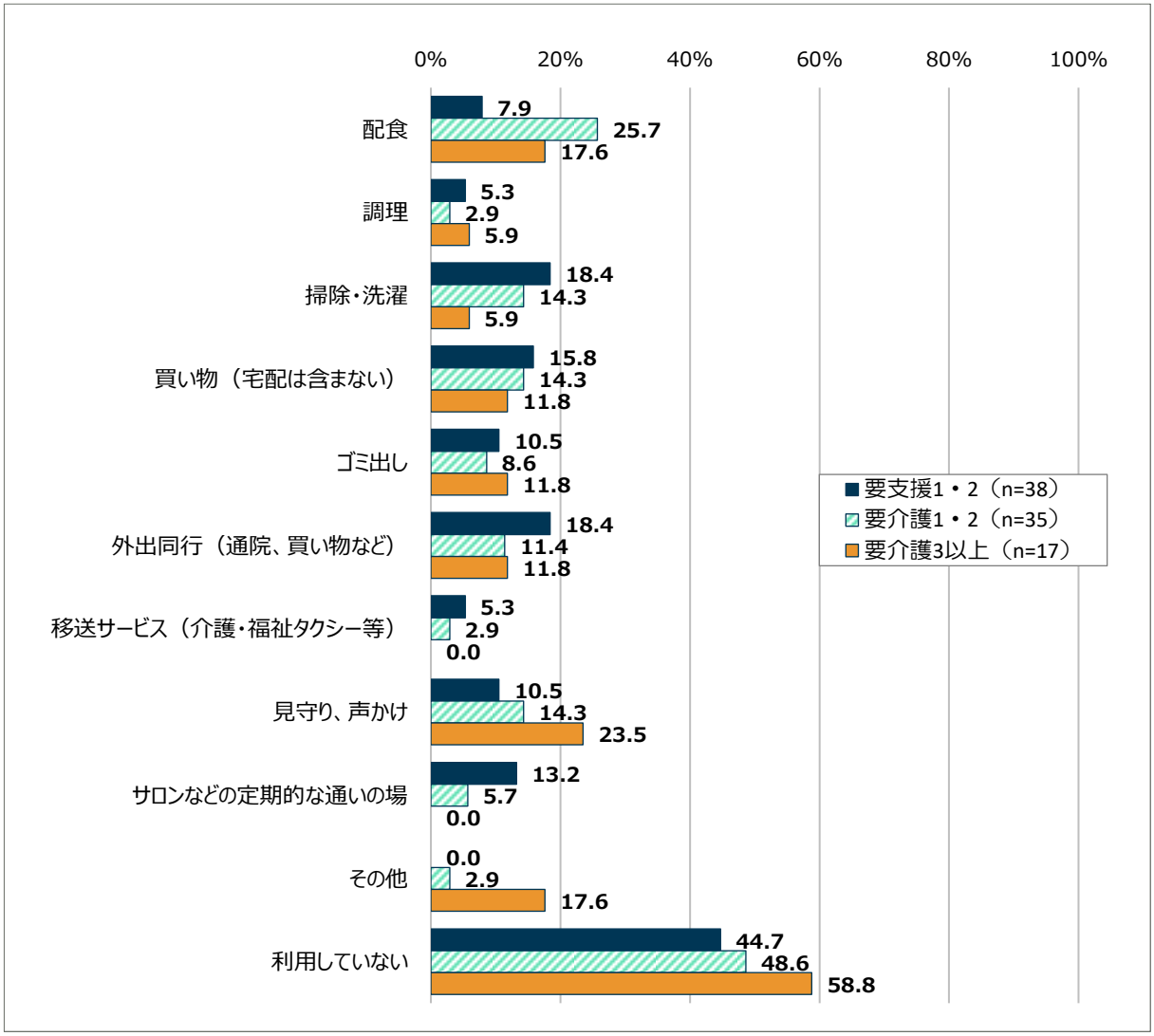
保険外の支援・サービスについて要介護度別にみると、要介護度にかかわらず、「利用していない」割合が最も高くなっていますが、要支援 1・2 と要介護 1・2 で利用している割合が最も高いのは「外出同行（通院、買い物など）」で 14.1%となっています。要介護 3 以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く、12.4%となっています。

要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況



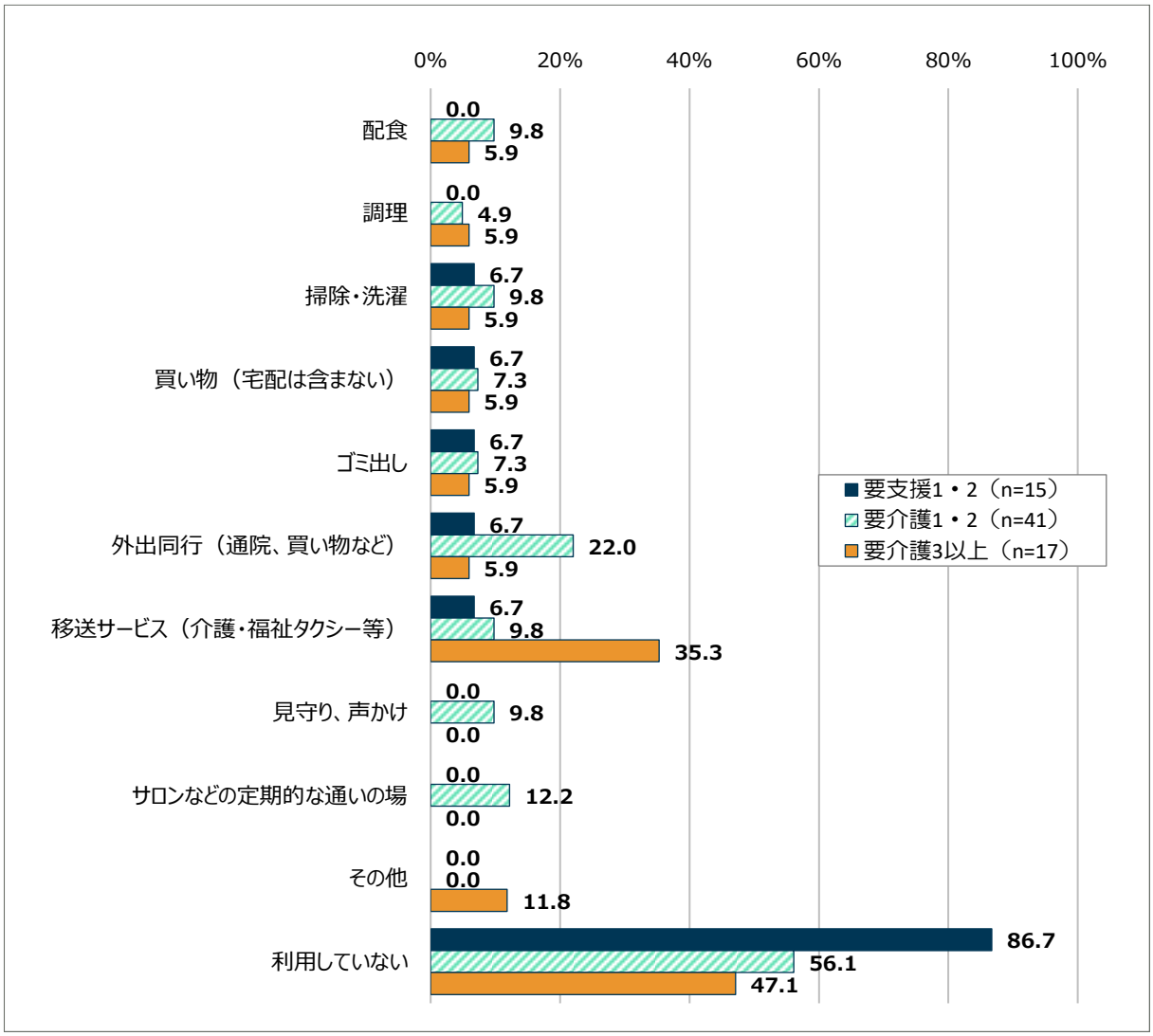
単身世帯の保険外の支援・サービスの利用状況について、要介護度別にみると、要介護度にかかわらず「利用していない」割合が最も高くなっていますが、利用している割合で最も高いのは、要支援 1・2 で「掃除・洗濯」「外出同行（通院、買い物など）」が 18.4%、要介護 1・2 で「配食」が 25.7%、要介護度 3 以上で「見守り、声かけ」が 23.5%となっています。

要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



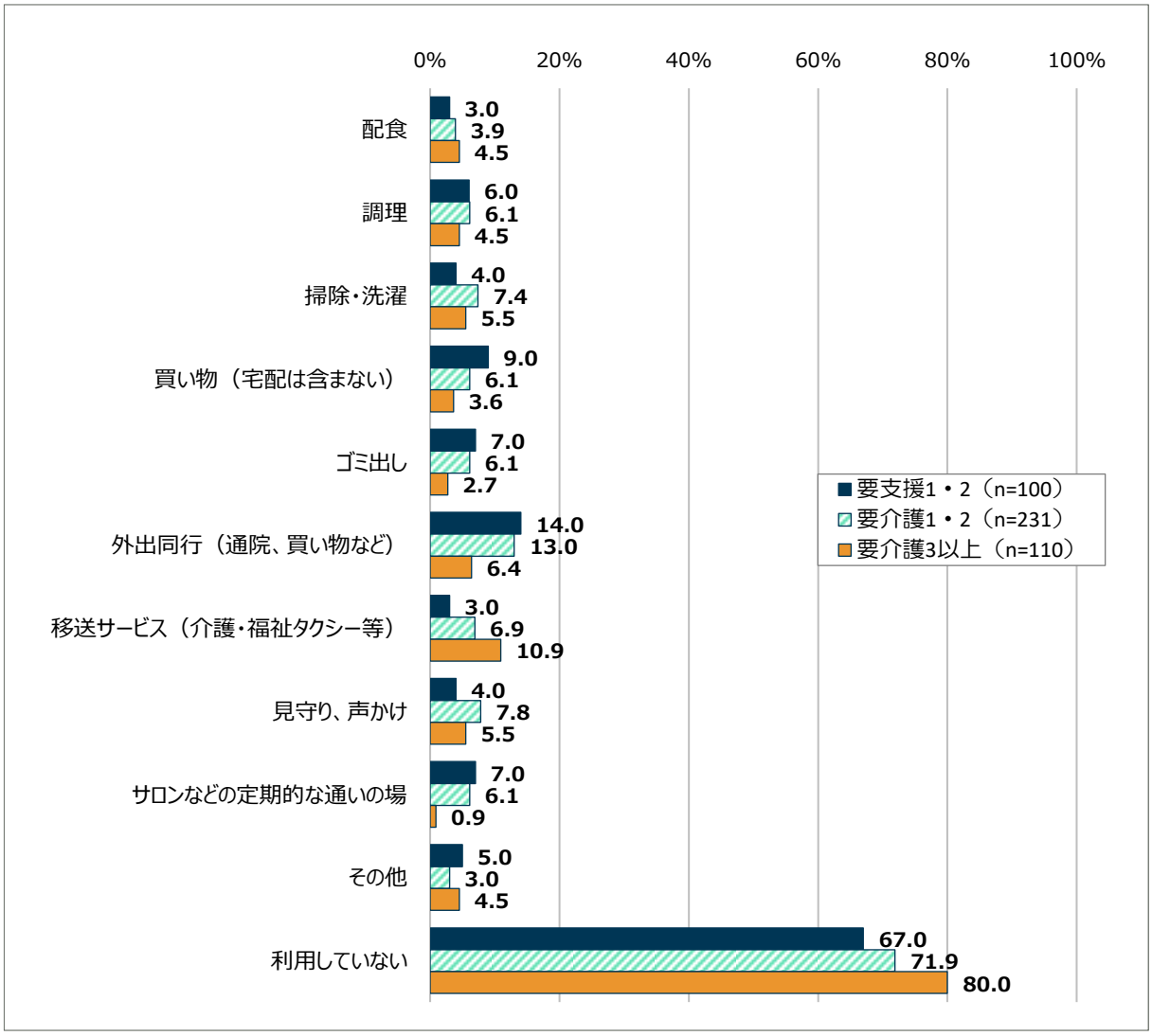
夫婦のみ世帯の保険外の支援・サービスの利用状況について、要介護度別にみると、要介護度にかかわらず「利用していない」割合が最も高くなっていますが、利用している割合で最も高いのは、要支援 1・2 で「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」「ゴミ出し」「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」など 5 種類のサービスが 6.7%、要介護 1・2 で「外出同行（通院、買い物など）」が 22.0%、要介護 3 以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 35.3%となっています。

要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



その他世帯の保険外の支援・サービスの利用状況について、要介護度別にみると、要介護度にかかわらず「利用していない」割合が高くなっていますが、利用している割合で最も高いのは要支援１・２と要介護１・２で「外出同行（通院、買い物など）」となっており、要介護３以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっています。

要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



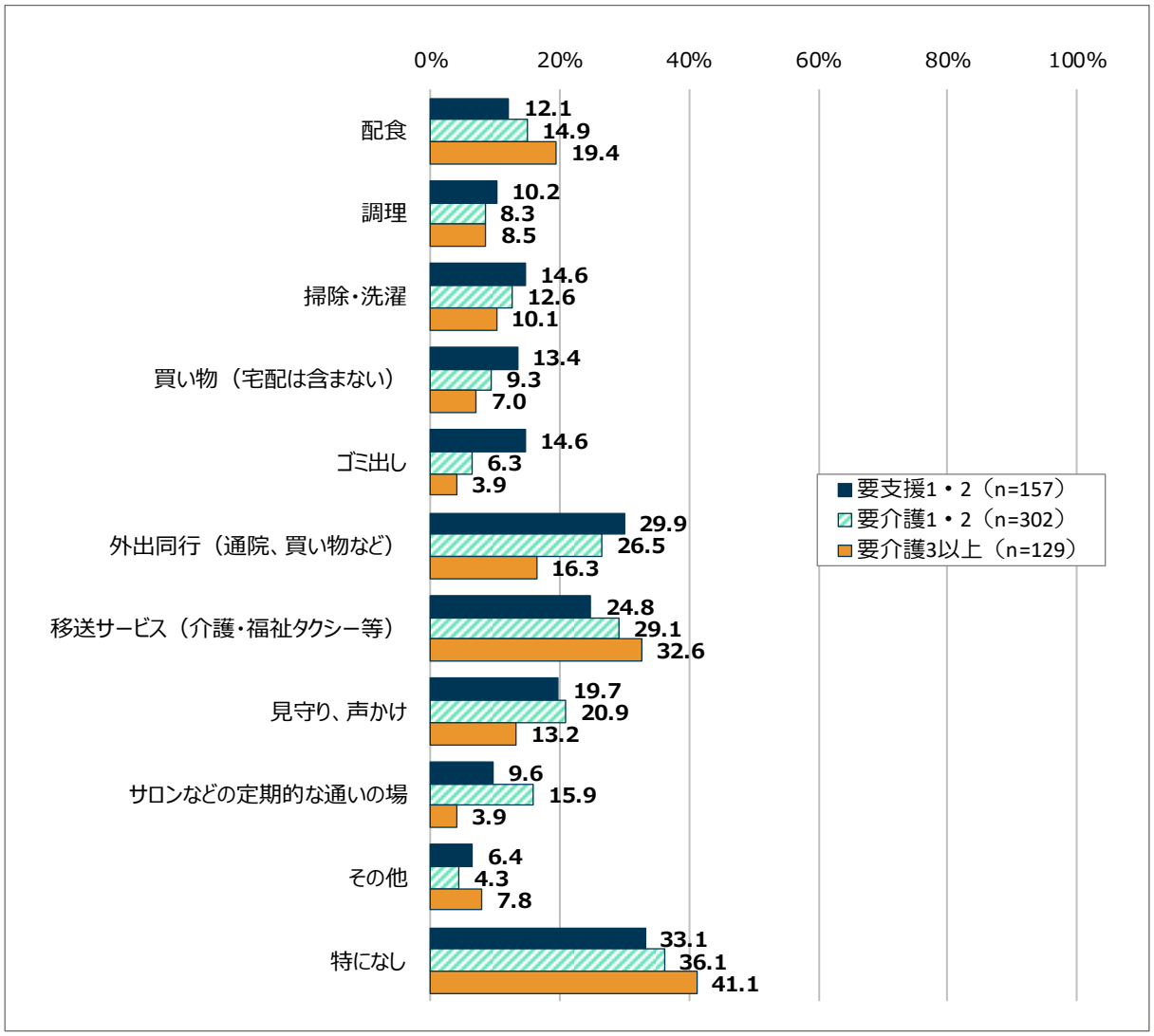
4.　世帯類型×要介護度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

○ 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています。

○ 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取り組みを推進していくことが必要です。

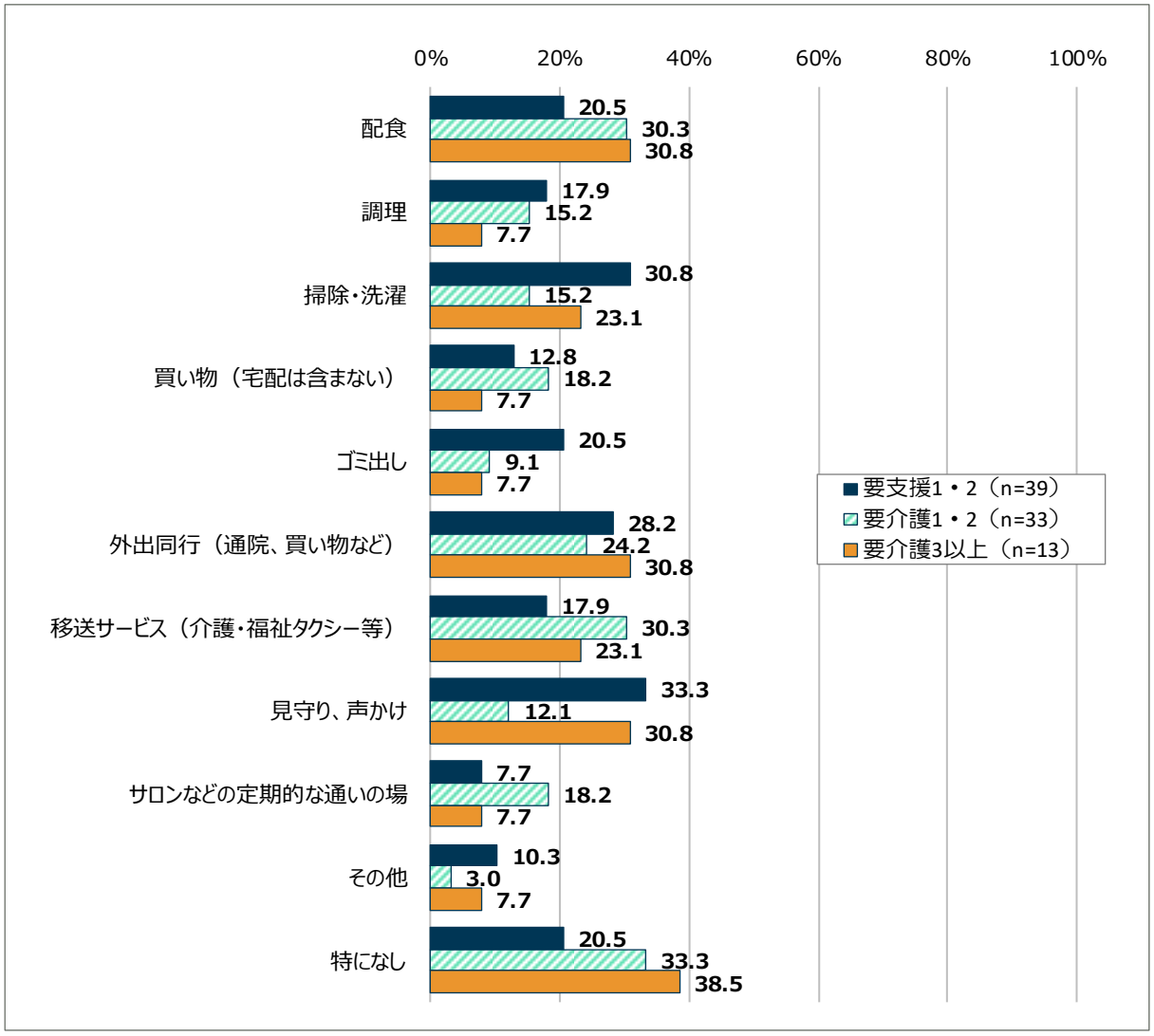
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、要介護度別にみると、要介護度にかかわらず「特になし」の割合が高くなっていますが、利用している割合で最も高いのは要支援１・２で「外出同行（通院、買い物など）」、要介護１・２と要介護度３以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっています。

要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



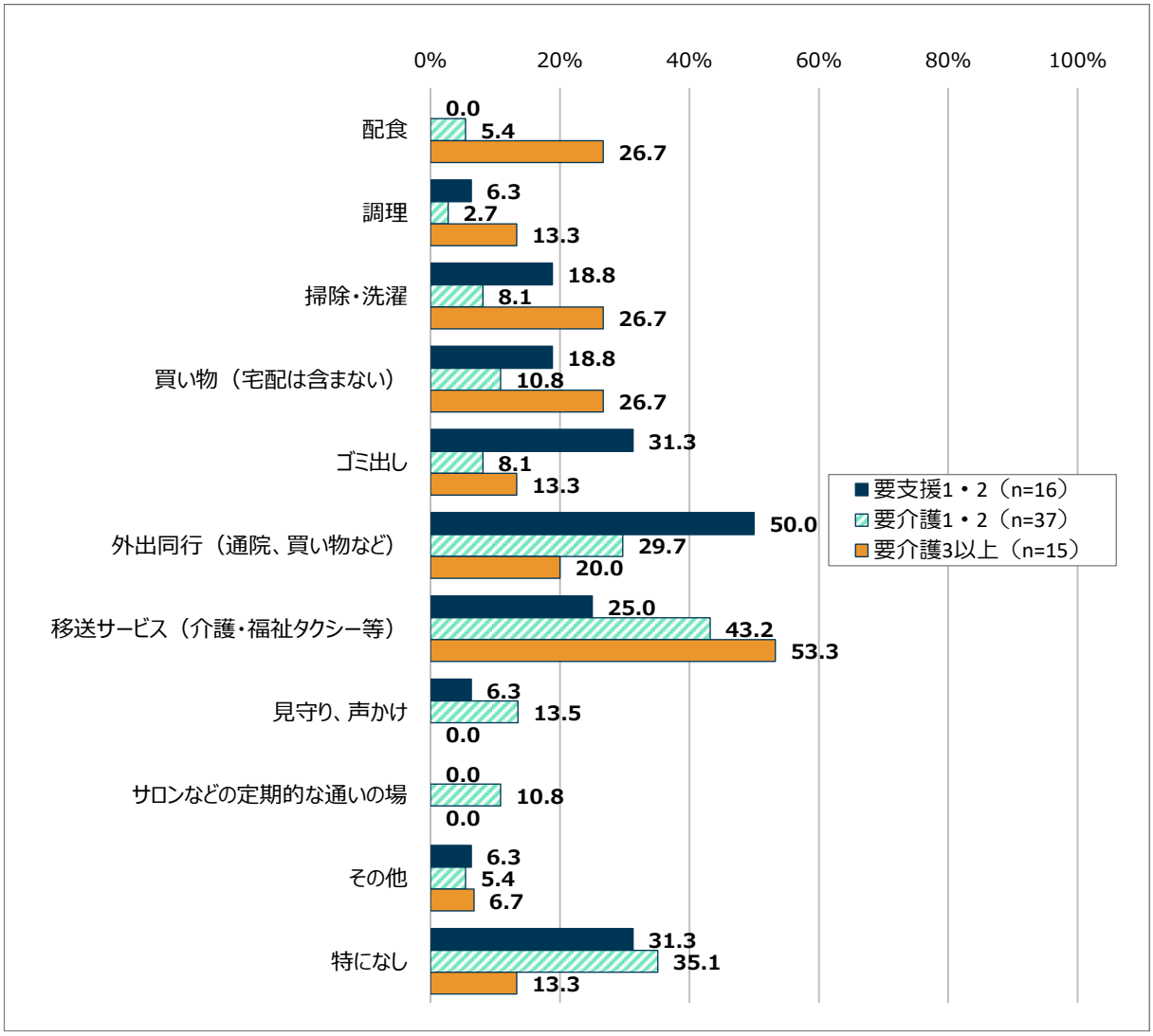
単身世帯が在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、要介護度別にみると、利用している割合で最も高いのは、要支援 1・2 で「見守り・声かけ」が 33.3%、要介護 1・2 で「配食」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 30.3%、要介護 3 以上で「配食」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」が 30.8%となっています。

要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



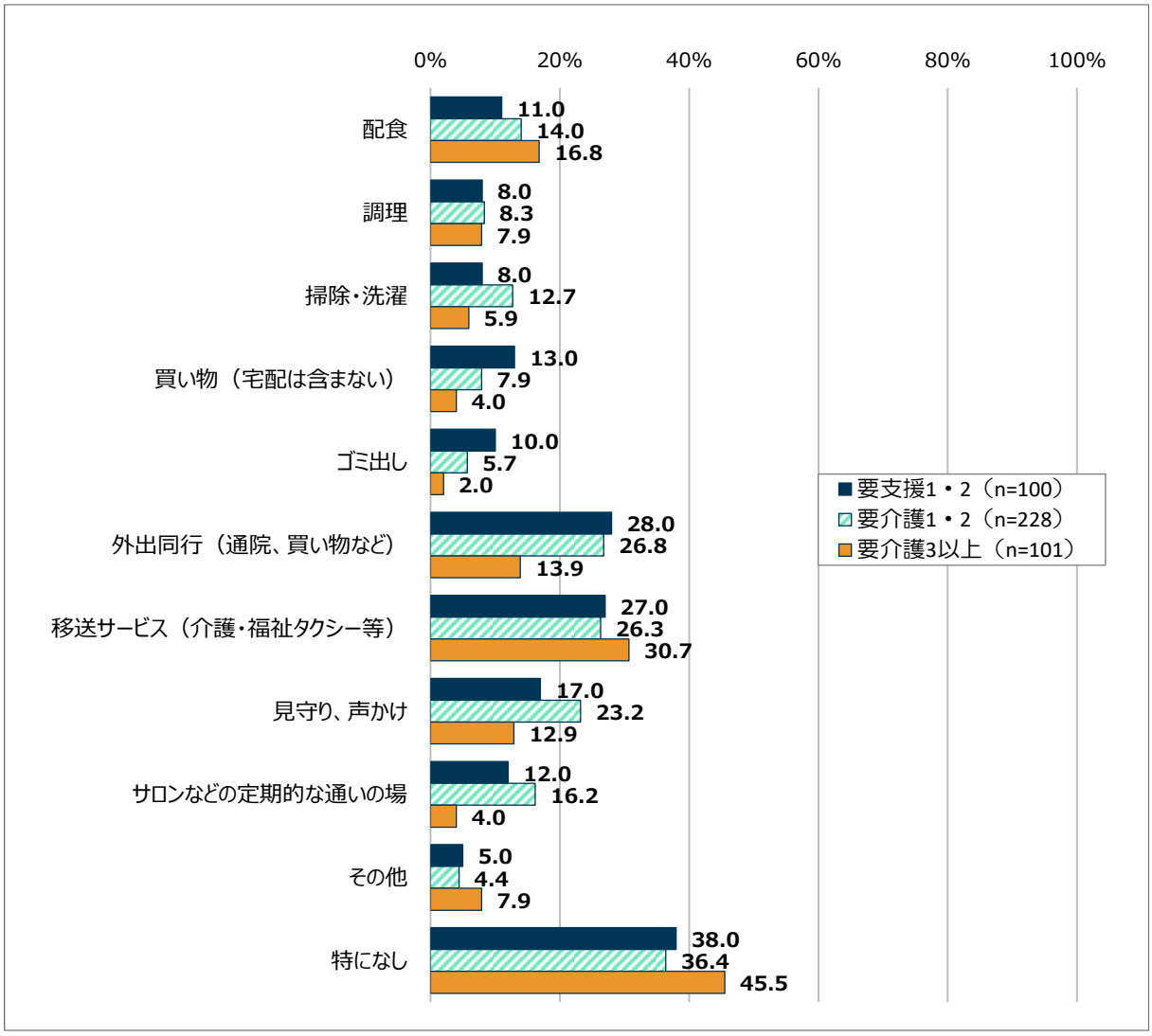
夫婦のみ世帯が在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、要介護度別にみると、利用している割合で最も高いのは、要支援１・２で「外出同行（通院、買い物など）」、要介護１・２と要介護３以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっています。

要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



その他世帯が在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、要介護度別にみると、要介護度にかかわらず「特になし」の割合が高くなっていますが、利用している割合で最も高いのは、要支援 1・2 と要介護 1・2 で「外出同行（通院、買い物など）」、要介護 3 以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっています。

要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



（4）将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

○ ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点をあてた集計を行っています。

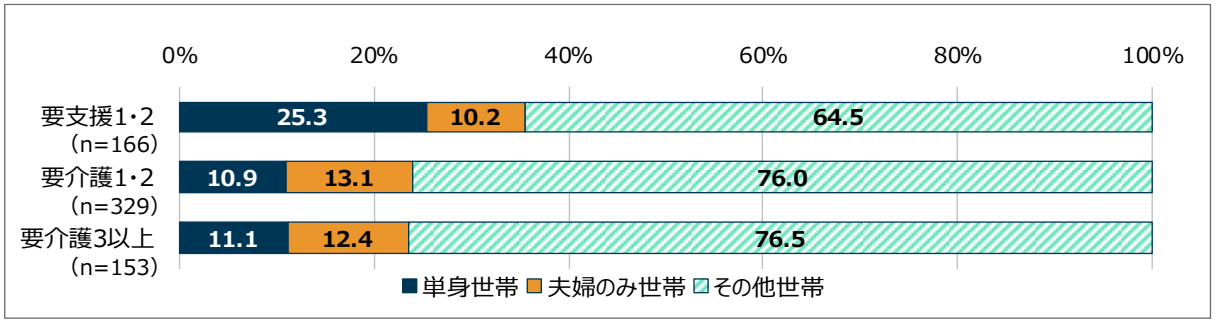
○ 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。

○ 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

1. 要介護度と世帯類型

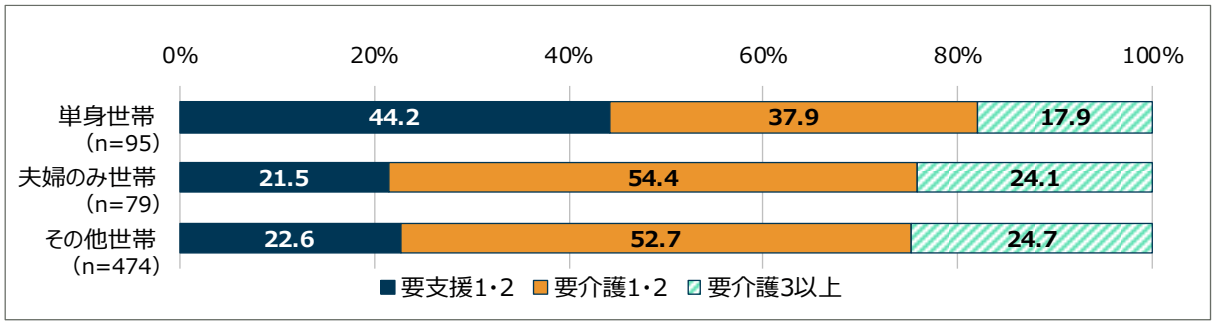
要介護度別に世帯類型をみると、要介護度にかかわらず「その他世帯」の割合が最も高くなっています。要支援 1・2 では「単身世帯」の割合が高く 25.3%となっています。

要介護度別 世帯類型



世帯類型別に要介護度をみると、単身世帯で「要介護 3 以上」の割合が低くなっています。

世帯類型別 要介護度



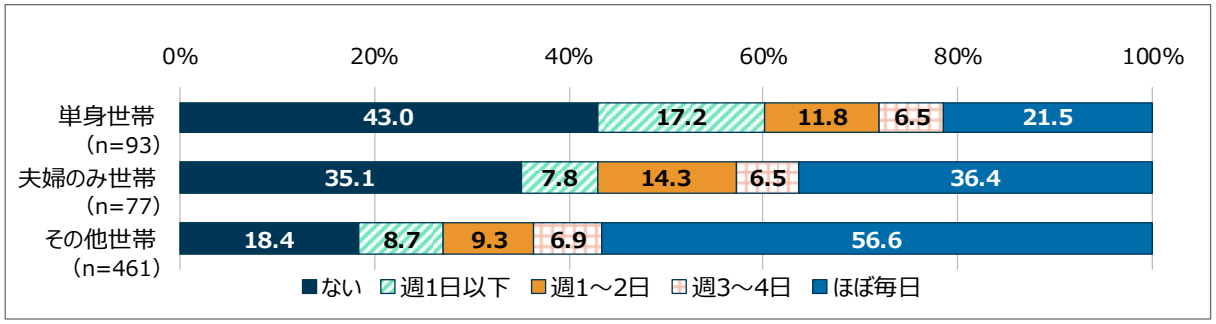
2.　要介護度別・世帯類型別の家族等による介護の頻度

○ ここでは、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。

○ 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

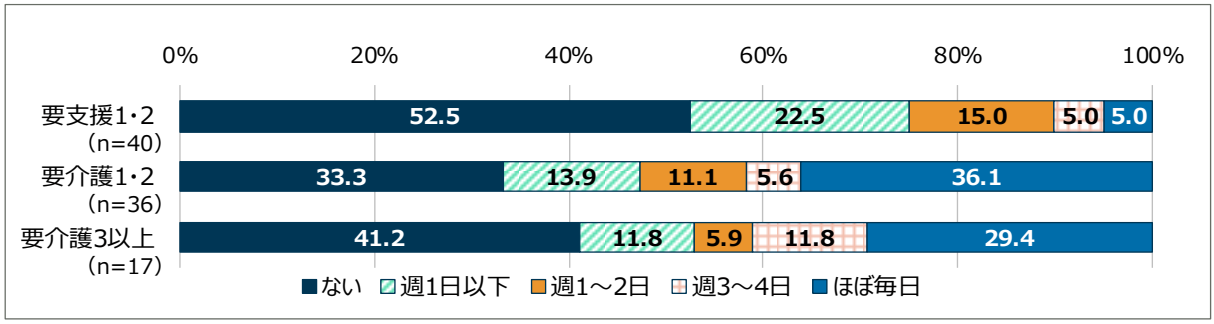
世帯類型別に家族等による介護の頻度をみると、単身世帯では「ない」割合が 43.0%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」が 21.5%となっています。一方で、夫婦のみ世帯とその他世帯では「ほぼ毎日」の割合が最も高く、特にその他世帯では 56.6%となっています。

世帯類型別 家族等による介護の頻度



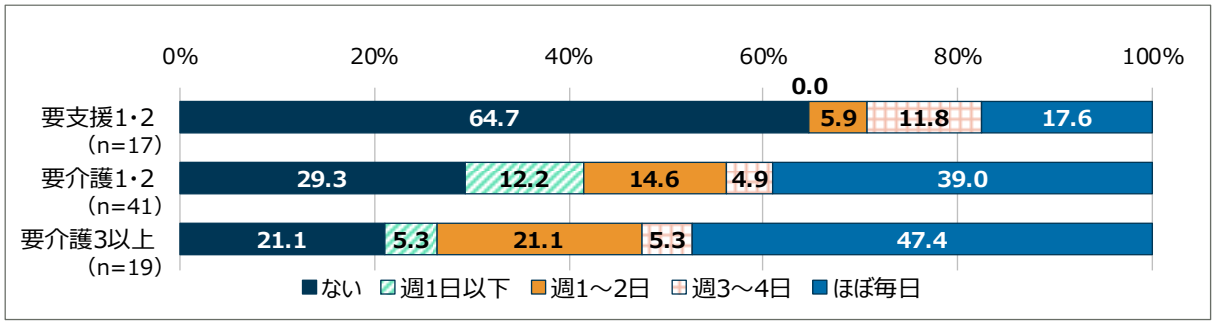
単身世帯の家族等による介護の頻度について、要介護度別にみると、要支援 1・2 で「ほぼ毎日」の割合は 5.0%と低くなっている一方、要介護 1・2 で 36.1%と最も高くなっており、要介護 3 以上で 29.4%となっています。

要介護度別 家族等による介護の頻度（単身世帯）



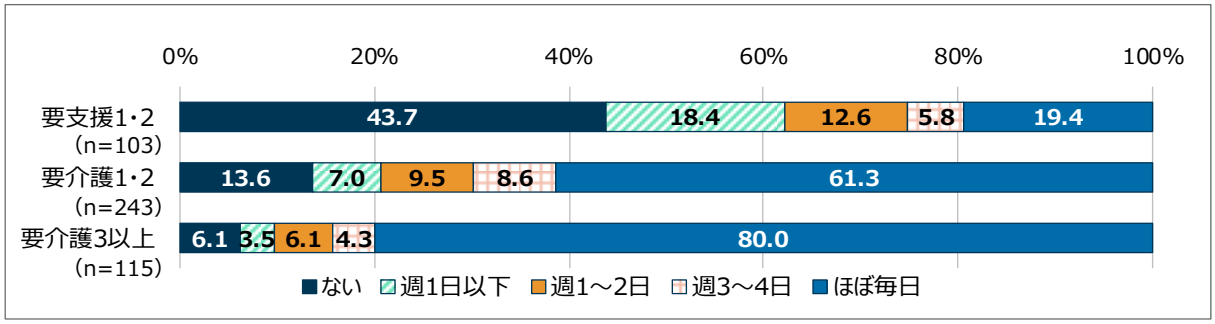
夫婦のみ世帯の家族等による介護の頻度について、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられ、要介護 3 以上では 47.4%となっています。

要介護度別 家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



その他世帯の家族等による介護の頻度について、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「ほぼ毎日」の割合が高くなる傾向がみられ、要介護 3 以上では 80.0%となっています。

要介護度別 家族等による介護の頻度（その他世帯）



3. 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別サービス利用の組み合わせ

○ 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています。

○ サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその２つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の３種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。

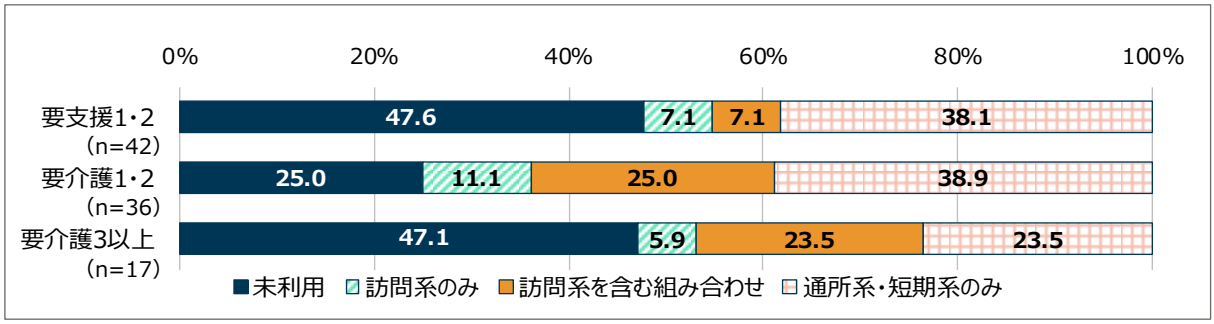
○ 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。

○ また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

○ たとえば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

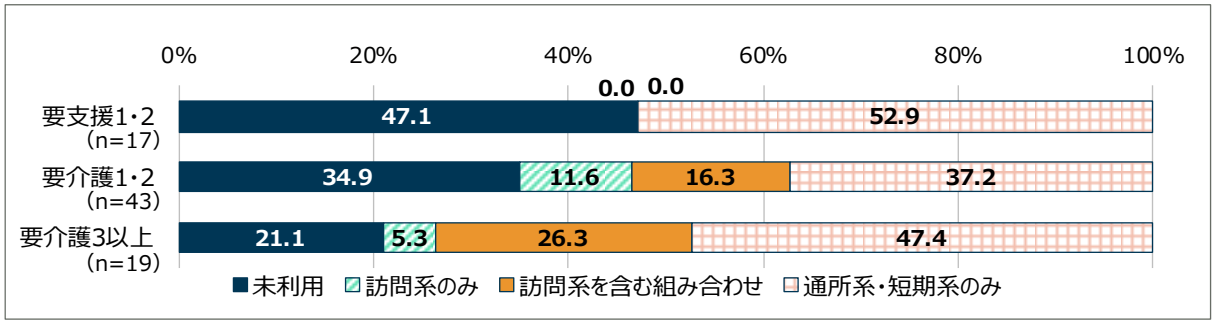
単身世帯のサービス利用の組み合わせについて、要介護度別にみると、要介護 1・2 で「未利用」の割合が低くなっています。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



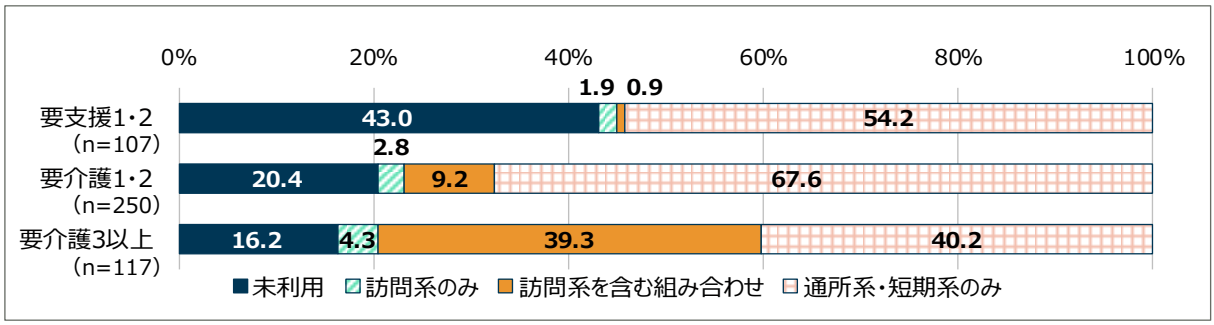
夫婦のみ世帯のサービス利用の組み合わせについて、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



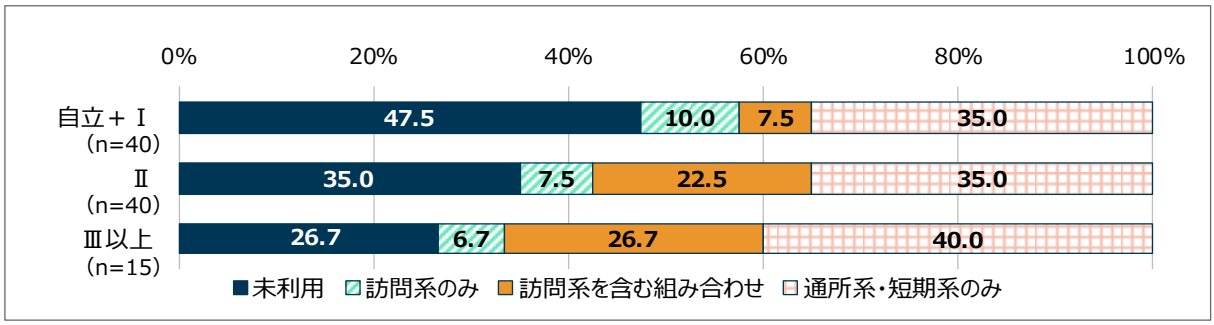
その他世帯のサービス利用の組み合わせについて、要介護度別にみると、要介護度にかかわらず「通所系・短期系のみ」の割合が最も高くなっていますが、要介護度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



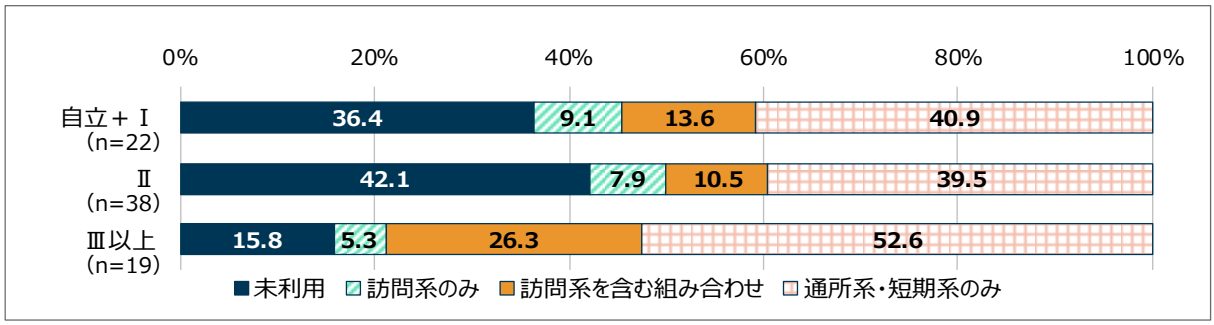
単身世帯のサービス利用の組み合わせについて、認知症自立度別にみると、認知症自立度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がみられます。

認知症自立度別 サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



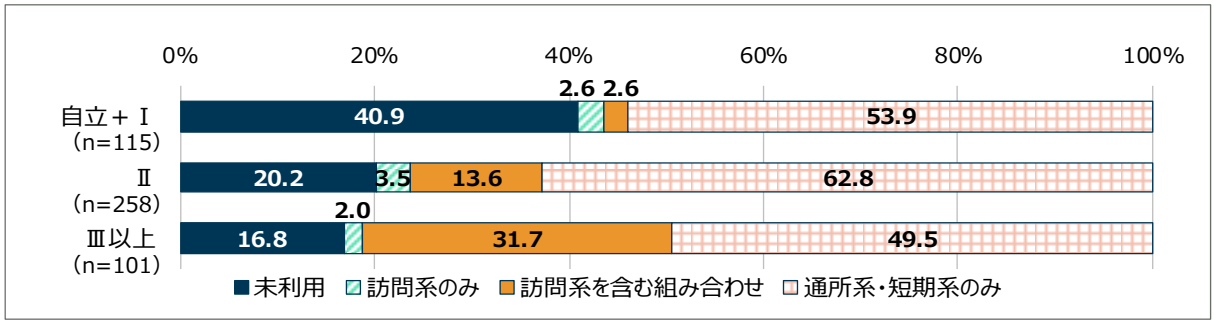
夫婦のみ世帯のサービス利用の組み合わせについて、認知症自立度別にみると、認知症自立度Ⅲ以上で「通所系・短期系のみ」の割合が高く 52.6%となっています。

認知症自立度別 サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



その他世帯のサービス利用の組み合わせについて、認知症自立度別にみると、認知症自立度Ⅱで「通所系・短期系のみ」の割合が高く 62.8%となっています。

認知症自立度別 サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



4.　要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別施設等検討の状況

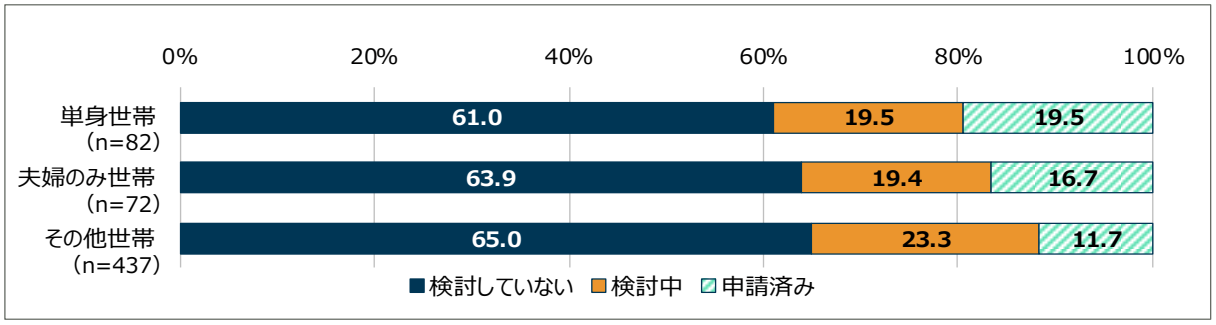
○ ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています。

○ 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○ ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

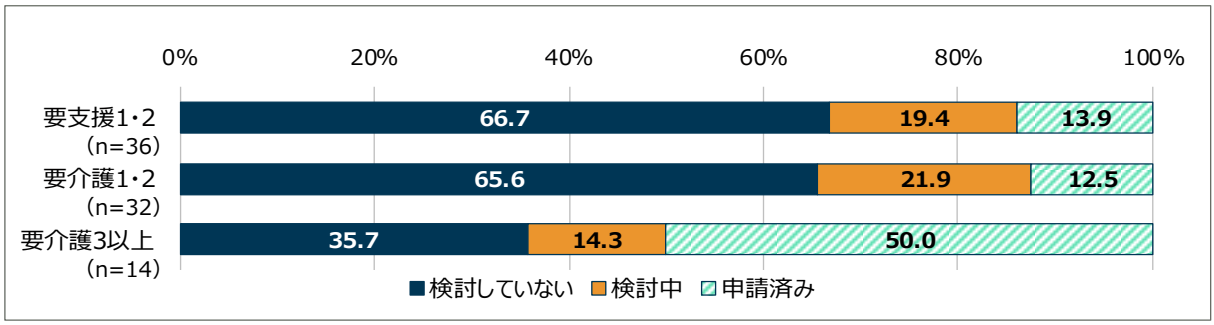
世帯類型別に施設等検討の状況をみると、すべての世帯類型で「検討していない」の割合が 60%以上となっていますが、その他世帯で「検討中」の割合が高くなっています。

世帯類型別 施設等検討の状況



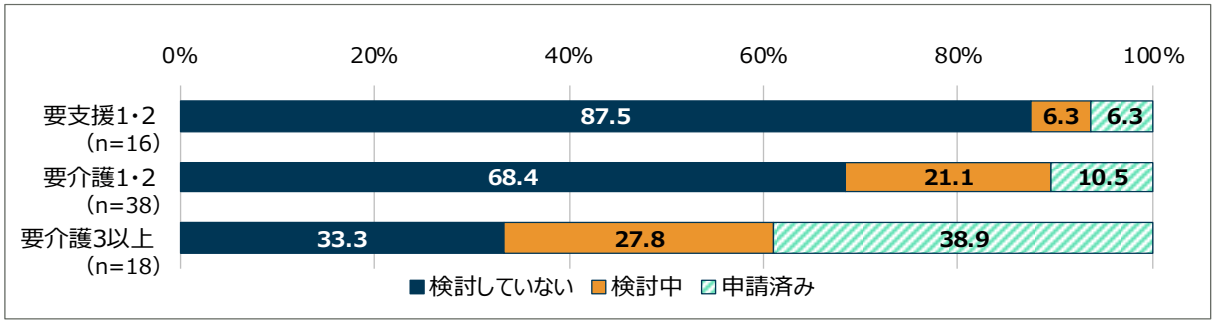
単身世帯の施設等検討の状況について、要介護度別にみると、要介護度 3 以上で「申請済み」の割合が高く 50.0%となっています。

要介護度別 施設等検討の状況（単身世帯）



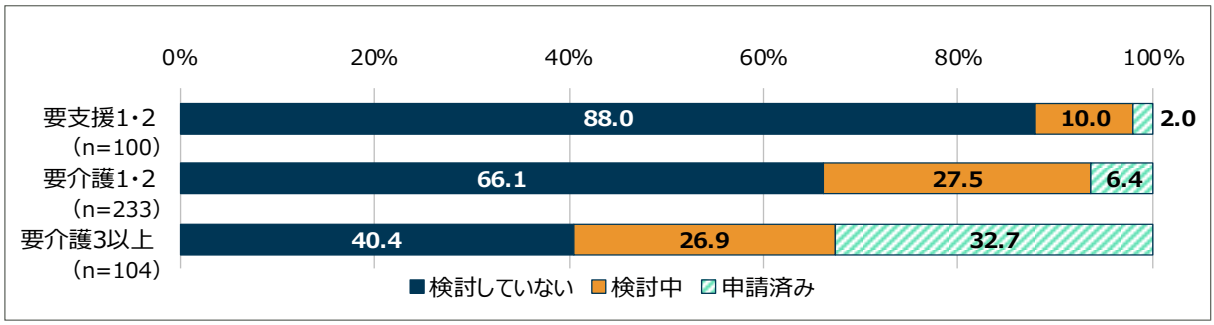
夫婦のみ世帯の施設等検討の状況について、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「検討していない」の割合が低くなり、「申請済み」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



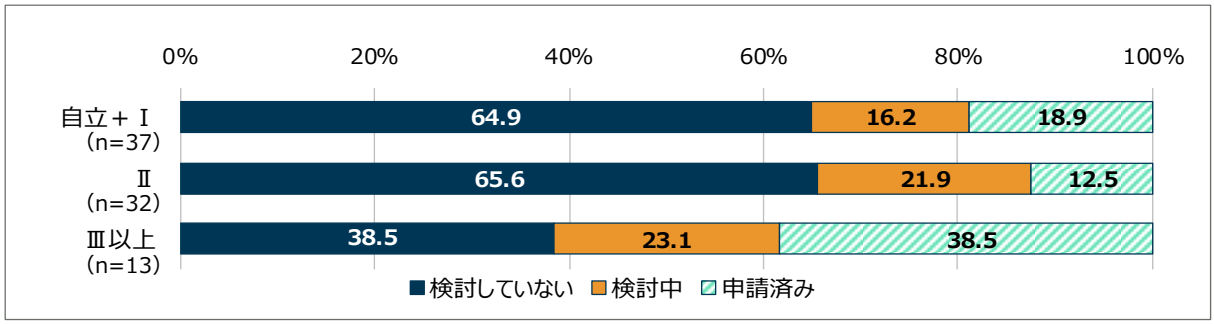
その他世帯の施設等検討の状況について、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「検討していない」の割合が低くなり、「申請済み」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 施設等検討の状況（その他世帯）



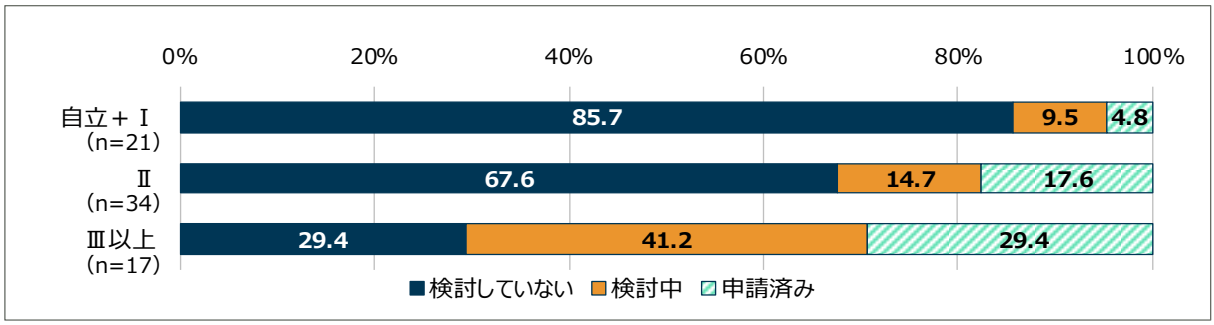
単身世帯の施設等検討の状況について、認知症自立度別にみると、認知症自立度Ⅲ以上で「申請済み」の割合が高くなっています。

認知症自立度別 施設等検討の状況（単身世帯）



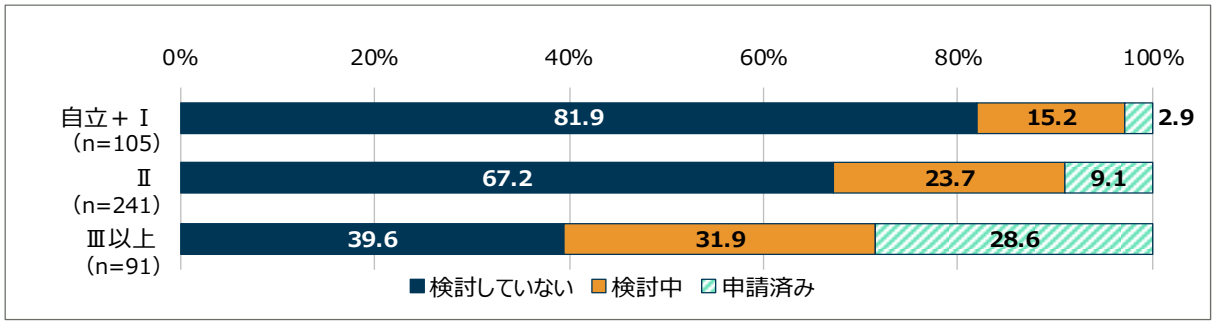
夫婦のみ世帯の施設等検討の状況について、認知症自立度別にみると、認知症自立度の重度化に伴い「検討していない」の割合が低くなり、「検討中」「申請済み」の割合が高くなっています。

認知症自立度別 施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



その他世帯の施設等検討の状況について、認知症自立度別にみると、認知症自立度の重度化に伴い「検討中」「申請済み」の割合が高くなる傾向がみられます。

認知症自立度別 施設等検討の状況（その他世帯）



（5）医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討

○ ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。

○ 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

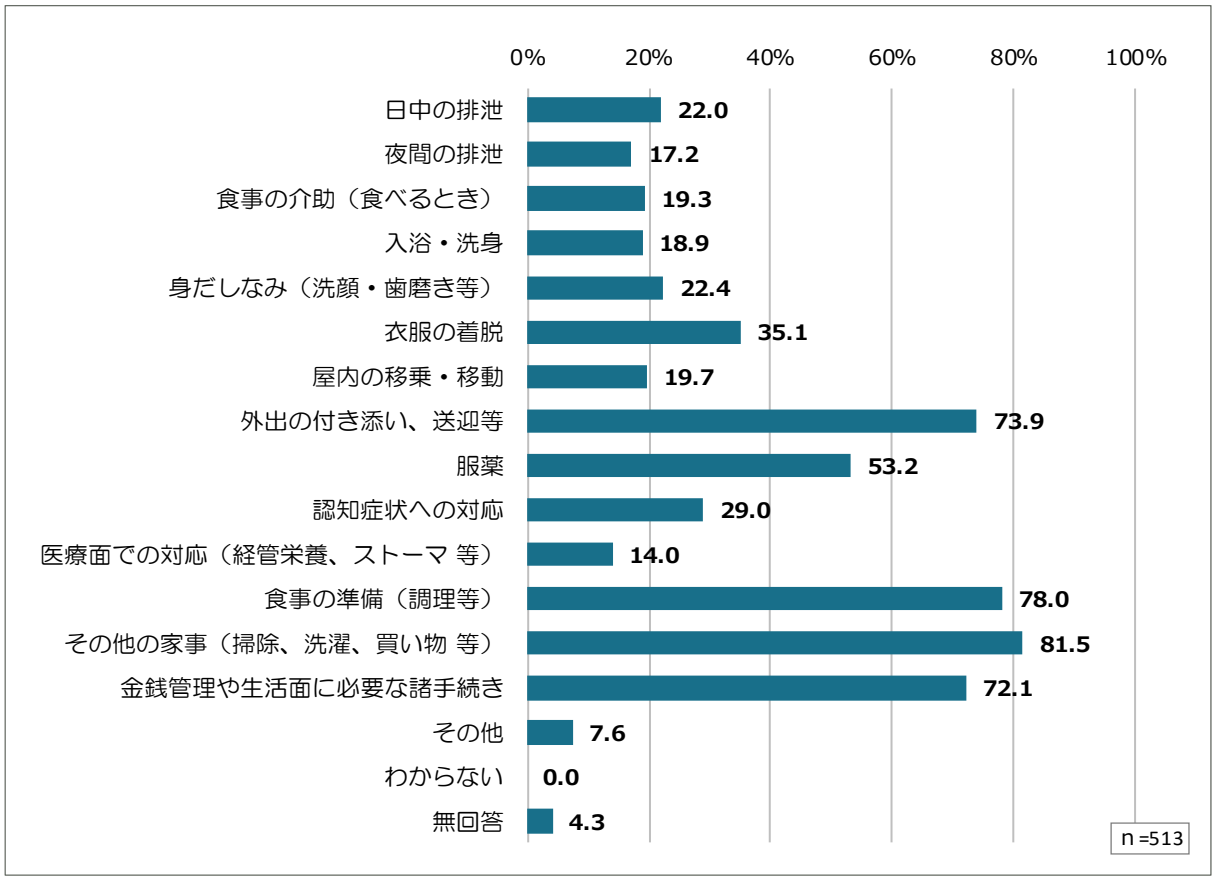
1. 要介護度別・世帯類型別主な介護者が行っている介護

○ 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています。

○ ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

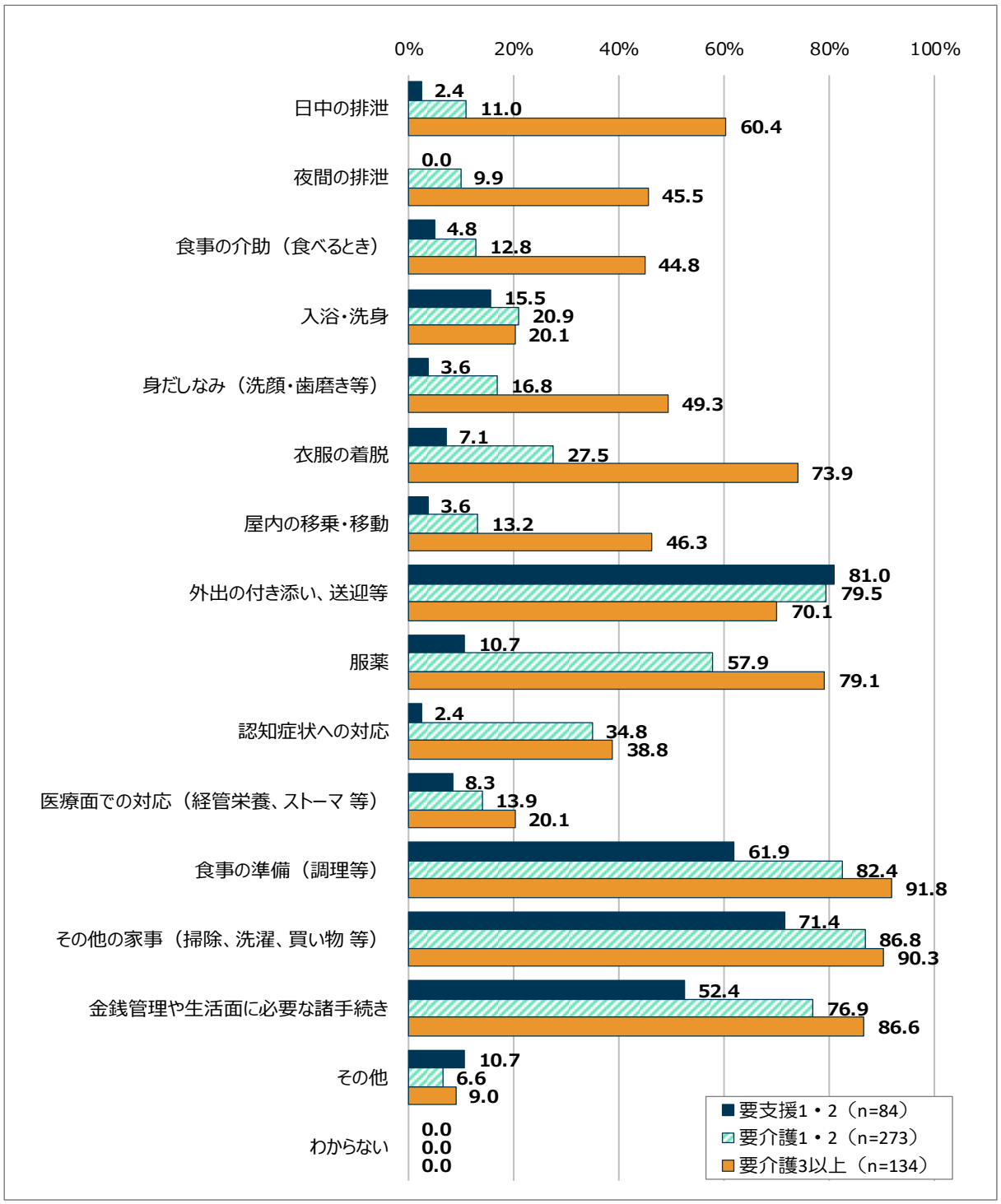
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 81.5%と最も高くなっています。次いで「食事の準備（調理等）」が 78.0%、「外出の付き添い、送迎等」が 73.9%、「金銭管理や生活面に必要な手続き」が 72.1%などとなっています。「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は 14.0%となっています。

主な介護者が行っている介護



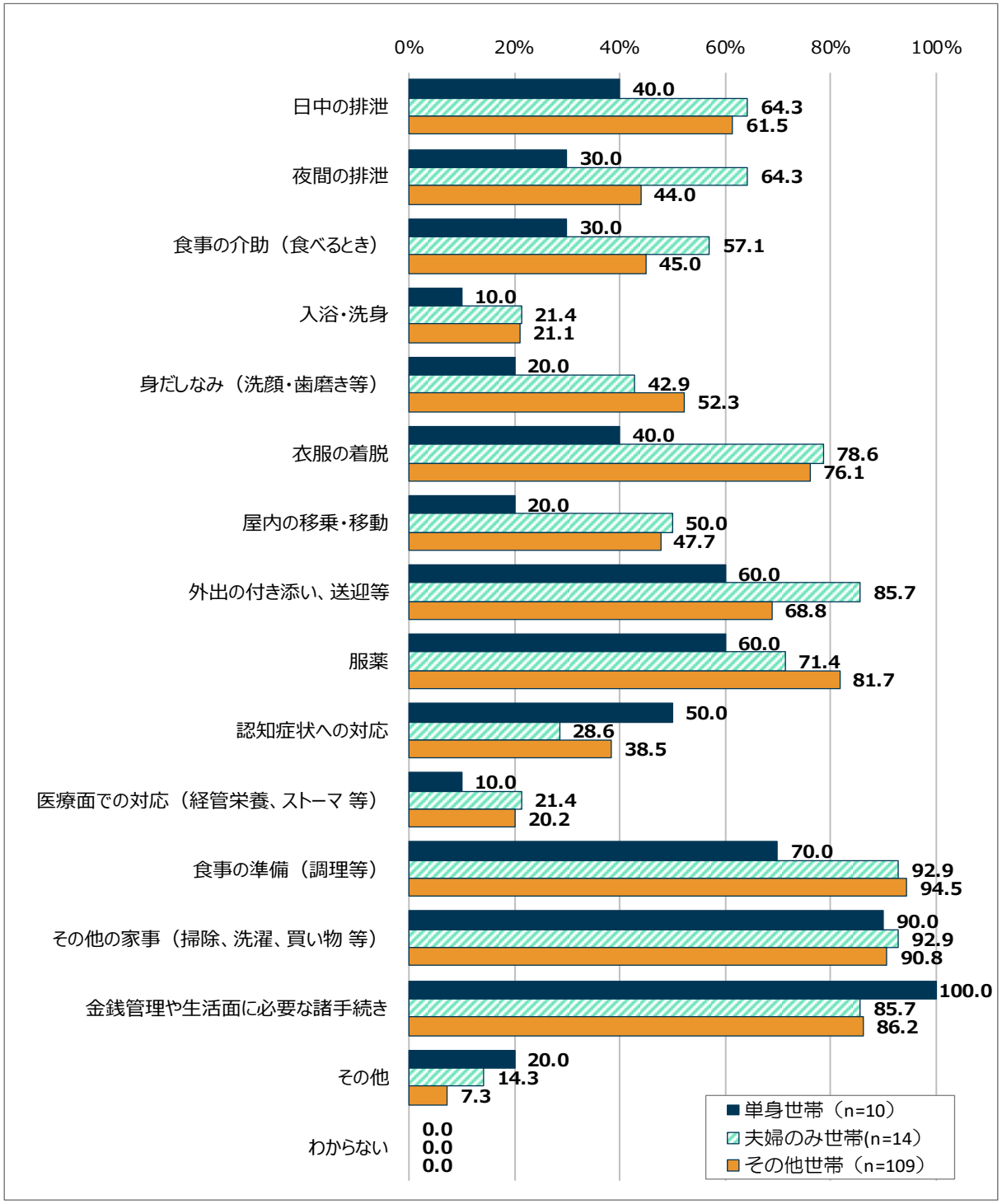
要介護度別に主な介護者が行っている介護をみると、要支援 1・2 では「外出の付き添い、送迎等」、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」「食事の準備（調理等）」が高くなっています。要介護 1・2 では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、次いで「食事の準備（調理等）」「外出の付き添い、送迎等」などが高くなっています。要介護 3 以上では「食事の準備（調理等）」、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」「金銭管理や生活面に必要な手続き」などが 80%以上と高くなっていますが、「服薬」「衣服の着脱」「外出の付き添い、送迎等」なども 70%以上と高くなっています。

要介護度別 主な介護者が行っている介護



要介護 3 以上の方に主な介護者が行っている介護について、世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯とその他世帯では「食事の準備（調理等）」の割合が高くなっています。一方で、単身世帯では「入浴・洗身」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」の割合が 10.0%となっています。

世帯類型別 主な介護者が行っている介護（要介護 3 以上）



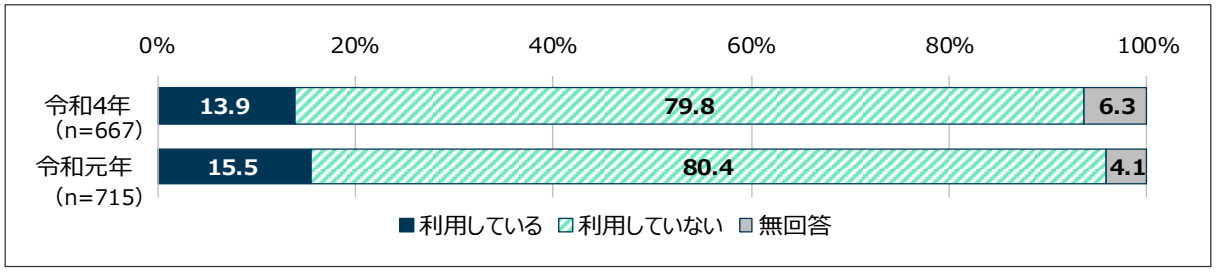
2. 訪問診療の利用割合

○ 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています。

○ 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

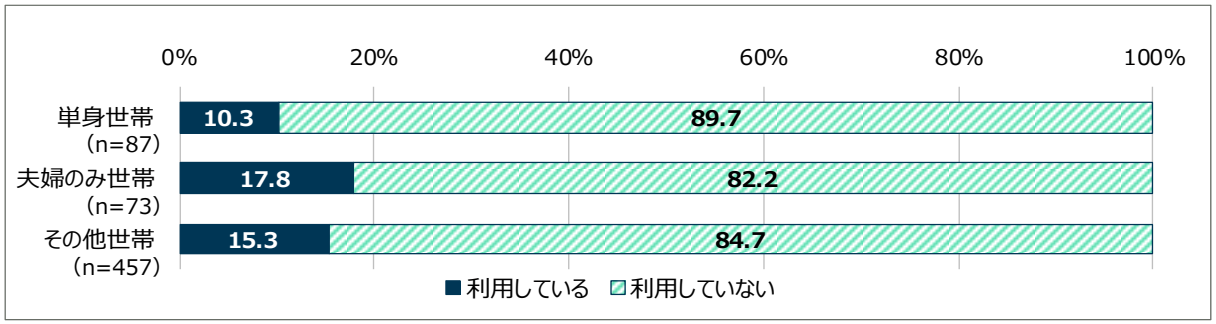
「利用している」が 13.9%、「利用していない」が 79.8%となっています。

訪問診療の利用の有無



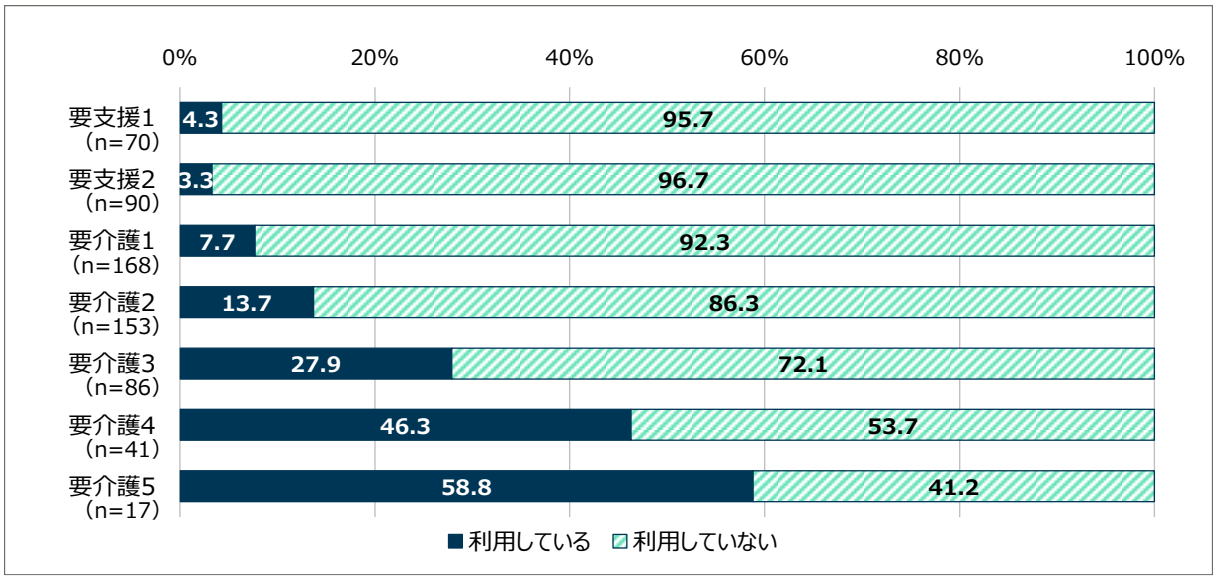
世帯類型別に訪問診療の利用の有無をみると、すべての世帯類型で「利用していない」の割合が 80%以上となっていますが、単身世帯で「利用している」の割合がやや低くなっています。

世帯類型別 訪問診療の利用割合



要介護度別に訪問診療の利用の有無をみると、要介護度の重度化に伴い「利用している」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 訪問診療の利用割合



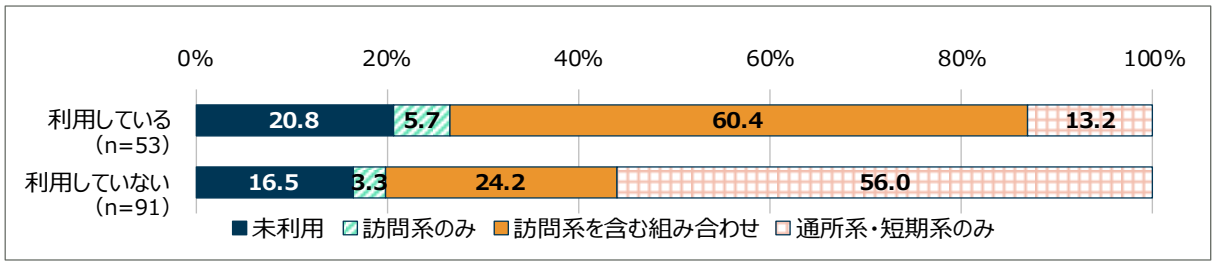
3. 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

○ 訪問診療の利用の有無別に、要介護 3 以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています。

○ 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

要介護 3 以上の方のサービス利用の組み合わせについて、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を利用していないでは「通所系・短期系のみ」の割合が高く、訪問診療を利用しているでは「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

訪問診療の利用の有無別 サービス利用の組み合わせ（要介護 3 以上）



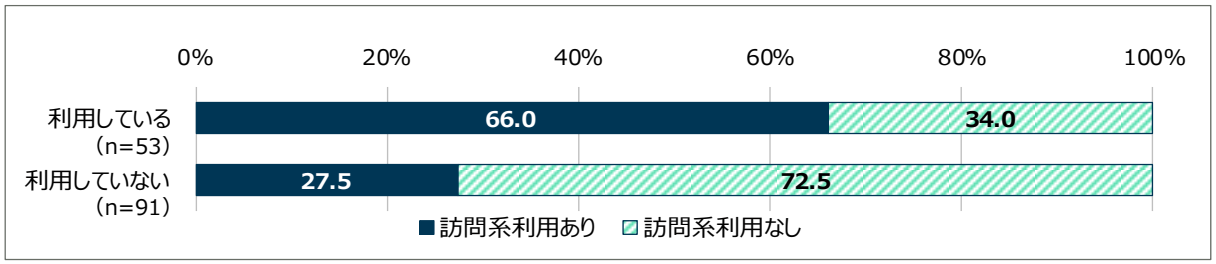
4.　訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

○ 訪問診療の利用の有無別に、要介護３以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています。

○ 地域によっては、たとえば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

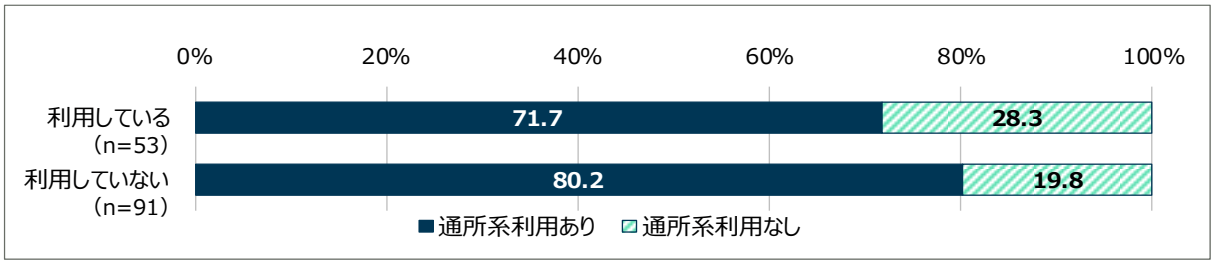
要介護３以上の方の訪問系サービスの利用の有無について、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を利用しているでは「訪問系利用あり」の割合が高くなっています。

訪問診療の利用の有無別 サービスの利用の有無：訪問系（要介護３以上）



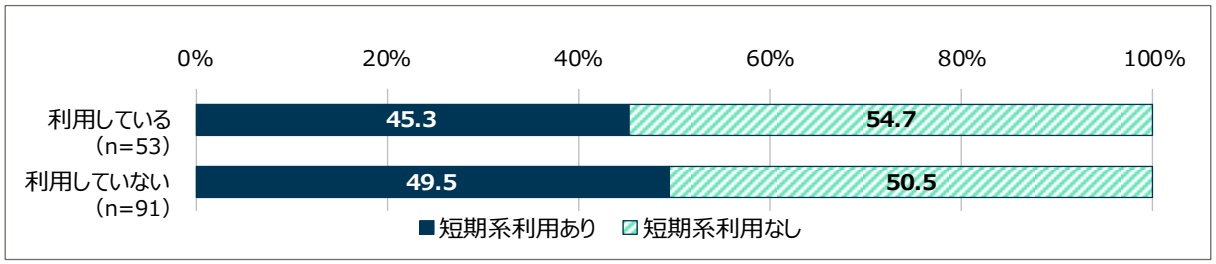
要介護３以上の方の通所系サービスの利用の有無（定期巡回を除く）について、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を利用していないでは「通所系利用あり」の割合が高くなっています。

訪問診療の利用の有無別 サービスの利用の有無：通所系（要介護３以上）



要介護３以上の方の短期系サービスの利用の有無（定期巡回を除く）について、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を利用しているでは「短期系利用なし」の割合がやや高くなっています。

訪問診療の利用の有無別 サービスの利用の有無：短期系（要介護３以上）

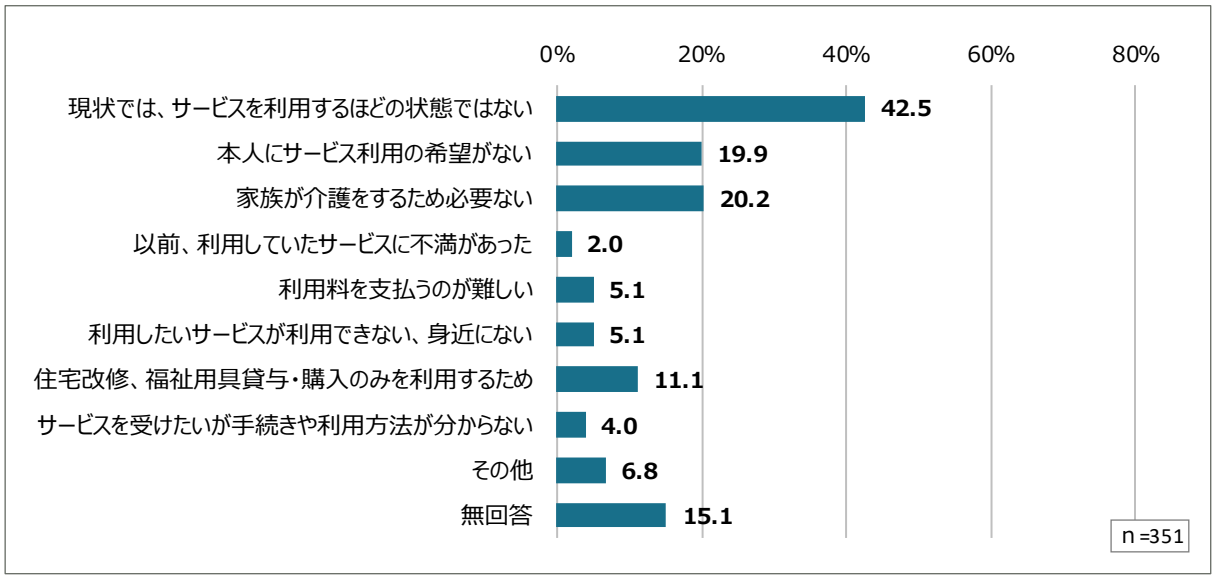


（6）サービス未利用の理由など

1.　サービス未利用の理由

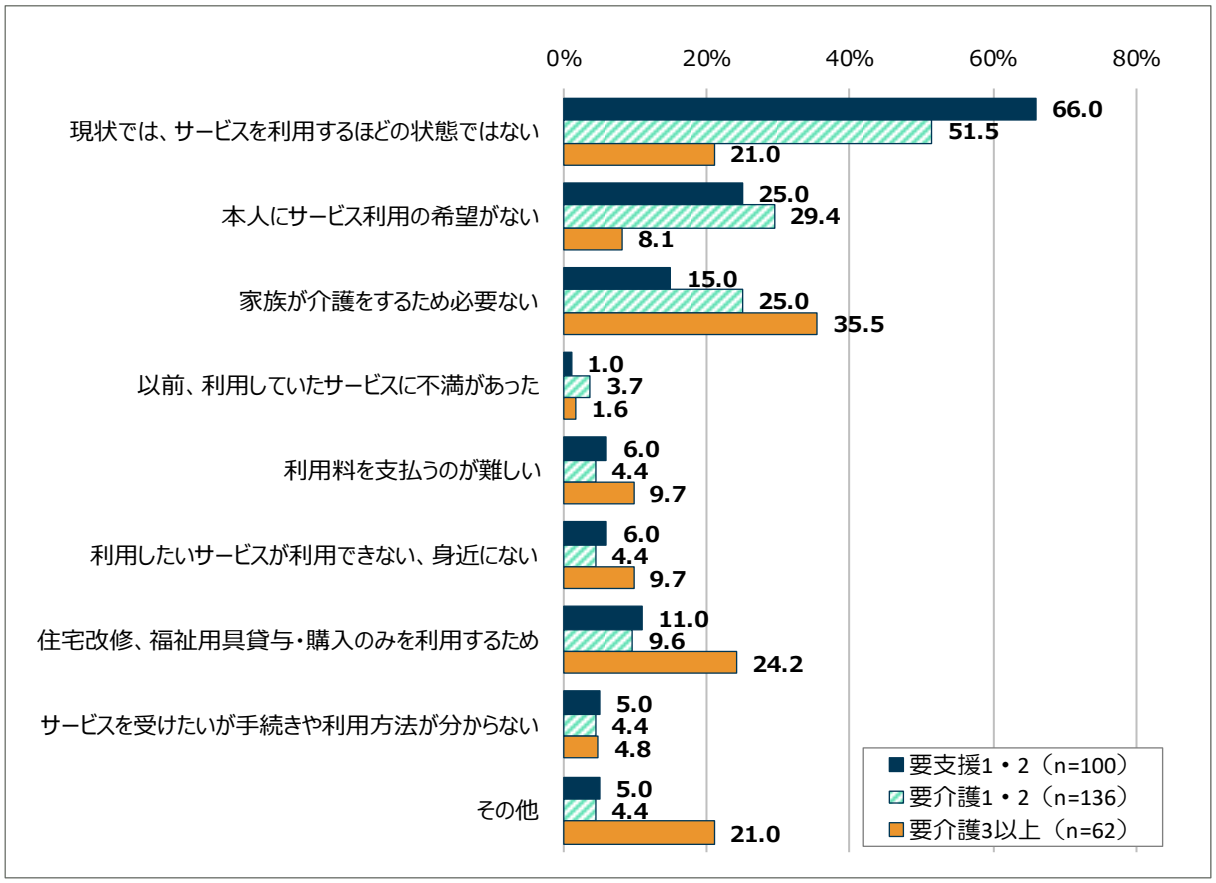
介護保険サービスを利用していない理由で割合が最も高いのは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 42.5%となっています。次いで「家族が介護をするため必要ない」が 20.2%となっています。

サービス未利用の理由



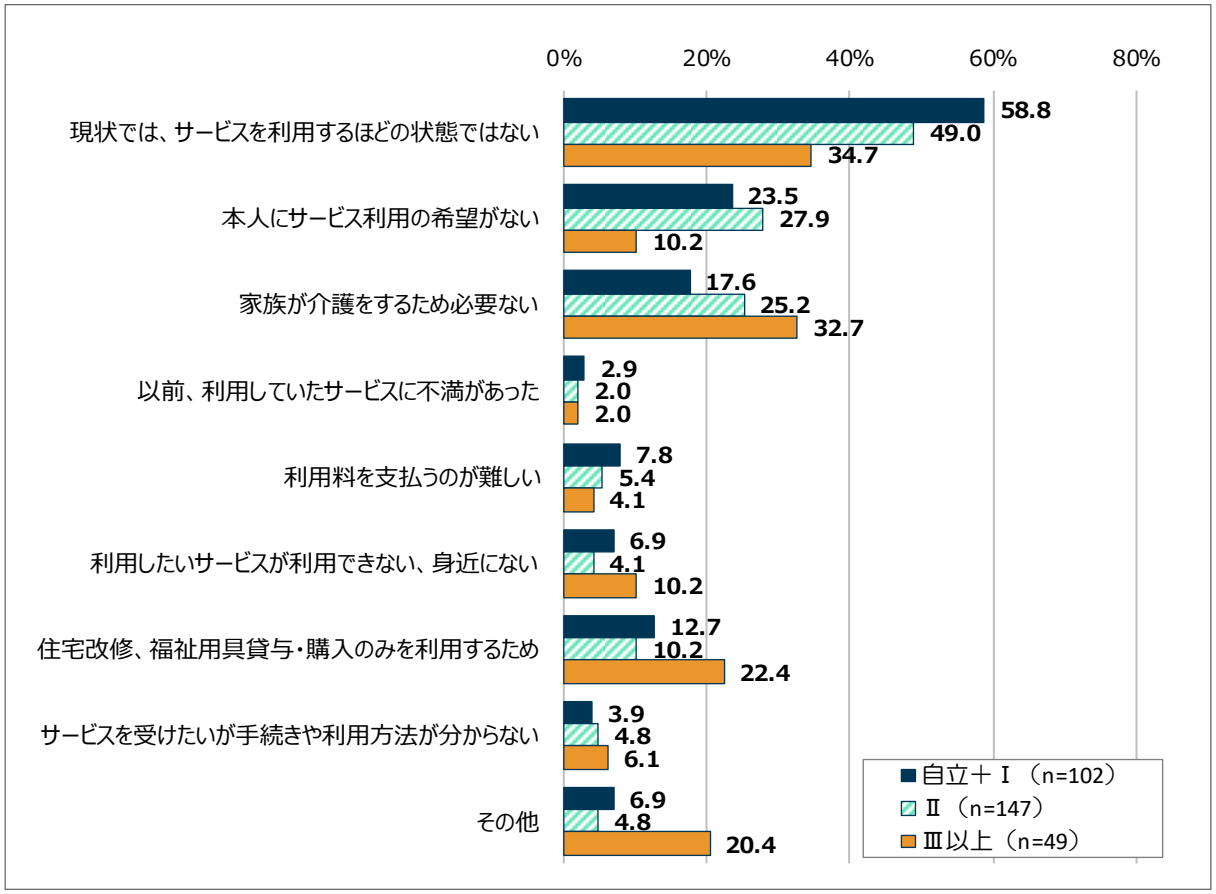
介護保険サービスを利用していない理由について、要介護度別にみると、要支援 1・2 と要介護 1・2 では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高くなっており、次いで「本人にサービス利用の希望がない」の割合が高くなっています。要介護 3 以上では「家族が介護するため必要ない」の割合が最も高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が高くなっています。

要介護度別 サービス未利用の理由



介護保険サービスを利用していない理由について、認知症自立度別にみると、すべての認知症自立度で「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も高くなっています。次いで自立+Ⅰと認知症自立度Ⅱでは「本人にサービス利用の希望がない」の割合が高くなっており、認知症自立度Ⅲでは「家族が介護をするため必要ない」の割合が高くなっています。

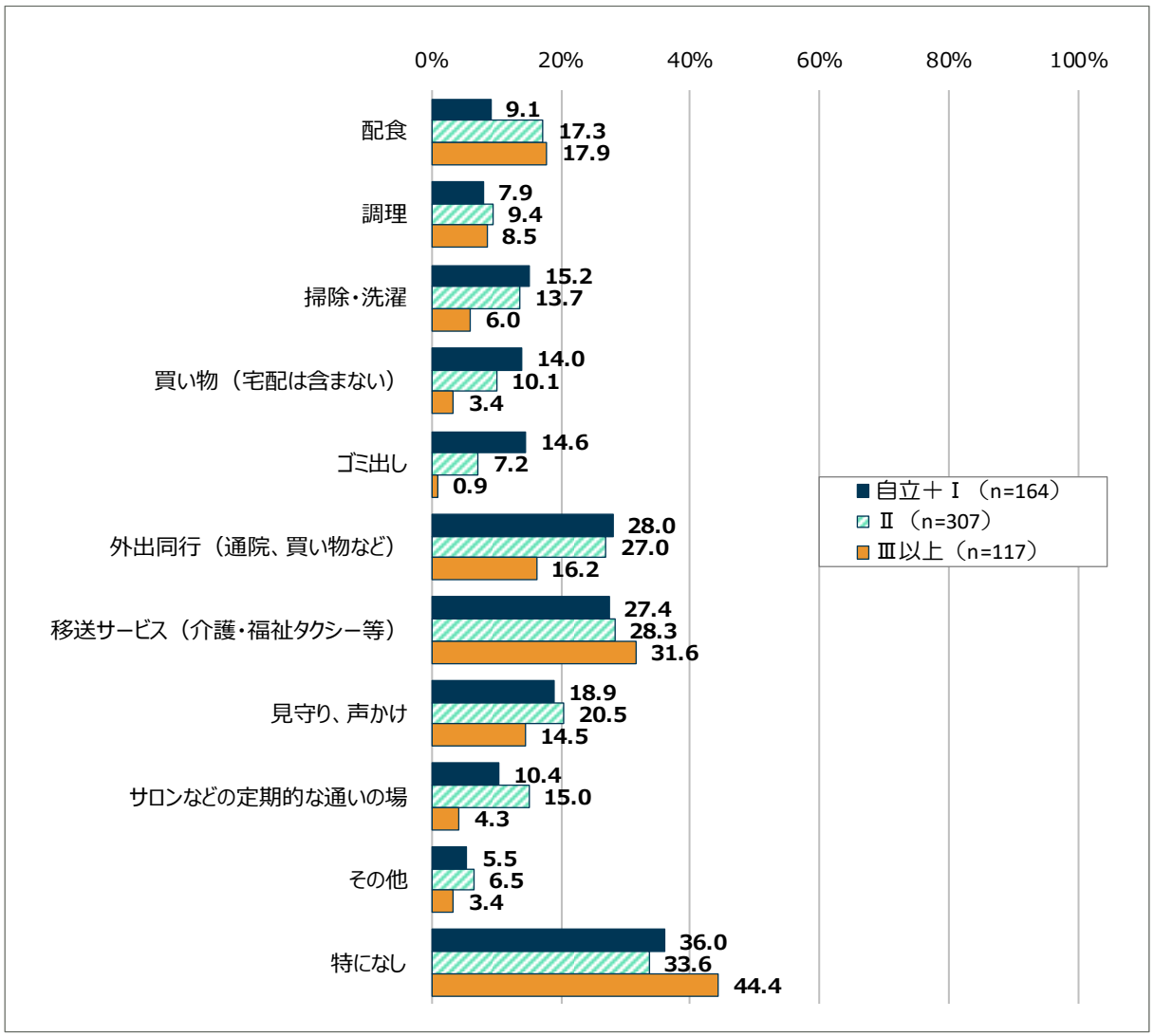
認知症自立度別 サービス未利用の理由



2.　認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

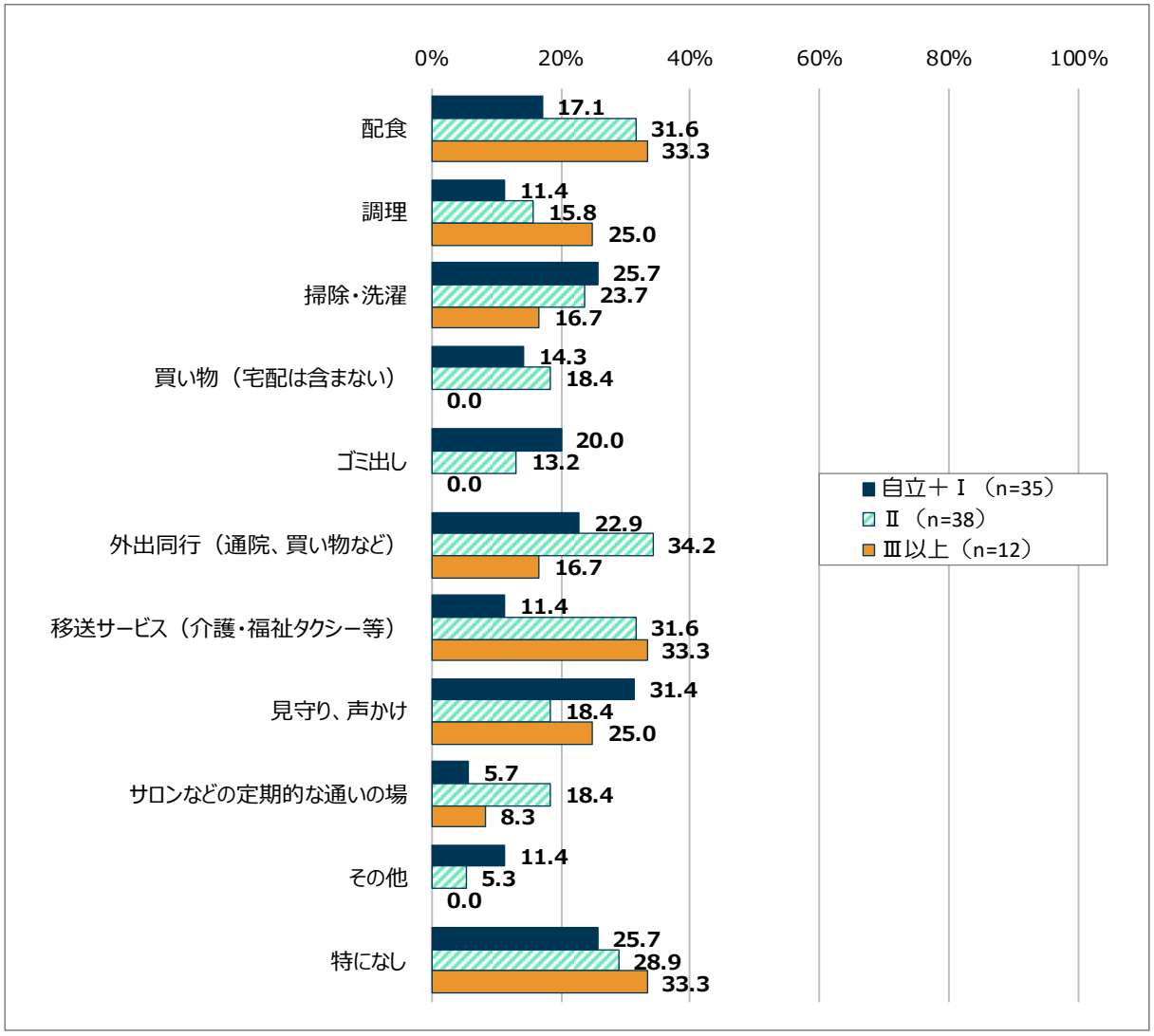
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、認知症自立度別にみると、すべての認知症自立度で「特になし」が最も高くなっていますが、必要と感じる支援・サービスでは、自立+Ⅰで「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く、認知症自立度Ⅱ～Ⅲ以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高くなっています。

認知症自立度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



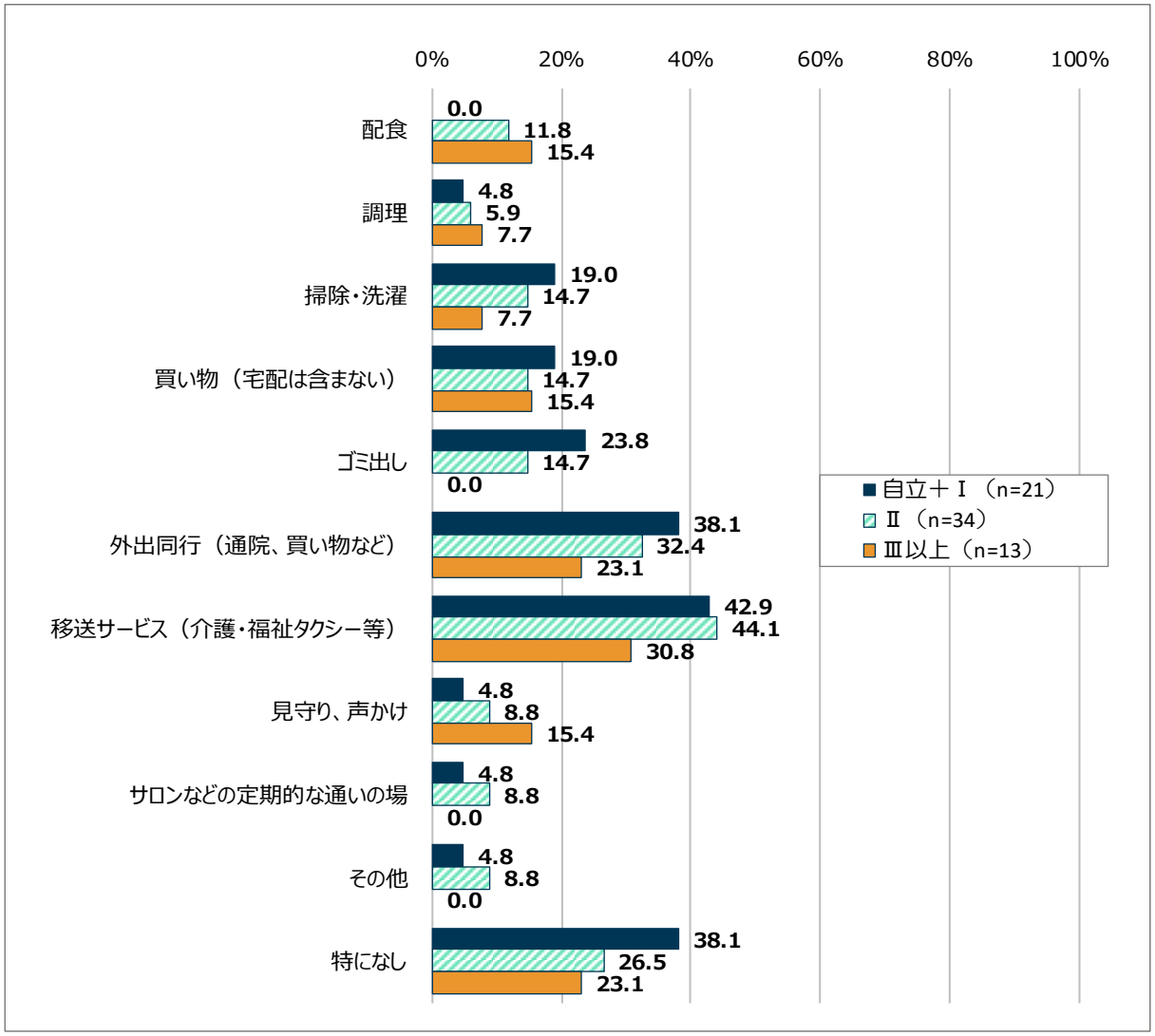
単身世帯の方が在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、認知症自立度別にみると、割合が最も高いのは、自立+Ⅰで「見守り、声かけ」、認知症自立度Ⅱで「外出同行（通院・買い物など）」、認知症自立度Ⅲ以上で「配食」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっています。

認知症自立度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



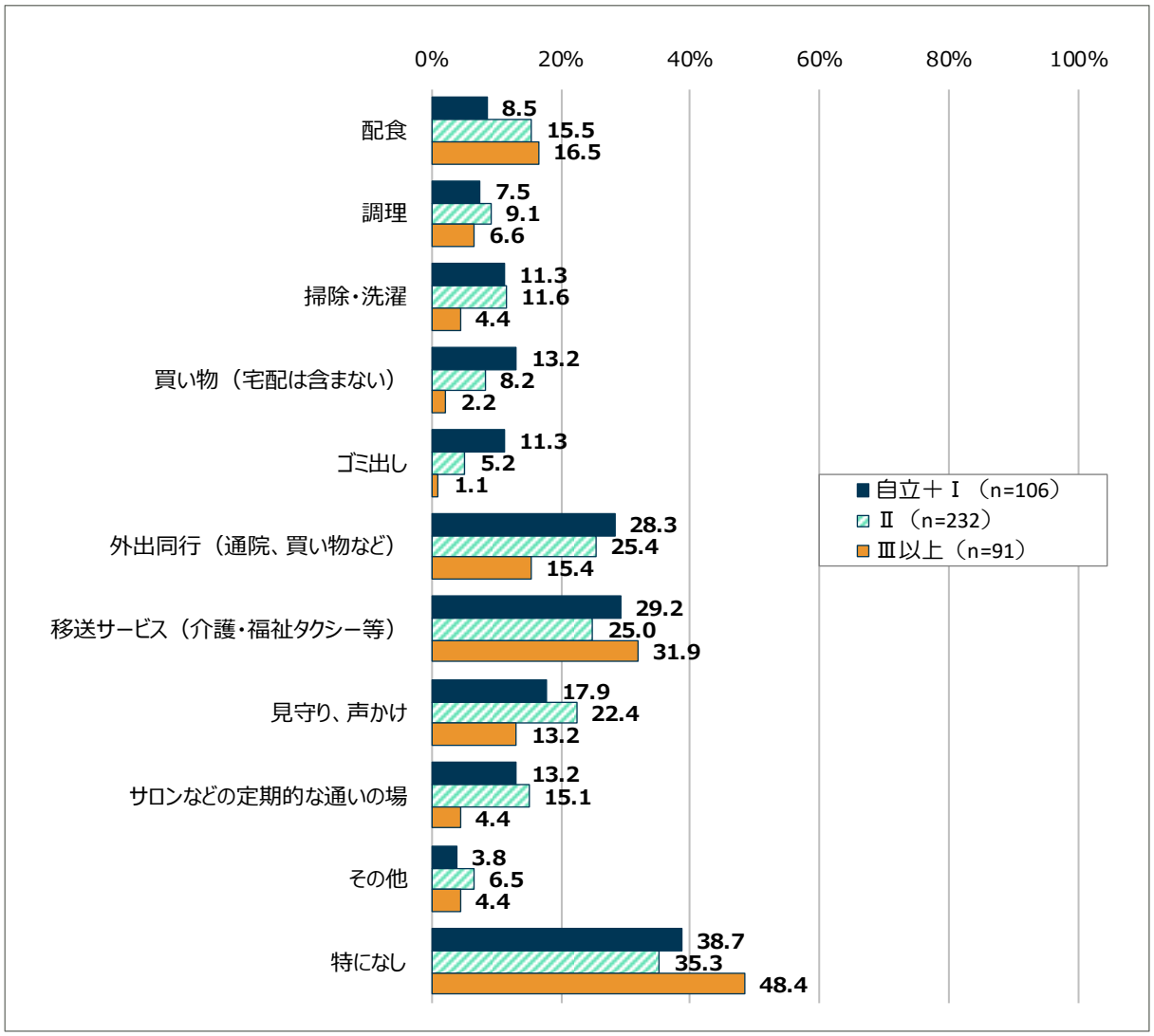
夫婦のみ世帯の方が在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、認知症自立度別にみると、すべての認知症自立度で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高くなっており、次いで「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高くなっています。

認知症自立度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



その他世帯の方が在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、認知症自立度別にみると、すべての認知症自立度で「特になし」が最も高くなっていますが、必要と感じる支援・サービスでは、自立+Ⅰと認知症自立度Ⅲ以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が高くなっています。認知症自立度Ⅱで「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高くなっています。

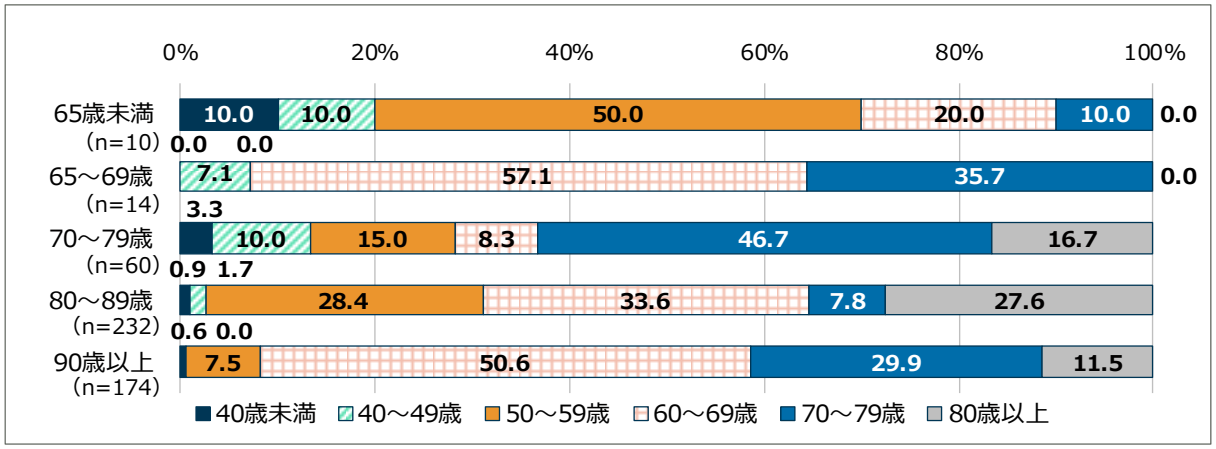
認知症自立度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



3.　本人の年齢別・主な介護者の年齢

本人の年齢別に主な介護者の年齢をみると、本人が 65 歳未満では「50～59 歳」が 50.0%と最も高くなっています。本人が 65～69 歳では「60～69 歳」が 57.1%となっています。本人が 70～79 歳では主な介護者は同世代の「70～79 歳」が 46.7%と最も高くなっています。本人が 80～89 歳では「60～69 歳」が 33.6%と最も高く、次いで「50～59 歳」が 28.4%となっています。本人が 90 歳以上では「60～69 歳」が 50.6%と最も高くなっています。

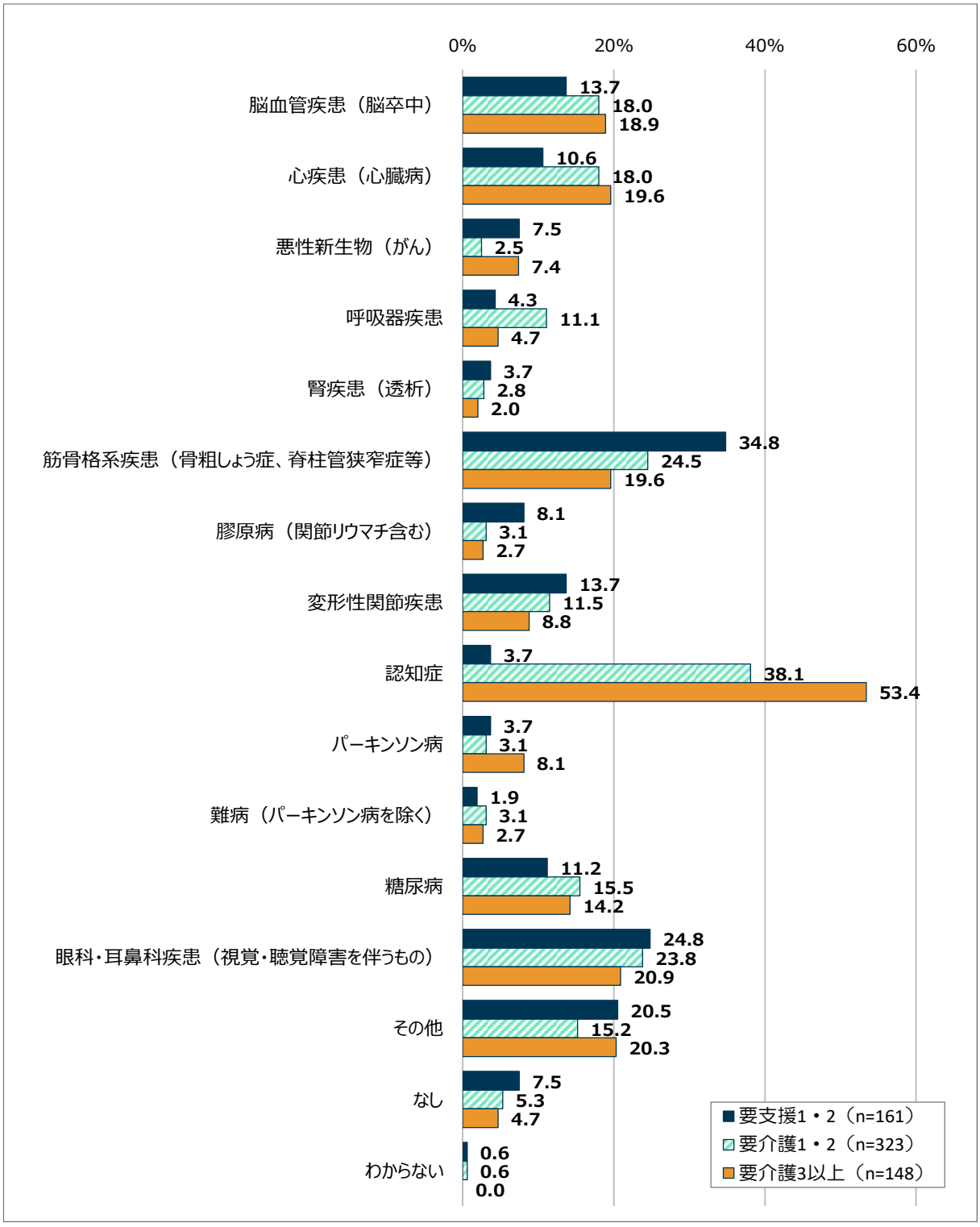
本人の年齢別 主な介護者の年齢



4.　要介護度別の抱えている傷病

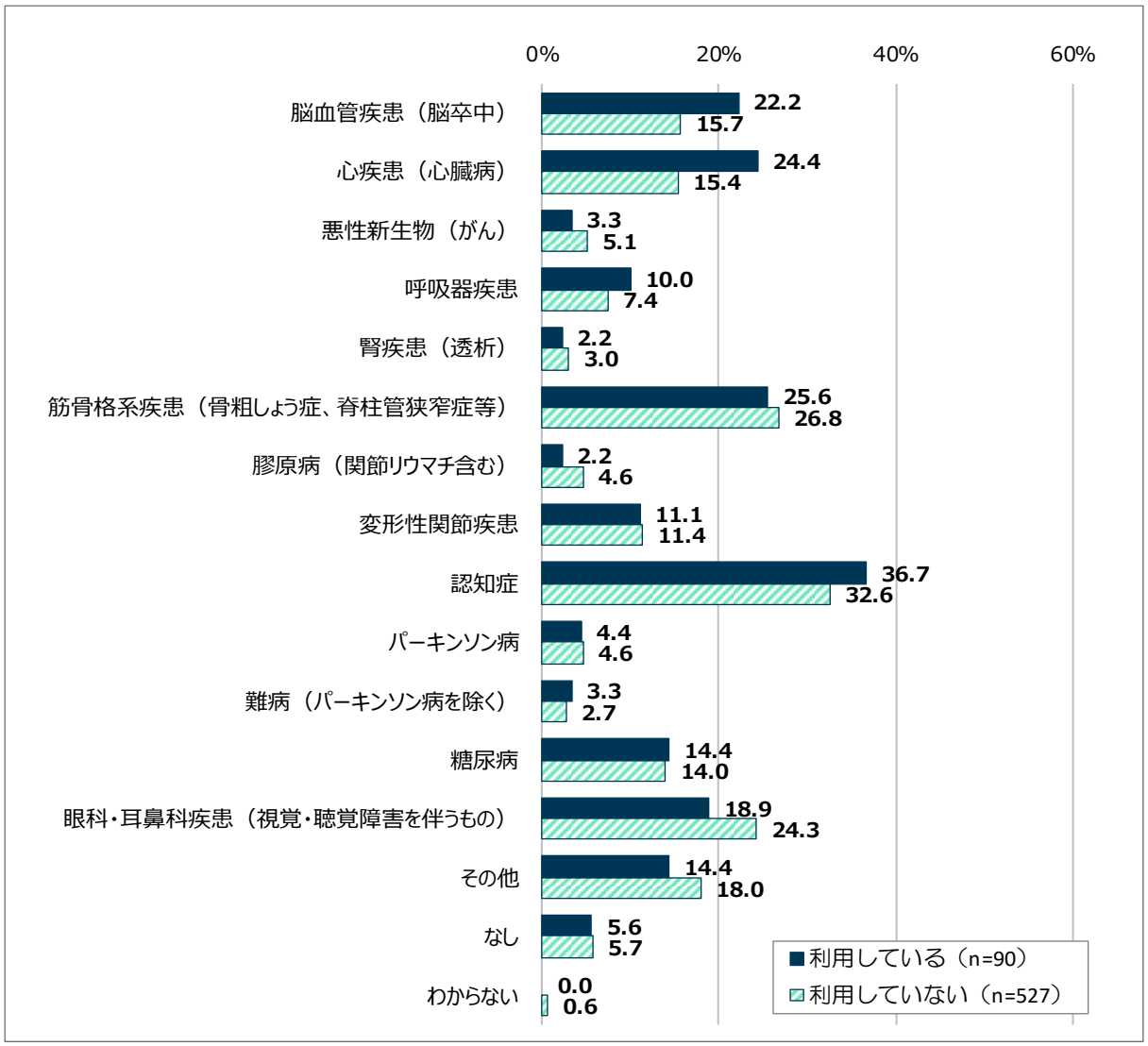
要介護度別に抱えている傷病をみると、要支援１・２では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が高くなっています。要介護１・２と要介護３以上では「認知症」の割合が最も高く、次いで要介護１・２では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、要介護３以上では「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が高くなっています。

要介護度別 抱えている傷病

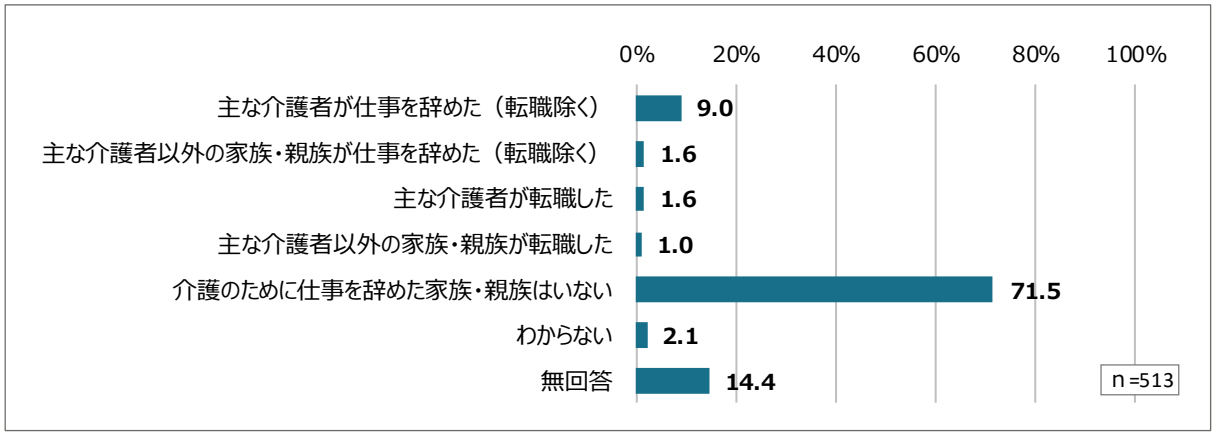


訪問診療の利用の有無別に抱えている傷病をみると、利用の有無にかかわらず「認知症」の割合が最も高く、特に利用しているでは 36.7%となっています。

訪問診療の利用の有無別 抱えている傷病



5.　介護者の離職の状況

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 71.5%と最も高くなっています。「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」割合は 9.0%、「主な介護者が転職した」割合は 1.6%となっています。

介護者の離職の状況